

# 科目ガイド

昼間部写真科



日本写真芸術専門学校

# 科目ガイド 目次

## ■ I 部 1年 必修科目

p. 1	写真表現演習Ⅰ	倉持 正実
p. 2	写真表現演習Ⅱ	馬場 智行／田 凱
p. 3	写真撮影基礎演習／ファインプリントⅠ	松井 寛泰
p. 4	フォトプレゼンテーション演習Ⅰ	フジモリメグミ
p. 5	英会話	五十嵐 太二
p. 6	社会学	渡辺 浩平
p. 7	メディア論	村上 千鶴
p. 8	現代写真論	鳥原 学
p. 9	画像処理Ⅰ	柳井 隆宏
p. 10	画像処理Ⅰ	芳田 賢明
p. 11	スタジオ演習	林 憲治
p. 12	スタジオ演習	佐藤 和恵
p. 13	ポートレート演習	林 憲治
p. 14	ポートレート演習	池谷 友秀
p. 15	写真表現基礎演習	馬場 磨貴
p. 16	写真撮影基礎演習	五十嵐 太二
p. 17	コマーシャル基礎ゼミ	赤坂 トモヒロ
p. 18	ポートレート基礎ゼミ	河野 鉄平
p. 19	ドキュメンタリー基礎ゼミ	鈴木 邦弘
p. 20	フォトクリエイティブ基礎ゼミ	馬場 智行
p. 21	異文化交流演習	小澤 敦子
p. 22	フィールドワーク	飯塚 明夫
p. 23	ムービー制作演習	小島 真也
p. 24	ダークルーム	松井 寛泰

## ■ ゼミ（2・3年次）

p. 25	総合写真研究ゼミⅠ-A	菅沼 比呂志
p. 26	総合写真研究ゼミⅠ-B	柳本 史歩
p. 27	総合写真研究ゼミⅠ-C	長野 陽一
p. 28	総合写真研究ゼミⅡ-A	鳥原 学
p. 29	総合写真研究ゼミⅡ-B	大和田 良
p. 30	総合写真研究ゼミⅡ-C	倉谷 拓朴
p. 31	FW基礎ゼミA	鈴木 邦弘
p. 32	FW基礎ゼミB	飯塚 明夫
p. 33	フォトアート基礎ゼミ	フジモリ メグミ
p. 34	フォトアートゼミナール	濱田 祐史
p. 35	コマーシャルフォトゼミ	イ キョンソン
p. 36	フォトレタッチゼミ	羽立 孝
p. 37	ファッションポートレートゼミ	倭田 宏樹
p. 38	ブライダルポートレートゼミ	安澤 剛直
p. 39	ライブステージフォトゼミ	大西 基
p. 40	ドキュメンタリーフォトゼミ	鈴木 邦弘
p. 41	フォトクリエイティブゼミ	倉持 正実
p. 42	ネイチャーフォトゼミ	飯塚 明夫
p. 43	スポーツフォトゼミ	兼子 慎一郎

## ■ I 部3年制3年次 必修科目

p. 44	画像処理Ⅲ	豊田 直之
p. 45	映像表現論	菅沼 比呂志
p. 46	フォローアップ講座	飯塚 明夫・キャリアセンター・山ノ手写真製作所・
p. 47	メディア表現論	関 貴尚
p. 48	テクニカルライティング	赤坂 トモヒロ
p. 49	映像制作演習	小島 真也
p. 50	写真読解	鳥原 学
p. 51	ファインアート演習Ⅱ	遠藤 麻衣
p. 52	フォトプレゼンテーション演習Ⅱ	篠原 俊之
p. 53	メディア表現演習Ⅲ	大槻 彩乃

## ■ I 部3年制2年次 必修科目

p. 54	画像処理Ⅱ	羽立 孝
p. 55	フォトコミュニケーション	篠原 俊之
p. 56	スタジオライティング	池谷 友秀
p. 57	写真美術史	山市 直佑
p. 58	デザイン演習	松野 正也
p. 59	写真創作演習	馬場 智行
p. 60	ファインプリントⅡ	松井 寛泰
p. 61	フィールドワークプランニング	五十嵐 太二・江澤 貴介・山市 直佑
p. 62	ディベート演習Ⅰ	藤山 新
p. 63	写真創作演習	志村 賢一
p. 64	近現代アート史	鳥原 学
p. 65	メディア論	関 貴尚
p. 66	写真表現演習Ⅲ	村越 としや
p. 67	ファインアート演習Ⅰ	松井 寛泰
p. 68	メディア表現演習Ⅰ	須田 拓也
p. 69	メディア表現演習Ⅱ	栗林 武

## ■ I 部2年制2年次 必修科目

p. 70	画像処理Ⅱ	羽立 孝
p. 71	フォローアップ講座	山ノ手写真製作所・飯塚 明夫・キャリアセンター
p. 72	写真創作演習	馬場 智行
p. 73	取材撮影演習	鈴木 邦弘
p. 74	ポートレートライティング	河野 鉄平
p. 75	スティルライフライティング	安澤 剛直
p. 76	スタジオライティング	出水 恵利子
p. 77	ヴィジュアルディレクション	片山 順平
p. 78	ヴィジュアルディレクション	ジェイ メータ
p. 79	映像表現論	きりと めでる
p. 80	映像表現論	村上 由鶴
p. 81	写真表現演習	清水 はるみ
p. 82	写真美術史	調 文明

2023

区分

必修

対象

I 部3年制1年

科目名	写真表現演習 I		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	倉持 正実		
授業概要	<p>写真を撮る！という行為は、カメラというメカニカルな道具を使い、感性を伴った眼で視た事象を記録・定着させる作業です。写真表現には様々な技法があります。それがどのように表現に関わっていくのかを実習によって学ぶ授業です。他者に伝える意図・撮影の目的を明確にし、映像化する為の基礎を身につける。それがこの授業の柱です。</p> <p>写真も身体表現です。たくさんシャッターを押して、たくさんプリントして、たくさん写真を観る事です。写真に費やした努力を、写真は裏切りません。体で憶えましょう。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	写真の主題	オリエンテーション/組み写真と単写真について/課題1『他者』発表
	2	カメラワーク	露出・ピント・WBを使った表現を知る/課題1講評
	3	カメラワーク	シャッタースピード・絞りをを使った表現を知る/課題1講評
	4	全体講評	課題1の合評/課題2『三社祭』発表（フレーム・アングル・ディスタンスを意識）
	5	撮影実習	課題2『三社祭』屋外撮影を実施
	6	撮影実習	課題2『三社祭』屋外撮影を実施
	7	全体講評	課題2『三社祭』
	8	全体講評	課題2『三社祭』
	9	講義	構図について/組み写真について
	10	レンズワーク	広角レンズ、望遠レンズを使った表現/課題3『我が町』発表
	11	中間講評	課題3『我が町』“現在”を5枚、“過去”を5枚で構成
	12	中間講評	課題3『我が町』
	13	全体講評	課題3のまとめ
	14	中間講評	前期末中間審査
	15	中間講評	前期末中間審査
後期	1	講義	/課題4発表
	2	中間講評	課題4
	3	中間講評	課題4
	4	全体講評	課題4のまとめ
	5	撮影実習	課題5『〇〇一日』屋外撮影を実施
	6	撮影実習	課題5『〇〇一日』屋外撮影を実施
	7	全体講評	課題5の合評
	8	全体講評	課題5の合評
	9	講義	/課題6発表
	10	中間講評	課題6
	11	中間講評	課題6
	12	全体講評	課題6のまとめ
	13	中間講評	進級審査課題中間審査
	14	中間講評	進級審査課題中間審査
	15	まとめ	進級審査について
評価方法	出席及び熱意 作品の完成度（写真のうまさだけでは評価しない）		
テキスト 参考書	図書館の写真集等		

2023		区分	必修	対象	I部3年制1年
科目名	写真表現演習Ⅱ				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	馬場 智行／田 凱				
授業概要	この授業では年間4つの作品を制作し、それぞれポートフォリオにまとめて提出してもらいます。作品制作を通して、撮ること・見せること・見ること・考えることを学んでいきます。継続した撮影と毎回のプリント（オンライン受講生はデータ）の提出によって、撮ることと考えることのスタミナを養います。また提出された写真をもとにディスカッションすることで、自身の作品の言語化を実践的に体験し、見せることの経験を積んでいきます。またディスカッションすることでそれぞれが取り組む作品を掘り下げ、自身とその作品との関わりを探り、より深度を持った作品の制作を目指します。これらを通して作品制作の基本を身につけていきます。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	各自の過去の作品を使って、自己紹介課題1説明		
	2	課題1スタート	各自取り組む企画の発表		
	3	課題1	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表		
	4	課題1	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表		
	5	課題1	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表		
	6	課題1	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表		
	7	課題1	15～20のプリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討		
	8	課題1	15～20のプリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討		
	9	課題1	15～20のプリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討		
	10	課題1提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを講評 課題2の説明		
	11	課題2スタート	各自取り組む企画の発表		
	12	課題2	20～30枚のテーマに沿ったプリントを発表		
	13	課題2	20～30枚のテーマに沿ったプリントを発表		
	14	課題2提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを講評 課題3の説明		
	15	課題3スタート	各自取り組む企画の発表		
後期	1	課題3	テーマに沿ったプリントを発表		
	2	課題3	テーマに沿ったプリントを発表		
	3	課題3	テーマに沿ったプリントを発表		
	4	課題3	テーマに沿ったプリントを発表		
	5	課題3	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討		
	6	課題3	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討		
	7	課題3	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討		
	8	課題3提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを講評 課題4の説明		
	9	課題4スタート	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表		
	10	課題4	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクト		
	11	課題4	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクト		
	12	課題4	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクト		
	13	課題4	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクト		
	14	課題4	プリントでポートフォリオ制作に向けたセレクトを検討		
	15	課題4提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを講評		
評価方法	課題提出、提出頻度、課題内容、出席回数				
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定				



2023		区分		必修		対象		I部3年制1年	
科目名		撮影基礎演習/ファインプリント							
開講期		前後期			単位数		3		
講師名		松井寛泰							
授業概要		基本的な撮影技術からデジタルプリント技法までを総合的に学ぶ授業です。講義と実技を交えながら一つ一つのステップで知識と技術を身につけていきます。最終的にはあらゆる技術を組み合わせて、自分が表現したい写真が撮れるようになる事を目指します。授業の進捗状況により内容を調整する事もあります。							
授業計画		回数	主題・目的	授業予定					
前期	1	ガイダンス	授業内容の説明/カメラの種類と取り扱いについて						
	2	ピント	被写体に合ったピントモードの選択						
	3	露出1	絞り、シャッタースピード、ISO						
	4	露出2	適正露出と露出補正						
	5	絞りの効果	被写界深度						
	6	シャッタースピード	長時間露光と高速シャッター						
	7	ホワイトバランス	光源の種類と色温度について						
	8	プリント	プリント出力 色空間について						
	9	講義	プリントチェック						
	10	撮影	街中スナップ/撮影のリズムを掴む						
	11	レンズ色々	焦点距離の違いによる変化/撮像素子サイズとイメージサークル						
	12	講義	プリント出力 プリントチェック 保存方法						
	13	構図1	縦位置、横位置の効果/背景の注意点/50mm撮影						
	14	撮影	フラッシュ撮影1 小型ストロボを使った撮影方法						
	15	講評	前期まとめ/3枚組み写真/プリントチェック						
後期	1	講義	前期復習 各自の後期テーマを検討						
	2	撮影	フラッシュ撮影2 小型ストロボ応用編						
	3	撮影	斜光、逆光をテーマに撮影 色を意識する						
	4	プリント	プリント出力 色の変化による印象の違い/組み写真説明						
	5	講義	露出計、三脚、4x5カメラの取り扱い						
	6	構図2	水平、垂直、アオリ、平面構成						
	7	プリント	プリントサイズによる印象の違い 作品の完成サイズとは						
	8	撮影	モノクロ撮影 光をテーマに撮影 被写体の形状を意識する						
	9	撮影	長時間露光/カメラポジション						
	10	講義	プリントチェック テーマに沿った組み写真						
	11	講義	〃						
	12	講義／撮影	これまでの授業内容の復習と応用撮影						
	13	講義／撮影	〃						
	14	講義	紙の種類 額装と保存、作品の展示方法						
	15	講評	後期まとめ/作品提出 組み写真10枚						
評価方法		出席回数/課題提出／授業態度							
テキスト 参考書		そのつど紹介します。							

2023		区分	必修	対象	I 部3年制1年
科目名	フォトプレゼンテーション演習 I				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	フジモリ メグミ				
授業概要	<p>この授業では、フォトプレゼンテーション（写真の編集や展示などの作品を見せる方法等）についての、基礎的な知識を身につけることを目指します。</p> <p>年間を通してたくさんの展示会に出向き、実際の会場で展示のを見学していきます。展示方法やプリントされた紙の違いによって、作品から受ける印象が変わっていくことを理解できるようにしましょう。</p> <p>また様式研究や額装・パネル張りなどの実習も合わせて行っていきます。8階ウォールギャラリーや校内壁面での展示を通して、意図を正確に伝えることが出来る効果的なプレゼンテーションを学びましょう。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	ガイダンス	ガイダンス/授業説明/自己紹介		
	2	実習制作	フォトスクラップの制作 持ち物ーノート・雑誌や新聞（スクラップに使用できそうな素材）・のり・はさみ/カッター		
	3	課題発表	フォトスクラップ発表・展示準備 各自5分程度の発表を想定して準備してきてください		
	4	展示作業	フォトスクラップの展示作業		
	5	実習制作	様々な展示方法を学ぶ 対象の展示会を見学 ①「TOPコレクション 光のメディア」		
	6	↓	レクチャー・マットカッターの使い方 ※各自マットを購入しておいてください		
	7	展示見学	↓・抜き寸の計算方法 ・額装の基本的な知識		
	8	↓	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ ②「井上泰幸展」（特撮）		
	9		↓それぞれのレポートの発表 / ディスカッション		
	10	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ ③「ワニがまわる タムラサトル」		
	11	↓	↓それぞれのレポートの発表 / ディスカッション		
	12	実習	額装した作品をつかって釘打ちの実習		
	13	↓	↓		
	14	実習制作	レクチャー→紙の種類によって見え方の変わるプリント・比較		
	15	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ ④「アレック・ソス 集められた落ち葉」		
後期	1	実習	↓それぞれのレポートの発表 / ディスカッション		
	2	実習	水張りの方法 ※各自木製パネルとスプレーのりを準備してください		
	3	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ ⑤「マンレイと女性たち」		
	4	↓	↓それぞれのレポートの発表 / ディスカッション		
	5	実習制作	作品のpdf化について webで作品を展示する		
	6	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ ⑥一調査中一		
	7	↓	↓それぞれのレポートの発表 / ディスカッション		
	8	講評	“写真表現演習Ⅱ”の授業で制作した作品をもとに展示プラン等の考察		
	9	↓	展示プランの作成・発表		
	10	↓	展示模型の作成		
	11	↓	展示模型の作成・発表・投票		
	12	実習制作	“写真表現演習Ⅱ”の授業で制作した作品をweb上で発表する		
	13	↓	↓		
	14		選考会・まとめ		
	15	準備	展示会の準備		
評価方法	出席率/授業態度/写真への愛情				
テキスト 参考書	必要な物は事前に連絡します。忘れ物はしないようにしましょう				

科目名	英会話		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	五十嵐 太二		
授業概要	<p>英語が話せるようになりたい。英語を使い海外で撮影したい。⇒ 絶対大丈夫！ でも、それにはまず、英語を学ぶことが楽しいと思えることが何よりも大切です。そして地道な努力と覚悟。そのきっかけを見つけてもらうのがこのクラスの目的です。写真を切り口に、とにかく声に出して英語をしゃべってもらいます。恥ずかしいなんて言っているヒマはもうありません！ レベル～中学英語程度 （備考：下記内容は学生の習熟度やレベル、コロナの状況等によって変更になる場合があります。）</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業説明、英語で自己紹介①
	2	英語総合	英語で自己紹介②
	3	英語総合	写真撮影で使う英語表現①
	4	英語総合	写真撮影で使う英語表現②
	5	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第1回目
	6	英語総合	実習の発表会①
	7	英語総合	実習の発表会②
	8	英語総合	ゲストスピーカー
	9	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第2回目
	10	英語総合	実習の発表会①
	11	英語総合	実習の発表会②
	12	英語総合	海外とオンラインでつなぎ、英語で話してみよう
	13	英語総合	前期の反省会（前期を振り返り、後期につなげる）
	14		
	15		
後期	1	英語総合	後期授業説明、休み期間にやったことを英語で説明する
	2	英語総合	日本や自国のことを英語で紹介できるようにする①
	3	英語総合	日本や自国のことを英語で紹介できるようにする②
	4	英語総合	海外とオンラインでつなぎ、英語で話してみよう
	5	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第3回目
	6	英語総合	実習の発表会①
	7	英語総合	実習の発表会②
	8	英語総合	ゲストスピーカー
	9	英語総合	写真に英語のタイトルとキャプションをつけて発表する①
	10	英語総合	写真に英語のタイトルとキャプションをつけて発表する②
	11	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第4回目
	12	英語総合	実習の発表会①
	13	英語総合	実習の発表会②
	14	英語総合	海外とオンラインでつなぎ、英語で話してみよう
	15	英語総合	有名な英語スピーチ
評価方法	出席回数、習熟度・理解度、授業態度、自助努力		
テキスト 参考書	授業配布プリント、各自所有の辞書・単語本・熟語本・文法書など		

科目名	社会学		
開講期	前後期		単位数 3
講師名	渡辺浩平		
授業概要	<p>私たちは日常のなかで「社会的なもの」を生成している。本授業では「社会的なもの」をいかに理解することができるかを考察する。前半は主に社会学の理論や各論を講義する。後半はフィールドワークや、文章、写真、動画等の制作、ディスカッションなどを通じて「社会的なもの」を内側から理解するとはどのようなことかを探究する。本授業の目標は、多様な生き方や価値観を内側から理解し、別の生き方の可能性を想像する力を身につけることである。なお、授業計画は、受講生の数や関心等に応じて変わる可能性がある。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	はじめに	社会調査法としてのフィールドワークⅠ
	2	社会学とは	社会・文化とは
	3	社会学とは	社会学的思考と概念
	4	学説史	理論と概念① 方法論的全体論
	5	学説史	理論と概念② 方法論的個人主義
	6	学説史	理論と概念③ 社会的相互行為論
	7	社会調査法	研究テーマと問題意識
	8	各論	集団とは：家族、親族、組織
	9	各論	環境と生活
	10	各論	政治と経済
	11	各論	宗教と世界観
	12	まとめ	前期まとめ
	13	テスト	前期テスト
	14		
	15		
後期	1	社会調査法	参与観察：半構造化インタビュー
	2	社会調査法	参与観察：フィールドノート
	3	社会調査法	参与観察：民族誌
	4	社会調査法	フィールドワーク計画
	5	社会調査法	フィールドワーク計画
	6	社会調査法	フィールドワーク計画
	7	社会調査法	フィールドワークの実施
	8	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	9	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	10	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	11	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	12	社会調査法	調査報告
	13	社会調査法	調査報告
	14	まとめ	後期まとめ
	15	テスト	後期テスト
評価方法	前・後期のテストと、授業内課題、授業の参画度などから総合的に評価する。		
テキスト 参考書	授業で配布・指示する。		

科目名	メディア論		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	村上由鶴		
授業概要	<p>本講義では、「メディア」について考える。  メディアというとマスメディアやソーシャルメディアなどが馴染み深いものではあるが、情報を伝達するときに空気のようにまわりついてきて、切り離すことができない要素がメディアである。そのメディアがどんなものなのか理解し、そのメディアによって社会や人々の感情がどのように動かされてきたのか考察する。そのため、本講義では、ファッション、アイドル、戦争、死、政治などを、メディア（新聞、ラジオ、テレビ、インターネットなど・・・）の視点から読み解く。  なお、本講義では、グループワークおよびオープンチャット機能を使って、授業中に質問やコメントを募集する場合がある。  本講義を履修することによって以下の能力を修得することを目指す。  1) メディア特性を知り、自らの制作に活かす。  2) メディアという観点から分析・観察する視点を獲得する。□</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	イントロ	「メディア」とは（メディアの概念・種類）
	2	講義	ファッションとメディア 1
	3	講義	ファッションとメディア 2
	4	講義	アイドルとメディア 1
	5	講義	アイドルとメディア 2
	6	講義	SNSというメディア
	7	講義	戦争とメディア 1
	8	講義	戦争とメディア 2
	9	講義	メディアと技術革新
	10	講義	死とメディア
	11	鑑賞	映画『ドントルックアップ』から考える
	12	講義	音楽とメディア
	13	授業内課題	メディアの特性について言語化する
	14		
	15		
後期	1	イントロ	前期の復習（メディアとは）
	2	講義	政治とメディア 1
	3	講義	政治とメディア 2
	4	授業内課題	ジョージ・オーウェル小説『1984年』から考える
	5	講義	スポーツとメディア 1
	6	講義	スポーツとメディア 2
	7	講義	ファンとメディア
	8	講義	恋愛とメディア
	9	講義	メディアと情動
	10	講義	アニメとメディア
	11	講義	アートとメディア 1
	12	講義	アートとメディア 2
	13	講義	差別とメディア
	14	講義	ジェンダーとメディア
	15	授業内課題	メディアに支配されないために
評価方法	授業中の出席回数、授業へのリアクション、提出課題で判断。期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられません。		
テキスト 参考書			

2023		区分	必修	対象	I 部1年生
科目名	現代写真論				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	鳥原 学				
授業概要	<p>写真は「撮る」「見る」「撮られる」という三つの要素で成り立っています。より良い写真を「撮る」ために、写真家には写真を「見る」能力と、「撮られる」側のことを考える能力が不可欠。これは、多くの写真を見ることでしか身につけません。それも自分のセンスに頼るだけではなく、ポイントを押さえて考えながら見る。現代の写真表現は非常に多様であり、使う技術や発表するメディア、なによりテーマの幅が非常に広いからです。この授業ではジャンルごとに現代写真の流れを紹介しながら、資料的な映像の鑑賞などを行い、理解を深めていきます。</p> <p>授業構成は前期が基礎として「表現とコミュニケーション」、後期が「多様な表現」をテーマとしています。テキストとして「教養としての写真全史（筑摩選書）」を使用します。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	オリエンテーション(学校でのワークショップ形式)		
	2		カメラの楽しみを知る(三葉堂写真機店)		
	3		イントロダクション「カメラとこの社会」		
	4		ポートレート「写真の社会的役割」		
	5		ポートレート「理想と現実」		
	6		スナップショット「手軽な写真」		
	7		スナップショット「” 決定的瞬間” 以降」		
	8		ビジュアルコミュニケーションの誕生「1920~30年代の映像実験」		
	9		報道とドキュメント 1「記録と宣伝」		
	10		報道とドキュメント 2「印刷メディアとジャーナリズム」		
	11		ワークショップ(写真集の見方の指南)		
	12		報道とドキュメント 3「フォトジャーナリストの主体化」		
	13		広告写真 1「消費社会の原動力」		
	14		広告写真 2「産業化と社会へのメッセージ」		
	15		広告写真 3「音楽産業の拡大と写真の影響」		
後期	1		芸術と写真①「芸術写真の可能性と限界」		
	2		芸術と写真②「ストレイトフォト」		
	3		写真展観覧		
	4		芸術と写真③「アヴァンギャルド」		
	5		芸術と写真④「日本の「芸術写真」」		
	6		芸術と写真⑤「写真表現と美術館の関係」		
	7		芸術と写真⑥「現代写真の性質」		
	8		ファッションと写真①「ライフスタイルの芸術化」		
	9		ファッションと写真②「多様性の受容」		
	10		写真と身体表現①「ヌード、ネイキッド、ポルノ」		
	11		写真と身体表現②「ヌードの変化」		
	12		写真と身体表現③「「きれいな裸」をめぐる」		
	13		ワークショップ(プリントスタディ)		
	14		自然と写真①「写真史のもうひとつの起源」		
	15		自然と写真②「生態観察と文化人類学的視点」		
評価方法	授業アンケートの質と期末のレポート課題。出席回数は厳守。 注意：アンケートや課題に不正（webからのコピペ、他人が書く）が発覚した場合、出席回数の如何にかかわらず落第とします。				
テキスト 参考書	教養としての写真全史（筑摩選書）必須。各自購入すること。				

2023		区分	必修	対象	I 部1年
科目名	画像処理 I				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	柳井 隆宏				
授業概要	Macの基本操作の習得と、デジタルカメラでの撮影を通して画像データの扱い方を学びます。主に業界標準の画像処理ソフトAdobePhotoshopとAdobeBridge、AdobeLightroomClassicを使用し、画像データの取り込みとセレクト、トーン調整、ディテール調整、部分補正や合成等の画像処理を理解しインクジェットプリンタによる写真出力の実習を通して作品作りを行います。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	授業説明	授業内容、課題などの説明。自己紹介。目標を定める。		
	2	Macの操作	MacOS、Finderを理解する。画像の取り込み。		
	3	デジタルカメラ	デジカメの基本操作、ヒストグラムを理解する。		
	4	データ管理	Bridgeによるデータ管理、データの保存。コンタクトシート作成。		
	5	プリント	インクジェットプリンタの使用法		
	6	Raw現像	Photoshopでのレタッチ。Raw現像。		
	7	階調調整	レベル補正、トーンカーブ、色相彩度を使用する。		
	8	レイヤー	調整レイヤー、レイヤーを理解する。		
	9	部分補正	写真の一部のトーンを補正する。レイヤーマスクを使用する。		
	10	画像修正	スタンプツール等を使用し修正する。		
	11	授業調整日	作品作成。未履修学生のフォロー。		
	12	画像解像度	入力、出力解像度、画素数等を理解する。		
	13	プリント	高度なプリント、プロファイルを理解する。		
	14	課題作成	前期末課題の作成。		
	15	前期まとめ	課題提出。前期のまとめ。		
後期	1	後期授業説明	前期課題の講評、後期授業のガイダンス。		
	2	選択範囲	様々な選択範囲ツールを使用して画像の一部を補正。		
	3	クイックマスク	クイックマスク、ペンタブレットを使用する。合成作品を作成する。		
	4	スキャナー	フィルムスキャンしデータ化する。		
	5	画像修正	スキャニングした画像データのゴミ取り。		
	6	デジタルカメラ	カメラの仕組み、bit数を理解する。		
	7	デジカメ撮影	ホワイトバランス、ISO感度、ピクチャースタイルを理解する。		
	8	Lightroom	LightroomClassicを使用する。		
	9	フィルター	シャープ、ぼかし、その他フィルターを使用する。		
	10	ポートレート	フィルターなどを使いこなし、ポートレート写真をレタッチする。		
	11	モノクロ表現	カラー画像をモノトーン化する。		
	12	色管理	色空間、プロファイル、CMSを理解する。		
	13	授業調整日	作品作成。未履修学生のフォロー。		
	14	課題提出	後期期末課題提出		
	15	課題講評まとめ	後期末課題講評。授業のまとめ。		
評価方法	授業の出席回数と授業内課題、期末課題を基本とし学習態度や作成作品のクオリティを考慮する。				
テキスト 参考書	オリジナルテキストをPDFファイルで配布				

2023		区分	必修	対象	I 部1年
科目名	画像処理 I				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	芳田 賢明				
授業概要	業界標準の画像処理ソフトウェアであるAdobe Photoshopを主に用い、写真家・フォトグラファーとして必要な、RAW現像～レタッチ～インクジェットプリントの基本を学びます。 撮影データを自らプリントして仕上げていく作業を繰り返し行う中で、画像処理による画づくりの基本的な知識と技術の習得を目指します。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	写真制作の概要	ワークフロー、写真制作・画像処理の考え方／演習：Mac、Bridge、Photoshopの基本操作		
	2	作業環境を整える	作業環境、機材の選び方、モニターのキャリブレーション、カラー設定、データの管理、レイヤー／演習：写真のセレクト、ゴミ消し		
	3	プリントの概要を把握する	RAW現像やレタッチを考慮した撮影、プリンターについて、用紙について、いろいろなプリントの仕方／演習：プリントしてみる		
	4	デジタル画像を理解する	RAWとJPEGの違い、保存形式、圧縮、画像の仕組み（解像度・ピクセル深度）、階調、ヒストグラム		
	5	RAW現像に慣れ、画づくりを理解する	RAW現像の基本、RAW現像とレタッチの違い、色味・調子・質感、印象と視線、記憶色・忠実色／演習：RAW現像に慣れる		
	6		評価・設計・調整のサイクル／演習：ワークシートを使いながら自己作品でRAW現像～プリントをする、JPEG撮って出しと比較する		
	7		自己作品でRAW現像～プリントをする、JPEG撮って出しと比較する		
	8	色調補整に慣れる	加法混色・減法混色、色相・彩度・明度、トーンカーブの仕組み、色調補整の基本、調整レイヤー／演習：色調補整に慣れる		
	9		ワークシートを使いながら自己作品でRAW現像～レタッチ～プリントをする		
	10	選択範囲に慣れる	選択範囲の取り方・使いどころ／演習：選択操作に慣れる		
	11		選択範囲も使い、ワークシートを使いながら自己作品でRAW現像～レタッチ～プリントをする		
	12	作品を仕上げる	これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	13		これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	14	質問・おさらい	講義・演習：質問内容に応じて		
	15	テスト	テスト：習得度の確認		
後期	1	カラーマネージメントを理解する	カラーマネージメントシステムの考え方、仕組み、実践例、観察光源、ワークフローへの応用		
	2	表現を深める	いろいろなRAW現像ソフト／演習：Lightroomの基本操作、ペンタプレットの使い方、ペンタプレットに慣れる		
	3		RAW現像の基本補正以外の活用、モノクロ表現、Photoshopフィルターの活用、プリントの外注について、入稿データ／演習：実践		
	4		演習：自己作品を仕上げる		
	5		演習：自己作品を仕上げる		
	6	ポートレート のレタッチ	肌のレタッチ、質感／演習：実践		
	7		自己作品を仕上げる		
	8	画像合成の 実践	同ポジションの合成、切り抜き合成／演習：実践		
	9		自己作品を仕上げる		
	10	画づくりを分析する	演習：好きな写真家の画づくりを分析・真似てみる		
	11	画像・プリントのみきわめ	講義：画像やプリントの不良・劣化のみきわめ／演習：仕上げ実践		
	12	作品を仕上げる	演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	13		演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	14	質問・おさらい	講義・演習：質問内容に応じて		
	15	テスト	テスト：習得度の確認		
評価方法	出席、授業内課題、期末テストをベースに、授業への取り組み、作品の完成度を加味して評価します。				
テキスト 参考書	適宜指示します。				



2023		区分	必修	対象	I 部1年
科目名	スタジオ演習				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	林 憲治				
授業概要	全ての写真は光と影で写ります。その光と影を自由にコントロールすることで自らの写真撮影に繋がり思い通りの表現が出来るようになります。この授業ではカメラの使い方は勿論のこと光源の大きさや方向で写り方が変化することを基本的にスタジオ内で学びます。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	カメラについて	デジタルカメラの使い方、フィルムカメラの種類と概要		
	2	光について	光源の大きさと光源の位置変化の違い		
	3	露出計について	光をコントロールするために必要な露出計の使い方		
	4	大型ストロボ	取り扱い方法		
	5	大型ストロボ	各自のデジタルカメラで撮影		
	6	中判カメラ	人物撮影 1灯使用		
	7	中判カメラ	人物撮影 2灯使用		
	8	4X5カメラ	アオリ等を含めた使い方の説明		
	9	調整日			
	10	調整日			
	11	デジタルカメラ	クリップオンストロボの使い方		
	12	デジタルカメラ	カメラを撮影		
	13	デジタルカメラ	カメラを撮影		
	14	パソコン	パソコンで画像処理		
	15	予備日			
後期	1	デジタルカメラ	各自好きな物を撮影		
	2	デジタルカメラ	黒デコラ板を使って撮影		
	3	デジタルカメラ	黒デコラ板を使って撮影		
	4	デジタルカメラ	水のペットボトルを撮影		
	5	デジタルカメラ	水のペットボトルを撮影		
	6	デジタルカメラ	ガラスの撮影		
	7	デジタルカメラ	ガラスの撮影		
	8	デジタルカメラ	人物撮影 バストアップ		
	9	デジタルカメラ	パソコンで画像処理		
	10	デジタルカメラ	人物撮影 全身		
	11	デジタルカメラ	モデルの撮影		
	12	デジタルカメラ	見本からライティングを読み出して再現する		
	13	デジタルカメラ	見本からライティングを読み出して再現する		
	14	デジタルカメラ	見本からライティングを読み出して再現する		
	15	予備日			
評価方法	出席状況、課題、授業態度等				
テキスト 参考書					

2023	区分	必修	対象	I 部1年
科目名	スタジオ演習			
開講期	前後期		単位数	3
講師名	佐藤 和恵			
授業概要	スタジオ演習ではプロを志す人が撮影において必要となる、基本的な光の種類やライティング・撮影までのプロセスを1年生で覚えなければならない基礎的な知識と技術を中心に、順序立てて学んでいきます。実習では撮影機材の種類から使い方までを年間を通じて学習し、自分自身の写真表現に結びつく、フレームワーク・ライティング方法・露光の調整・イメージ作りなどを実習を通して身に付けていきます。生徒一人一人が興味の持てる授業内容にし、個々の相談にも対応していきます。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	オリエンテーション	年間説明、カメラの使い方、カメラの種類	
	2	写真基礎①	撮影に必要な基礎的な知識の説明①	
	3	写真基礎②	撮影に必要な基礎的な知識の説明②	
	4	スタジオ機材の扱い方①	スタジオ撮影に使用する機材の種類と説明	
	5	スタジオ機材の扱い方②	大型ストロボの使い方	
	6	光について①	露出計を使用した露出の考え方	
	7	光について②	光の種類を知って、光をコントロールする①	
	8	光について③	光の種類を知って、光をコントロールする②	
	9	光について④	光の質感について①	
	10	光について⑤	光の質感について②	
	11	撮影環境を整える	撮影環境の整え方、テザー撮影について	
	12	商品撮影の種類①	商品撮影の種類とその方法①	
	13	商品撮影の種類②	商品撮影の種類とその方法②	
	14	商品撮影の種類③	商品撮影の種類とその方法③	
	15	前期のまとめ	前期のまとめ、スタジオ演習授業内テスト	
後期	1	イメージを表現する①	シズル感の表現とイメージ構成 スイーツ編①	
	2	イメージを表現する②	シズル感の表現とイメージ構成 スイーツ編②	
	3	イメージを表現する③	朝ごはん編	
	4	クリップオンストロボ①	クリップオンストロボ 基礎編	
	5	クリップオンストロボ②	クリップオンストロボ 応用編	
	6	イメージを表現する④	化粧品編① 映り込み	
	7	イメージを表現する⑤	化粧品編② シズル	
	8	イメージを表現する⑥	靴編	
	9	合成を考えた撮影①	合成を前提とした撮影を考える	
	10	合成を考えた撮影①	合成を前提とした撮影を考える	
	11	広告制作①	グループに分かれての広告制作①	
	12	広告制作②	グループに分かれての広告制作②	
	13	広告制作③	グループに分かれての広告制作③	
	14	広告制作④	グループに分かれての広告制作④	
	15	後期のまとめ	後期のまとめ、スタジオ演習 授業内テスト	
評価方法	各実習製作に於ける提出作品、理解力、積極性、授業態度による絶対評価			
テキスト 参考書				

2023		区分	必修	対象	I 部1年
科目名	ポर्टレート演習				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	林 憲治				
授業概要	<p>この授業では人をどのように撮影すれば良いのかを学んでいきます。 光の使い方、光源の大きさなど、思い通りの写真が撮れるようにライティングを学びます。 人に対してどのようなタイミングでシャッターを切れば良いのかを体験し身につけることと、普段何気なく見ている写真から光を読み出せる様になればそのライティングを再現できるようになります。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	実習	光源の方向と大きさの変化 露出計の使い方		
	2	実習	1灯ライティング 大型ストロボの使い方 露出計の使い方 バストアップ撮影		
	3	実習	1灯ライティング レフ板を使用 バストアップ撮影 背景の明るさコントロール		
	4	実習	2灯ライティング バストアップ撮影		
	5	実習	2灯ライティング 黒バック バストアップ撮影		
	6	実習	3灯ライティング 全身撮影		
	7	実習	3灯ライティング 全身撮影 エッジの変化		
	8	実習	LEDを使用する		
	9	実習	LEDを使用しシャッター速度の変化を確認する		
	10	実習	3灯ライティング、バストアップの撮影		
	11	実習	横からのライティング、バックの明るさのコントロール		
	12	実習	横からのライティング、バックの明るさのコントロール		
	13	実習	モデルの撮影		
	14	実習	前期の復習		
	15	実習	前期の復習		
後期	1	実習	1灯ライティング、面光源 バストアップ		
	2	実習	1灯ライティング、面光源 全身		
	3	実習	自由にライティング		
	4	実習	屋外撮影 レフ板を使って撮影		
	5	実習	復習・作品撮影		
	6	実習	6人程度のグループ分けをして、各班で見本になる写真からライティングを読み出し、スタジオで再現していきます。普段見ている人物写真の中で好きなライティングを各自パソコンやスマートフォンに保存して下さい。		
	7	実習			
	8	実習			
	9	実習			
	10	実習	復習・作品撮影		
	11	実習	復習・作品撮影		
	12	実習	モデルの撮影		
	13	実習	復習・作品撮影		
	14	実習	後期の復習		
	15	実習	後期の復習		
評価方法	出席状況、課題、授業態度等				
テキスト 参考書					

2023

区分

必修

対象

I 部1年

科目名	ポートレート演習		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	池谷 友秀		
授業概要	全ての写真は光と影で写ります。その光と影を自由にコントロールすることで自らの写真撮影に繋がり思い通りの表現ができるようになります。この授業ではカメラの使い方は勿論のこと光源の大きさや方向で写り方が変化することを基本的にスタジオ内で学びます。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	機材の使い方	カメラ、スタジオ機材の名称使い方
	2	レンズ	カメラの基礎、レンズの画角
	3	露出計	光をコントロールするために必要な露出計、カラーメーターの使い方
	4	露出計	光量と露出
	5	ライティング	光源の大きさによる違い
	6	ライティング	円と球
	7	ライティング	外で人物撮影
	8	ライティング	課外授業で撮影した人物撮影の再現 自然光の作り方
	9	ライティング	外で人物撮影
	10	ライティング	課外授業で撮影した人物撮影の再現 自然光の作り方
	11	ライティング	外で人物撮影
	12	ライティング	課外授業で撮影した人物撮影の再現 自然光の作り方
	13	ライティング	機材による光の違い
	14	ライティング	グラデーション の作り方
	15	ライティング	グラデーション の作り方
後期	1	撮影流れ	ポートレート撮影リファレンス
	2	撮影練習	ポートレート テスト撮影
	3	撮影	ポートレート本番撮影
	4	撮影流れ	ビューティー リファレンス
	5	撮影練習	ビューティー テスト撮影
	6	撮影	ビューティー本番撮影
	7	撮影流れ	ファッション リファレンス
	8	撮影練習	ファッションテスト撮影
	9	撮影	ファッション本番撮影
	10	撮影流れ	ムービングイメージ リファレンス
	11	撮影練習	ムービングイメージ テスト撮影
	12	撮影	ムービングイメージ 本番撮影
	13	撮影流れ	自由課題 リファレンス
	14	撮影練習	自由課題 テスト撮影
	15	撮影	自由課題 本番撮影
評価方法	出席状況、課題、授業態度等		
テキスト 参考書			

科目名	写真表現基礎演習		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	馬場 磨貴		
授業概要	<p>写真を撮る！という行為は、カメラというメカニカルな道具を使い、感性を伴った眼で視た事象を記録・定着させる作業です。写真表現には様々な技法があります。それがどのように表現に関わっていくのかを実習によって学ぶ授業です。他者に伝える意図・撮影の目的を明確にし、映像化する為の基礎を身につける。それがこの授業の柱です。</p> <p>写真も身体表現です。たくさんシャッターを押して、たくさんプリントして、たくさん写真を観る事です。写真に費やした努力を、写真は裏切りません。体で憶えましょう。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	写真の主題	オリエンテーション/組み写真と単写真について/課題1『他者』発表
	2	カメラワーク	露出・ピント・WBを使った表現を知る/課題1講評
	3	カメラワーク	シャッタースピード・絞りをを使った表現を知る/課題1講評
	4	全体講評	課題1の合評/課題2『三社祭』発表（フレーム・アングル・ディスタンスを意識）
	5	撮影実習	課題2『三社祭』屋外撮影を実施
	6	撮影実習	課題2『三社祭』屋外撮影を実施
	7	全体講評	課題2『三社祭』
	8	全体講評	課題2『三社祭』
	9	講義	構図について/組み写真について
	10	レンズワーク	広角レンズ、望遠レンズを使った表現/課題3『我が町』発表
	11	中間講評	課題3『我が町』“現在”を5枚、“過去”を5枚で構成
	12	中間講評	課題3『我が町』
	13	全体講評	課題3のまとめ
	14	中間講評	前期末中間審査
	15	中間講評	前期末中間審査
後期	1	講義	/課題4発表
	2	中間講評	課題4
	3	中間講評	課題4
	4	全体講評	課題4のまとめ
	5	撮影実習	課題5『〇〇一日』屋外撮影を実施
	6	撮影実習	課題5『〇〇一日』屋外撮影を実施
	7	全体講評	課題5の合評
	8	全体講評	課題5の合評
	9	講義	/課題6発表
	10	中間講評	課題6
	11	中間講評	課題6
	12	全体講評	課題6のまとめ
	13	中間講評	進級審査課題中間審査
	14	中間講評	進級審査課題中間審査
	15	まとめ	進級審査について
評価方法	出席及び熱意 作品の完成度（写真のうまさだけでは評価しない）		
テキスト 参考書	図書館の写真集等		

科目名	写真撮影基礎演習		
開講期	前期	単位数	1.5
講師名	五十嵐 太二		
授業概要	<p>写真を通して人に何かを伝えるには、被写体の状態を的確に捉え、最適な機材の選択と設定が必要になります。この授業は表現そのものではなく、自分が伝えたい内容を表現するための基本的な撮影技術、カメラやレンズなど機材の特性を理解すること、そして将来、様々な分野に進むために不可欠となる技術的土台を作ることを目的とします。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	カメラの点検	オリエンテーション。カメラの点検法・実写
	2	カメラの仕組	一眼レフの仕組みと特性・写真の三大失敗
	3	露出① 絞り	適正露出、絞りの表現効果、被写界深度
	4	露出② シャッター	シャッタースピードの効果、相反則
	5	露出③	EV、露出補正、ヒストグラムの見方
	6	フラッシュ①	同調速度、GN、調光、ストロボを使用した様々な撮影法
	7	フラッシュ②	同調速度、GN、調光、ストロボを使用した様々な撮影法
	8	画面構成①	構図、画面構成（アングル、ポジション、ディスタンス）
	9	画面構成②	レンズの効果・画角とパース・焦点距離、前期のまとめ
	10	作品講評	撮影技術の基礎を確認
	11	写真用品解説	フィルターの種類と使い方、三脚の使用法と選び方
	12	光源と色①	光の種類、ライティングポジション（順光、逆光、斜光etc）
	13	光源と色②	デジタルカメラの特性、WBの解説
	14	撮影マナー	撮影時のマナーやルール
	15	まとめ	不明点等をクリアにする
後期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
評価方法	出席、習熟度、課題作品、授業態度などを総合的に評価。		
テキスト 参考書	授業内で配布します。		

2023		区分		必修		対象		I 部2年制1年 選択者	
科目名		コマーシャル基礎ゼミ							
開講期		後期			単位数		1.5		
講師名		赤坂 トモヒロ							
授業概要		この授業では、デジタルカメラを使用しての基本的なスタジオワークおよび商品撮影のライティングや撮影の流れを学びます。商品撮影の基本である同時に技術的要素がすべて詰まった切り抜き撮影を中心に進めていきますが、講師のよるデモ撮影を随時行い、撮影の流れをイメージしやすいようにしつつ、学生の習熟度に応じて柔軟に授業内容を変えていく予定です。							
授業計画		回数	主題・目的	授業予定					
前期	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
	11								
	12								
	13								
	14								
	15								
後期	1	オリエン他	授業概要の説明等。学生の習熟度をみるために簡単な撮影を実施。						
	2	デモ撮影	缶コーヒーの切り抜き撮影を講師が実演しながら撮影の流れ等を説明。						
	3	切り抜き基礎1	缶コーヒーの切り抜き撮影を通じてメインライト、サブライト、レフ板の意味や使い方を学ぶ。						
	4								
	5								
	6	切り抜き基礎2	チューブの切り抜き撮影を通じて缶との違いと、エッジの黒シメ処理を学ぶ。						
	7								
	8								
	9	切り抜き基礎3	ペットボトルや酒瓶など、透過物を撮影方法を学ぶ。						
	10								
	11								
	12	角版と切り抜きの応用	角版撮影と、角版で撮影した商品を別途切り抜き撮影して合成する手法を学ぶ。						
	13								
	14								
	15	課題撮影	講師の提示する課題作品を模写する						
評価方法		出席および都度の課題							
テキスト 参考書									

2023		区分		必修		対象		I 部2年制1年 選択者	
科目名		ポ <sup>○</sup> ートレート基礎ゼミ							
開講期		後期			単位数		1.5		
講師名		河野 鉄平							
授業概要		ポートレート撮影の基礎だけでなく、その考え方や写真制作のプロセスなども含めて総合的に学んでいきます。仲間を被写体に、またはモデル撮影実習を通じて、後期の最後にはポートフォリオを提出し、ポートレート撮影に対する考えを深めていきます。							
授業計画		回数	主題・目的		授業予定				
前期	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
	11								
	12								
	13								
	14								
	15								
後期	1	オリエンテーション	ポートレートとは何か						
	2	撮影テクニックの基礎1	カメラの基本操作						
	3	撮影テクニックの基礎2	レンズでバリエーションを増やす						
	4	撮影テクニックの基礎3	光の選択について						
	5	撮影テクニックの基礎4	背景の要素について 実習の準備						
	6	モデル撮影実習	撮影実習						
	7	振り返り、写真講評	振り返り、講評						
	8	ポートレート考える1	ストーリーを組み立てる						
	9	ポートレート考える2	撮影イメージを固める						
	10	ポートレート考える3	バリエーションを考える						
	11	モデル撮影実習	撮影実習						
	12	振り返り、写真講評	振り返り、講評						
	13	ポートレート考える4	コミュニケーションを取る						
	14	モデル撮影実習	撮影実習						
	15	制作発表	まとめ						
評価方法		授業態度、実習での課題提出							
テキスト 参考書									



2023		区分		必修		対象		I 部2年制1年 選択者	
科目名		ドキュメンタリー基礎ゼミ							
開講期		後期			単位数		1.5		
講師名		鈴木 邦弘							
授業概要		2年次のゼミ選択に向けて、自分の適正を図るためのプレゼミとなる授業です。 現在のドキュメンタリー写真は、ルポルタージュ写真（フォトジャーナリズム）だけではなく、写真の美しさだけ見ればまるでアート写真のような作品が沢山あります。実際、アートとドキュメンタリーが非常に接近し、その境界もあいまいになっています。しかし、そのテーマは社会性を意識したものが多く、複雑な現代の時代性をいかに撮り込むかと多くの写真家たちが悪戦苦闘しています。この授業では、前半5回の授業で1950年代から現在までの写真の大きな流れを写真集をみて学びます。その後、自分で決めたテーマを撮影してもらい、合評の時にテーマにそった制作途中の作品を提示し、作品に対する意見を内容と形式の両面から全員で検討し、そこでの意見を参考に再撮してもらいます。このようなことを繰り返し、最終的には15枚から20枚の作品を提出してください。成績は作品の点数で決定します。							
授業計画		回数	主題・目的	授業予定					
前期	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
	11								
	12								
	13								
	14								
	15								
後期	1	授業説明	授業内容、授業予定、テーマ相談など。						
	2	写真集	1950年代 パブリックな視線からプライベートな視線へ						
	3	写真集・発表	1960年代 コンテンポラリー、ニュードキュメンツ・テーマ発表						
	4	写真集	1970年代 ニューカラー、ニューとポグラフ、タイポロジーの写真家たち						
	5	写真集	1980・90年代 メイキングフォト、プライベートフォトの写真家たち						
	6	写真集	2000年代 ドキュメンタリー写真の現在						
	7	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。						
	8	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。						
	9	合評	テーマにそった世咲く途中の作品を持参する。						
	10	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。						
	11	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。						
	12	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。						
	13	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。						
	14	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。						
	15	作品審査	シリーズにした作品15から20枚を提出すること（完成した作品）採点を行う						
評価方法		授業の提出作品の採点の結果を評価とする。出席状況も考慮します。							
テキスト 参考書									

2023

区分

必修

対象

I 部2年制1年  
選択者

科目名	フォトクリエイティブ基礎ゼミ		
開講期	後期	単位数	1.5
講師名	馬場 智行		
授業概要	この授業では後期を通して二つ作品を制作し、それらをポートフォリオにまとめてもらいます。制作を通して、撮ること、見せること、自分の作品を言語化すること、毎週の講評とディスカッションを通してこれを繰り返し、作品制作のノウハウを実践的に身に付けていきます。また仲間の作品と写真集を見て、ディスカッションすることで、写真による表現について考察し、その理解を深めていきます。1年次における作品制作の基礎固めと、表現力と想像力を鍛えることがこの授業の目的です。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	企画発表	各自取り組むテーマの検討
	2	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	3	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	4	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	5	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	6	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	7	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	8	課題提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを提出
	9	企画発表	各自取り組むテーマの発表
	10	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	11	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	12	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	13	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	14	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	15	課題提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを提出
評価方法	課題提出、提出頻度、課題内容、出席回数		
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定		

2023		区分	必修	対象	I 部1年 留学生
科目名	異文化交流演習				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	小澤 敦子・教務課				
授業概要	<p>この授業の目的は、日本語で写真を学習をしようとする際に、直接的には語られない暗黙知を知ること で、より深く写真についての知識を深めることができるようになることです。暗黙知とは、その文化や風 習、習慣に起源をもつことが多くあります。そのため、日本の文化に対する疑問や母国との違いなどを 考えながら学ぶことで、日本での日常生活だけではなく学習や就職に繋がる理解を深めることにつな がります。また、日本文化の知識の習得以外にも、「読む・聞く・話す・書く」の日本語4技能を高めてい くことにも重点をおいていきます。授業の進め方は、発話を中心としたグループワークと、一週間ごとに 学生個々人の質問、疑問を集め、アクティブラーニングを通じて課題解決をすることの二点を中心に 行っていきます。</p> <p>授業の状況によって内容を変更することがあります。適宜Swingにて内容の整理をします。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	自己紹介	グループワーク: 自分史を気持ちを通して振り返る/自己紹介の準備		
	2	自己紹介	自己紹介／一週間で出会った日本語の疑問		
	3	他己紹介	ペアを他者に紹介する／一週間で出会った日本語の疑問②		
	4	事務手続	ビザの更新について／在留資格について(教務課)		
	5	文化比較	日本の文化と自国の文化の違いをプレゼン(準備)／一週間で出会った日本語の疑問③		
	6	文化比較	日本の文化と自国の文化の違いをプレゼン(発表)／一週間で出会った日本語の疑問④		
	7	文化比較	日本の文化と自国の文化の違いをプレゼン(発表)／一週間で出会った日本語の疑問⑤		
	8	復習	復習・ディスカッション／一週間で出会った日本語の疑問⑥		
	9	文化比較	日本文化について(講義～ディスカッション)／一週間で出会った日本語の疑問⑦		
	10	文化比較	日本文化について(講義～ディスカッション)／一週間で出会った日本語の疑問⑧		
	11	復習	復習・ディスカッション／一週間で出会った日本語の疑問⑨		
	12	レポートの書き方	レポートの正しい書き方(講義～演習)		
	13	レポートの書き方	ペアとレポートを添削(演習)		
	14	文化比較	日本の文化と自国の文化の違いをレポート(準備)／一週間で出会った日本語の疑問⑩		
	15	レポート	レポート作成、提出		
後期	1	前期末振り返り	前期末レポート輪読		
	2	文化比較	日本の文化と自国の文化の違いをプレゼン(準備)／一週間で出会った日本語の疑問⑪		
	3	文化比較	日本の文化と自国の文化の違いをプレゼン(発表)／一週間で出会った日本語の疑問⑫		
	4	文化比較	日本の文化と自国の文化の違いをプレゼン(発表)／一週間で出会った日本語の疑問⑬		
	5	復習	復習・ディスカッション／一週間で出会った日本語の疑問⑭		
	6	文書作成	写真ポートフォリオの文章作成(輪読～添削)		
	7	ビジネス	ビジネス文書、敬語、挨拶／一週間で出会った日本語の疑問⑮		
	8	ビジネス	ビジネス文書、敬語、挨拶／一週間で出会った日本語の疑問⑯		
	9	ビジネス	面接の文化／一週間で出会った日本語の疑問⑰		
	10	文書作成	写真ポートフォリオの文章作成(輪読～添削)		
	11	レポートの書き方	レポートの正しい書き方②(講義～演習)		
	12	レポートの書き方	ペアとレポートを添削(演習)		
	13	文化比較	日本の文化と自国の文化の違いをレポート(準備)／一週間で出会った日本語の疑問⑩		
	14	レポート	レポート作成、提出		
	15	まとめ	まとめ		
評価方法	出席、授業への参加度、テストにより評価				
テキスト 参考書	適宜指示します。				

2023		区分	必修	対象	I 部3年制1年 FWゼミ
科目名	フィールドワーク				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	飯塚 明夫				
授業概要	この授業では3年次のアジア撮影取材に向けて、基礎的なフォトルポルタージュの制作方法の習得を目的とする。前期授業の取材対象は「多摩川」。上流域、中流域、下流域の3つに分け「川と人」をキーワードにフォトルポルタージュを制作する。後期授業の取材対象は「エスニックタウン：摩擦と共生」。東京周辺に存在する様々なエスニックタウンの中から一か所を選び、各学生が設定した対象を取材し、写真と文章を組み合わせたルポルタージュの制作を行う。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	①授業内容の説明、②叙事写真と抒情写真		
	2	写真表現 (1)	写真の力 (記録・伝達・表現) とフォトルポルタージュについて		
	3	多摩川 (1)	多摩川の基本情報を調べる (1) : 上流、中流、下流		
	4	写真表現 (2)	アフリカ取材① : 西アフリカ		
	5	多摩川 (2)	写真合評①中流域 (2Lプリント、20枚～)		
	6	写真表現 (3)	アフリカ取材② : 北アフリカ		
	7	多摩川 (3)	写真合評②下流域 (2Lプリント、20枚～)		
	8	写真表現 (4)	アフリカ取材③ : 東アフリカ		
	9	多摩川 (4)	写真合評③上流域 (2Lプリント、20枚～)		
	10	写真表現 (5)	アフリカ取材④ : 南部アフリカ		
	11	多摩川 (5)	多摩川、集中取材域の検討・決定		
	12	写真表現 (6)	組写真を考える : 写真のセレクトと構成		
	13	多摩川 (6)	多摩川 : 10枚の組写真 (A4プリント、タイトル、報告文400字) を考える①		
	14	多摩川 (7)	多摩川 : 10枚の組写真 (A4プリント、タイトル、報告文400字) を考える②		
	15	プレゼンテーション	多摩川 : 発表 (A4プリント10枚、タイトル、報告文400字) まとめ		
後期	1	オリエンテーション	後期授業説明、東京周辺のエスニックタウン、情報収集		
	2	エスニックタウン (1)	エスニックタウン、取材地検討 (2~3か所)		
	3	エスニックタウン (2)	取材地、ロケハン報告①		
	4	エスニックタウン (3)	取材地、ロケハン報告②		
	5	エスニックタウン (4)	写真合評①エスニックタウン (2Lプリント、20枚～)		
	6	エスニックタウン (5)	写真合評②エスニックタウン (2Lプリント、20枚～)		
	7	写真表現 (7)	「捕鯨」を巡る価値観の対立① : ドキュメンタリー映画「コープ」		
	8	写真表現 (8)	「捕鯨」を巡る価値観の対立② : NHKドキュメンタリー「クジラと生きる・太地町」		
	9	エスニックタウン (6)	写真合評③エスニックタウン (2Lプリント、20枚～)		
	10	エスニックタウン (7)	写真合評④エスニックタウン (2Lプリント、20枚～)		
	11	写真表現 (9)	写真表現と文章表現 : エスニックタウン報告文600字		
	12	エスニックタウン (8)	写真合評⑤エスニックタウン (2Lプリント、20枚～)		
	13	エスニックタウン (9)	エスニックタウンの8枚組を構成する① (A4プリント、タイトル、報告文600字)		
	14	エスニックタウン (10)	エスニックタウンの8枚組を構成する② (A4プリント、タイトル、報告文600字)		
	15	プレゼンテーション	エスニックタウン、発表 (A4プリント8枚、タイトル、報告文600字) 、まとめ		
評価方法	課題作品のレベル重視 (80%) であるが、課題に取り組む姿勢や出席率 (計20%) も考慮する。				
テキスト 参考書	「The family of Man」、セバスチャン・サルガド写真集、野町和嘉写真集、林典子写真集、現代写真論 (シャーロット・コットン)、ステーブ・マッカーリー写真集等				

2023	区分	必修	対象	I 部1・2年PA選択 必修／選択
科目名	ムービー制作演習			
開講期	前後期	単位数	3	
講師名	小島 真也			
授業概要	ムービーや映像ではなく「動画」と言われ、撮ることも観ることも身近になった昨今、写真家にもスチルだけではなくムービーの感覚が要求されている。 スチル（写真）とムービー（動画）では、コンテンツを制作する上で多くの違いがある。 本講座では、タイプの異なる3つのテーマを実際に制作することでムービーの理解を深めることを目的とする。 1. ミュージックビデオ（楽曲は自由） 2. 対談コンテンツ（TV番組、YouTube風） 3. コマーシャル ムービー（15～30秒） ※校内デジタルサイネージによる発表＆投票を企画中			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	概 論	ムービー制作のワークフロー＋ムービー基礎知識＋撮影の基本設定	
	2	ミュージックビデオ	制作方法とMV構成（メモ、コンテ）	
	3		収録（スタジオ、自宅など）	
	4		編集/Premiere Proの基本	
	5		編集基本（MVのセオリー、カラコレ）	
	6		編集実習	
	7		講評	
	8	映像技術の基礎	撮影の基礎	
	9		ライティング基礎	
	10		録音の基礎	
	11	対談コンテンツ （グループ制作）	対談コンテンツの企画	
	12		対談コンテンツの構成（1）	
	13		対談コンテンツの構成（2）／構成台本作成	
	14			
	15			
後期	1	対談コンテンツ （グループ制作）	収録前準備/技術確認と役割分担	
	2		収録（スタジオ）	
	3		編集実習（1）	
	4		編集実習（2）	
	5		講評	
	6	コマーシャル ムービー 学内サイネー ジ発表	企画（1）	
	7		企画（2）	
	8		構成（1）/ナレーション原稿も	
	9		構成（2）	
	10		台本（画コンテ）作成	
	11		撮影技術の確認（つながる画を撮る、クロマキー合成）	
	12		収録（1）/スタジオ他	
	13		収録（2）/スタジオ他	
	14		編集実習（BGMなど）	
	15		講評	
評価方法	制作過程での取り組みと提出課題、仕上がり評価			
テキスト 参考書	SchooSwingにて、レジュメをプレビュー			

2023

区分

必修／選択

対象

I 部1年FW・PA  
必修／選択

科目名	ダークルーム		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	松井 寛泰		
授業概要	この授業は伝統的な銀塩モノクロプリントの授業です。モノクロフィルムを使い、撮影、現像、プリントまでの技術を習得し、デジタル・銀塩問わず幅広い意味での写真の見せ方や伝え方を考察・体得することを目的とした授業です。前期ではモノクロフィルムの現像からプリントまでの流れを把握し、写真表現の基礎を学んでいきます。前期、後期共に撮影課題に沿った作品作りを行ってもらいます。授業内容は基本的に暗室での実技が中心になります。また履修者の習熟度などにより一部進行に変化が生じる場合があります。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	機材説明 プリント手順 オリジナルプリントとは/撮影
	2	講義	フィルム現像デモンストレーション/リールに巻く練習/機材
	3	現像	フィルム現像
	4	講義	プリントデモンストレーション/コンタクト/引き延ばし/機材
	5	プリント	コンタクトプリント
	6	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整1
	7	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整2
	8	現像	フィルム現像
	9	プリント	焼き込み/覆い焼き
	10	プリント	コントラストコントロール
	11	現像	フィルム現像
	12	プリント	プリント
	13	講義	前期のまとめ/前期課題講評
	14		
	15		
後期	1	ガイダンス	後期の授業の流れについて/後期課題について
	2	現像	フィルム現像
	3	プリント	プリント作業
	4	特殊技法	ソラリゼーション
	5	プリント	プリント作業
	6	プリント	プリント作業
	7	講義	スポッティング/サイアナタイプ説明
	8	講義	サイアナタイプ
	9	プリント	プリント作業
	10	プリント	プリント作業
	11	現像	フィルム現像
	12	プリント	プリント作業
	13	プリント	プリント作業
	14	プリント	プリント作業
	15	講評	後期課題講評
評価方法	出席日数/提出物/授業態度を総合的に評価します。		
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

I 部3年制3年  
総合写真研究ゼミA

科目名	総合写真研究ゼミⅡ-A		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	鳥原 学		
授業概要	<p>3年間の集大成として作品を仕上げることを目的とします。そのさい大切なのは、指示された設定した課題ではなく、何をつくり、どのように発表するかなどを自分で決めていくことです。そこで最も大切なのは制作動機を明確にすることです。講師はその過程を検証して、必要な知識と助言、ときに課題を与え、受講生は的確な表現力と言語的な理解を獲得していきます。このコミュニケーションの反復によってしか、自身の可能性を発見し限界を超えることはできません。クリエイターに求められるのは、さまざまな制約のなかで適切さと個性とを発揮することです。</p> <p>本ゼミの目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの二年間で自分が学んできたこと、身につけた力を確認し「集大成」としての作品を完成させる。</li> <li>・自主的な発表を計画し、多くの人に自作を見せる機会をつくる。</li> <li>・自身の意図や目的を論理的に伝え、また感情に訴える力をつける</li> </ul> <p>達成するため学生には以下を課します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の写真の提出。</li> <li>・クラスメイトの作品についての解釈をしっかりと述べる。</li> <li>・休む場合は事前連絡</li> <li>・写真に関する書籍（任意）を購入し、授業内での概要の解説。</li> </ul>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	それぞれのこれまでの写真、課題写真を振り返る
	2	テーマ設定	各自のテーマ設定①（前期目標への動機と方法論）
	3	テーマ設定	各自のテーマ設定②
	4	仮説①	プロトタイプの制作と検討
	5	仮説②	プロトタイプの制作と検討
	6	考 察	写真の言葉を読む①
	7	実践と検証	素材としての写真をつくる
	8	実践と検証	素材としての写真をつくる
	9	実践と検証	素材としての写真をつくる
	10	考 察	写真の言葉を読む②
	11	制 作①	素材を構成し作品化する
	12	制 作②	素材を構成し作品化する
	13	制 作③	素材を構成し作品化する
	14	プレゼン	期末作品のゼミ内審査
	15	プレゼン	期末作品のゼミ内審査
後期	1	テーマ設定	各自のテーマ設定①（後期目標）
	2	テーマ設定	各自のテーマ設定②
	3	仮説①	プロトタイプの制作と検討
	4	仮説②	プロトタイプの制作と検討
	5	考 察	写真の言葉を読む
	6	実践と検証	素材としての写真をつくる
	7	実践と検証	素材としての写真をつくる
	8	展 開	展示について考える（作品の空間的展開）
	9	制 作	素材を構成し作品化する
	10	制 作	素材を構成し作品化する
	11	展 開	展示プランの具体化と決定
	12	展 開	展示プランの具体化と決定
	13	展 開	展示プランの具体化と決定
	14	プレゼン	期末作品のゼミ内審査
	15	プレゼン	期末作品のゼミ内審査
評価方法	期末審査の状況。作品の制作態度（動機の強さ、粘り強さ、丁寧さ、検証態度）		
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

I 部3年制3年  
総合写真研究ゼミB

科目名	総合写真研究ゼミ II-B		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	大和田 良		
授業概要	年間を通して卒業／進級制作の検討を行うと共に、写真表現の基本となる制作の過程とテーマやアイデアの発想力、また表現を支えるための技術について課題制作を通じて学んでいきます。年間を通して自主的なテーマに基づいた写真を撮り、作ることから自身の作品制作の本質を探り、合評等で他者の作品を観ながら考察を行うことで、客観的な判断力と言葉の訓練を重ねてみましょう。「新しい写真とはなにか」「新しい表現とはなにか」を軸に、それぞれの学生諸君がなぜ、なにを、どのように撮りたいのかをより深く掘り下げていきたいと思います。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		ガイダンス / 年間制作についての検討／中期課題「新しい生活」
	2		補助資料調査（校外演習）
	3		年間制作補助資料調査報告／Adobe Portfolio制作
	4		課題1「コラージュ（アナログ）」
	5		課題2「コラージュ（デジタル）」
	6		課題1・2 講評／年間制作検討／中期課題検討
	7		課題3「連続発光による動体撮影」
	8		課題4「鏡と窓」
	9		課題3・4 講評／年間制作検討／中期課題検討
	10		課題5「サンプリング、引用、再構成等を用いた制作」
	11		課題5「サンプリング、引用、再構成等を用いた制作」
	12		課題5 講評 / 年間制作検討／中期課題検討
	13		ステートメント制作
	14		中期課題 発表 年間制作検討5
	15		調整日
後期	1		年間制作検討
	2		補助資料調査（校外演習）
	3		年間制作補助資料調査報告／追加調査
	4		課題1
	5		課題2
	6		課題3
	7		年間制作検討
	8		年間制作検討
	9		年間制作検討
	10		校外演習
	11		年間制作検討
	12		年間制作検討／展示計画
	13		年間制作検討／ステートメント制作
	14		年間制作検討／ステートメント制作
	15		年間制作発表／展示準備
評価方法	出席及び課題提出に準ずる		
テキスト 参考書	『写真制作者のための写真技術の基礎と実践』（インプレス）2500円＋税		



2023

区分

必修

対象

I 部3年制3年  
総合写真研究ゼミC

科目名	総合写真研究ゼミ II-C		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	倉谷 拓朴		
授業概要	<p>卒業までに人に見せられる作品を作ることを目的とし、そのための思考とスキルを学びます。講師は生徒一人一人が自分の考えを整理し、表現することの手助けをします。大前提として写真で表現するのですが現代美術も意識し、写真の周辺領域も学びながら授業を進めます。（映像作品、映画、アニメーション、絵画、現代美術、インスタレーションなど）</p> <p>卒業しても写真への学びは続いていくものだと思います。王道の写真については放っておいても自ら学んでくれるものだと思いますので、このゼミでは自らでは学ばないかもしれない写真についても少し取り入れてみたいと考えています。具体的には写真の古典的な技法や大型カメラ（8×10）の撮影実習などです。ただし、選択者の人数やニーズによっては行わない可能性があります。行われた場合には薬品代やフィルム代が別途必要になる場合があります。</p> <p>&lt;授業選択者に課すこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出や写真検討の際の作品の提出は毎回必ず行うこと。</li> <li>・あまり興味のないこともやってみること。</li> <li>・批評精神を持って自らの作品や他者の作品に接すること。</li> </ul>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	これまでの作品を見せてもらいます。授業方針を相談します。
	2	テーマ設定	本年度の各自の作品の方向性を話し合います。課題1説明
	3	課題1	任意の写真家の作品を真似してみる 課題2説明
	4	課題2	別の写真家の作品を真似してみる 課題3説明
	5	課題3	セルフポートレートについて考える
	6	古典技法	サイアノタイプ実習①（変更になる場合があります）
	7	古典技法	サイアノタイプ実習②（変更になる場合があります）
	8	古典技法	サイアノタイプで作品制作（変更になる場合があります）
	9	考察	作品につけるタイトルについて考えてみる 課題4説明
	10	写真検討	各自作品の途中報告
	11	課題4	リバーサルフィルムでスライドショーを作る（変更になる場合があります）
	12	写真検討	各自作品の検討
	13	写真検討	各自作品の検討
	14	写真検討	各自作品の検討
	15	写真検討	期末作品検討 課題5説明
後期	1	課題5	ある写真から連想する写真を撮る
	2	考察	カメラによる撮れるものの違いを考えてみる 8×10使い方説明
	3	撮影実習	グループA 8×10撮影実習 各自作品検討（変更になる場合があります）
	4	撮影実習	グループB 8×10撮影実習 各自作品検討（変更になる場合があります）
	5	プリント実習	8×10プリント作業（変更になる場合があります）
	6	写真検討	各自作品の検討
	7	写真検討	各自作品の検討
	8	自作を語る	各自現状の自分の作品についてプレゼンテーションしてもらいます
	9	他者の作品を考察	前回のプレゼンテーションを踏まえて他者の作品を批評してもらいます
	10	写真検討	卒業制作に向けて作品を展開する
	11	写真検討	展示方法を意識する
	12	写真検討	作品タイトルやステートメントを考える
	13	写真検討	フィニッシュワーク
	14	写真検討	卒業制作検討
	15	写真検討	卒業制作検討
評価方法	課題の提出状況。作品制作への積極性。		
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
総合写真研究ゼミA

科目名	総合写真研究ゼミ I-A		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	菅沼比呂志		
授業概要	<p>表現者としての基礎能力を高め、技術を身につけることを目指します。短期(A)・中期(B)・長期(C)課題と三つの課題制作を通して、自分なりの作品作りのプロセスを考え、その作品にあった見せ方・プレゼンテーションを探ります。前期は、短期(A)・中期(B)課題を通して、コンセプチュアルな作品作りを考え、複数の視点・方法論を持ち、より幅のある表現ができるようなスキルの取得を目指します。後期は長期(C)課題のフィニッシュとゼミ展(リアル or オンラインは未定)に向けての準備を予定しています。また、先人たちの作品にも触れ、手法を参照、研究しながら、自らの作品作りに生かすことも考えます。</p> <p>参加者の意欲や習熟度にあわせて授業内容を見直していきます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作品について、自分の言葉で語り、考えられる</li> <li>～自分なりの美意識・世界観などをもとに作品を構築できる</li> <li>・複数の作品作りのプロセスを身につける。</li> </ul>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	前期授業内容の説明。自己紹介。
	2	演習	1年次の作品と春休みの課題発表(A、B、Cゼミ合同)
	3	演習	1年次の作品と春休みの課題発表(A、B、Cゼミ合同)
	4	面談・演習	個人面談(中長期課題検討)・短期(A)制作
	5	面談・演習	個人面談(中長期課題検討)・短期(A)制作
	6	面談・演習	個人面談(中長期課題検討)・短期(A)制作
	7	演習	作品合評会～短期(A)
	8	講義	作品合評会～短期(A)
	9	講義	作品合評会～短期(A)
	10	演習	展覧会見学
	11	講義	作家・作品研究
	12	演習	作品合評会～中期(B)
	13	演習	作品合評会～中期(B)
	14	演習	作品合評会～中期(B)
	15	演習	作品合評会～中期(B)
後期	1	ガイダンス・面談	後期ガイダンス、個人面談(長期課題検討)・長期(C)制作
	2	面談・演習	個人面談(長期課題検討)・長期(C)制作
	3	面談・演習	個人面談(長期課題検討)・長期(C)制作
	4	ガイダンス	ゼミ展に向けての準備・3ゼミ合同(ゼミ展ガイダンス&役割決め)
	5	演習	作品合評会～長期(C)
	6	演習	作品合評会～長期(C)
	7	演習	作品合評会～長期(C)
	8	演習	展覧会見学
	9	講義	作家・作品研究
	10	ガイダンス	ゼミ展に向けての準備・3ゼミ合同(展示作品プレゼン&タイトル)
	11	演習	作品合評会～長期(C)
	12	演習	作品合評会～長期(C)
	13	演習	作品合評会～長期(C)
	14	演習	ゼミ展に向けての準備・3ゼミ合同(展示作品&レイアウトプレゼン)
	15	演習	ゼミ展に向けての準備・3ゼミ合同(搬入)
評価方法	課題の内容と出席数で評価します。また、期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられません。		
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
総合写真研究ゼミB

科目名	総合写真研究ゼミ I - B		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	柳本 史歩		
授業概要	<p>今授業は写真を撮る・まとめるを通して自分が写真の何に興味があるのかを探することを目的にしております。</p> <p>前期は小規模の課題制作を通してそれぞれの写真への興味を再発見と作品制作のサイクルを身につけます。</p> <p>後期は前期の発展で中長期の視点で作品を制作し、後期末のゼミ展にて発表を目指します。撮る機会を増やし、撮りながら考える1年になれるような授業を進行してゆく予定です。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業内容の説明
	2	演習	春季課題提出・講評会
	3	演習	春季課題提出・講評会
	4	演習	各自の1年次の作品紹介
	5	演習	制作にあたってのプラン検討
	6	演習	作品講評会
	7	演習	作品講評会
	8	演習	作品講評会
	9	演習	作品講評会
	10	演習	作品講評会
	11	演習	作品講評会
	12	演習	作品講評会
	13	演習	作品講評会
	14	演習	作品講評会
	15	演習	期末審査に向けて
後期	1	ガイダンス	後期ガイダンス
	2	演習	後期の制作にあたってのプラン検討
	3	演習	作品講評会
	4	演習	作品講評会
	5	演習	作品講評会
	6	演習	作品講評会
	7	演習	作品講評会
	8	演習	作品講評会
	9	演習	作品講評会
	10	演習	ゼミ展に向けて準備作業
	11	演習	ゼミ展に向けて準備作業
	12	演習	作品講評会
	13	演習	期末審査に向けて・作品講評会
	14	演習	ゼミ展に向けて準備作業
	15	演習	ゼミ展に向けて準備作業
評価方法	課題内容・出席回数		
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
総合写真研究ゼミC

科目名	総合写真研究ゼミ I-C		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	長野 陽一		
授業概要	<p>写真を撮ること、見て考えること、他者は写真を見てなにをおもうのか。自身の写真と他者の写真、その両方に向き合う授業です。これまで撮ってきた写真、これから撮る写真、頭の中にあることをまずは撮影でアウトプットしましょう。1枚の写真からトライ&amp;エラーを繰り返し撮影と講評を重ねます。前期では自身の作品で写真集を制作（注・造本設計の授業は特に予定なし）、後期では前期に作った写真集を紹介する冊子を作ります。その際、自分の作品を自ら紹介するのではなく、ゼミ内で他者の作品について作者にインタビュー、撮影、編集、デザイン、雑誌作りの過程を体験します。他者の作品を知ることによって自身の作品についても考えてみる。現在、雑誌、書籍、CMなどで活動するカメラマンが行う授業なので撮影方法、技術についても触れる授業です。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	前期授業内容の説明。自己紹介。
	2	演習	春季課題提出・講評会（A、B、Cゼミ合同）
	3	演習	春季課題提出・講評会（A、B、Cゼミ合同）
	4	演習	これまでの自身の作品と他者の好きな作品についてのプレゼンテーション
	5	演習	個人面談形式で前期課題のテーマについて考える
	6	演習	個人面談形式で撮影した作品を講評
	7	演習	個人面談形式で撮影した作品を講評
	8	講評	参加者全員での講評
	9	講評	参加者全員での講評
	10	特別講義	展覧会見学またはゲストによる講義
	11	講義	写真集とは何かについての講義
	12	演習	撮影した写真で写真集を制作、途中過程を発表
	13	演習	撮影した写真で写真集を制作、途中過程を発表
	14	発表会・提出	制作した写真集の発表
	15	発表会・提出	制作した写真集の発表、提出
後期	1	ガイダンス	後期授業内容の説明と後期課題の冊子についてタイトル及び編集会議
	2	演習・取材	後期課題の冊子制作のためのインタビュー取材
	3	演習・執筆	後期課題の冊子制作のためのインタビュー原稿執筆
	4	講義・撮影	取材撮影についてのレクチャー
	5	講義・撮影	取材相手の撮影（ポートレイト、作品の複写、イメージカットなど）
	6	演習・編集	取材した素材（インタビュー原稿と写真のセレクト、編集作業）
	7	演習・デザイン	ページのレイアウト、デザインについての説明と作業
	8	演習・デザイン	ページのレイアウト、デザインについての説明と作業
	9	入稿製本作業	出来上がったレイアウトを出力、冊子として製本する作業
	10	演習	ゼミ展に向けて準備作業（A、B、Cゼミ合同）
	11	演習	ゼミ展に向けて準備作業（A、B、Cゼミ合同）
	12	特別講義	展覧会見学またはゲストによる講義
	13	発表会	完成した冊子の発表会
	14	演習	ゼミ展に向けての準備（A、B、Cゼミ合同）
	15	演習	ゼミ展に向けての準備（A、B、Cゼミ合同）
評価方法	前期の写真集の提出、後期の冊子制作の参加、その内容と出席数で評価します。		
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
FWゼミ

科目名	FW基礎ゼミA		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	鈴木 邦弘		
授業概要	<p>このゼミは、3年前期半年間の海外フィールドワークでの撮影取材に直結する授業です。前期前半は、撮影対象からテーマを見つけ出すことを学びます。指定された場所(動物園)から自分なりのテーマを見つけ出し、それに沿って撮影し、撮影した写真群のシークエンス、構成を考えてまとめてもらいます。前期後半から後期にかけては、各自の海外フィールドワークのテーマを国内に置き換えて作品制作を行います(置き換えが無理な場合は国内撮影のテーマを考えて下さい)。授業内で講評を中心に行い、作品をまとめてゆきます。最終的には、一年間で、ひとつのテーマにそった30枚以上の写真でまとめた作品を制作してもらいます。前期は15枚以上(30枚以上の作品制作の途中経過を見る)、後期は30枚以上(前期の写真を含めて)のひとつのテーマにそった写真でまとめた作品を提出してもらいます。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業説明	テーマ発表(3年時の海外フィールドワークのテーマとそれにそった国内でのテーマ)、検討。
	2	企画書制作	撮影対象、テーマなどの検討、動物園の何をテーマとして作品化するのか
	3	撮影実習	ロケハン兼ねて
	4	企画書見直し	前回撮影した写真、経験を踏まえて、撮影対象、テーマの明確化
	5	撮影実習	上野動物園で撮影
	6	撮影実習	上野動物園で撮影
	7	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント
	8	講義	写真とは
	9	講義	写真とは
	10	講評	海外フィールドワークを踏まえた国内のテーマ作品、完成した作品を見るのではなく、作品制作の途中経過を確認することが目的
	11	講評	テーマにそった作品の検討
	12	講評	テーマにそった作品の検討
	13	講評	テーマにそった作品の検討
	14	講評	テーマにそった作品の検討
	15	作品審査	15枚以上、A4以上にプリントした作品(30以上の作品制作の途中経過を見る)を提出。採点。
後期	1	講評	テーマにそった作品の検討
	2	講評	テーマにそった作品の検討
	3	講評	テーマにそった作品の検討
	4	講評	テーマにそった作品の検討
	5	講評	テーマにそった作品の検討
	6	講評	テーマにそった作品の検討
	7	講評	テーマにそった作品の検討
	8	講評	テーマにそった作品の検討
	9	講評	テーマにそった作品の検討
	10	講評	テーマにそった作品の検討
	11	講評	テーマにそった作品の検討
	12	講評	テーマにそった作品の検討
	13	講評	テーマにそった作品の検討
	14	講評	テーマにそった作品の検討
	15	課題審査	30枚以上(前期の写真も含め)、A4以上にプリントした作品を提出。採点。
評価方法	提出した作品の点数を成績とします。		
テキスト 参考書	取材撮影地は変更の可能性があります。		

2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
FWゼミ

科目名	FW基礎ゼミB		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	飯塚 明夫		
授業概要	<p>前期と後期で授業内容が大きく異なります。まず前期授業は、有機農法や地域のリーダーとしての知識と技術、心構えなどを学ぶために、アジア・アフリカなどから来ている研修生の姿と、彼らを受け入れているアジア学院の様子を、写真と文章でルポルタージュします。授業目的は以下の3つです。</p> <p>①異文化の人々とのコミュニケーション力をつける。</p> <p>②取材力をつける（取材テーマ、取材対象の理解、撮影目的、インタビュー内容、取材ノートなど）。</p> <p>③写真の編集力をつける（セレクト、構成）。具体的には、2つの課題作品に取り組みます。</p> <p>課題A：「マイドリーム」（個人制作）。</p> <p>課題B：「アジア学院の一日」（個人制作+共同写真展示）。</p> <p>後期授業では前期で学んだルポルタージュとマレーシアの取材経験を活かし、アジア取材に向けて更にテーマを掘り下げ、写真的思考力、表現力の向上をはかります。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	・ 授業内容の説明、（アジア学院、取材撮影、課題）
	2	撮影取材プラン①	・ アジア学院とは ・ 合宿のスケジュール
	3	撮影取材プラン②	・ 課題の取材撮影プラン①、・ 班長
	4	撮影取材プラン③	・ 課題の取材撮影プラン②、
	5	アジア学院合宿	・ 農作業&取材（撮影、インタビューなど）
	6	取材データの整理 セレクト①	・ 写真整理①（写真・2Lサイズ）、文章整理①
	7	取材データの整理 セレクト②	・ 写真整理②（写真・2Lサイズ）、文章整理②
	8	取材データの整理 セレクト③	・ 写真整理③（写真・2Lサイズ）、文章整理③
	9	個人課題の中間発表 （プリントはA4サイズ）	・ 「マイドリーム」（ポートレート3枚、文章400字） ・ 「アジア学院の一日」（写真10枚、文章600字）
	10	展示写真のセレクトと 構成①	・ 「マイドリーム」（展示用ポートレート写真1枚、文章400字） ・ 「アジア学院の一日」（展示用写真約10枚、）
	11	展示写真のセレクトと 構成②	・ プリント、挨拶文、写真キャプションなどを作成
	12	展示準備作業①、フ リントチェックなど	・ プリントサイズはA4～A3、（全写真の色味、明るさ、コントラストなどを揃える）。ハリパネのカット。
	13	展示準備作業②	・ パネル張り
	14	展示作業	・ 釘打ち
	15	個人発表（評価）、まとめ	・ 課題A：「マイドリーム」、ポートレート3枚（A4）、文章400字 ・ 課題B：「アジア学院の一日」、写真10枚（A4）、文章600字
後期	1	オリエンテーション	前期作品持参、今後の撮影概要検討
	2	作品合評①	新作写真（2Lサイズ可）
	3	作品合評②	新作写真（2Lサイズ可）
	4	作品合評③	新作写真（2Lサイズ可）
	5	作品合評④	新作写真（2Lサイズ可）
	6	写真集を読む①	写真集を1冊選び、制作の意図を、文化的背景や時代背景を含めて読み解き、一人20分ほどで発表。
	7	作品合評⑤	新作写真（2Lサイズ可）
	8	作品合評⑥	新作写真（2Lサイズ可）
	9	中間発表	10枚の組み写真（A-4）、タイトル、撮影意図（約300字）
	10	作品合評⑦	新作写真（2Lサイズ可）
	11	作品合評⑧	新作写真（2Lサイズ可）
	12	作品合評⑨	新作写真（2Lサイズ可）
	13	作品合評⑩	新作写真（2Lサイズ可）
	14	ゼミ内審査①	25枚（A-4、前期作品も10枚まで可）、タイトル、撮影趣旨（約300字）
	15	ゼミ内審査② まとめ	25枚（A-4、前期作品も10枚まで可）、タイトル、撮影趣旨（約300字）
評価方法	提出した作品の点数を成績とします。		
テキスト 参考書	取材撮影地は変更の可能性があります。進行により変更の可能性があります。		

2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
PAゼミ

科目名	フォトアート基礎ゼミ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	フジモリ メグミ		
授業概要	<p>写真作家として新たな表現の可能性を提示できる能力を育成することを目的に、実習と課題制作、考察を繰り返し行なっていきます</p> <p>○下記の2つの課題制作を繰り返し行う 短期課題(A)、中期課題(B)、+αで長期課題(c)</p> <p>・短期課題(A)は「様式研究」を通して、技術や表現の方法を学んでいきます。 (対象の作家は授業内で指定)</p> <p>・中期課題は新聞記事から自身のテーマや興味のある事柄をピックアップし、社会との接点を見つけることを目指します。 (毎週月曜日に新聞/全国紙を購入し、授業開始までにレポートを作成しておくこと)</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業説明 改めて自己紹介 哲学対話
	2	実習	春休み課題の発表
	3	講評	様式研究のためのリサーチ
	4	講評・リサーチ	課題(A1)の講評 リサーチ 課題(B1)の発表
	5	講評・リサーチ	課題(A1)の講評 リサーチ 課題(B1)の発表
	6	講評・リサーチ	課題(A2)の講評 リサーチ 課題(B1)の発表
	7	講評・リサーチ	課題(A2)の講評 リサーチ 課題(B1)の決定
	8	講評・リサーチ	課題(A3)の講評 リサーチ 課題(B1)の講評
	9	講評・リサーチ	課題(A3)の講評 リサーチ 課題(B1)の講評
	10	講評・リサーチ	課題(A4)の講評 リサーチ 課題(B1)の講評
	11	講評・リサーチ	課題(A4)の講評 リサーチ 課題(B1)の講評
	12	講評・リサーチ	課題(A5)の講評 リサーチ 課題(B1)の講評
	13	講評・リサーチ	課題(A5)の講評 リサーチ 課題(B1)講評 夏休みの宿題
	14	講評・リサーチ	課題(A6)の講評 リサーチ 課題(B1)の発表
	15	前期のまとめ	後期にむけて
後期	1	ガイダンス	授業説明 哲学対話
	2	講評・リサーチ	課題(A7)の講評 リサーチ 課題(B2)の発表
	3	講評・リサーチ	課題(A7)の講評 リサーチ 課題(B2)の発表
	4	講評・リサーチ	課題(A8)の講評 リサーチ 課題(B2)の発表
	5	講評・リサーチ	課題(A8)の講評 リサーチ 課題(B2)の発表
	6	講評・リサーチ	課題(A9)の講評 リサーチ 課題(B2)の発表
	7	講評・リサーチ	課題(A9)の講評 リサーチ 課題(B2)の決定
	8	講評・リサーチ	課題(A10)の講評 リサーチ 課題(B2)の講評
	9	講評・リサーチ	課題(A10)の講評 リサーチ 課題(B2)の講評
	10	講評・リサーチ	課題(A11)の講評 リサーチ 課題(B2)の講評
	11	講評・リサーチ	課題(A11)の講評 リサーチ 課題(B2)の講評
	12	講評・リサーチ	課題(A12)の講評 リサーチ 課題(B2)の講評
	13	講評・リサーチ	課題(A12)の講評 リサーチ 課題(B2)講評
	14	講評・リサーチ	課題(A13)の講評 リサーチ 課題(B2)の発表
	15	前期のまとめ	後期にむけて
評価方法	制作に対する意欲・出席・授業態度等		
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

I 部3年制3年  
PAゼミ

科目名	フォトアートゼミナール		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	濱田 祐史		
授業概要	<p>展覧会、出版などで発表することを目的とし、写真を用いたコミュニケーションの可能性をありとあらゆる方法で対話し探る。写真、美術の技術と歴史を可能な限り学び、忘れて“自分の作品”を制作し、楽しむことを目的とする。定期的にそれぞれの個性に基づき作品の制作状況を見て必要なものごとを対話していく。主にディスカッション形式で知を共有すること。写真、映画、音楽、絵画、漫画、書籍、画像など自身の趣味の中から自由に選び、触れ、心を動かされたものをひとつは毎月発表する。</p> <p>不定期で特殊技術研究、印刷研究をする可能性がある。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	写真は魔法 自己紹介、個人面談
	2	インタビュー	2人か3人で聞き手、答え手でインタビューし文字に起こす
	3	美術鑑賞	美術鑑賞 (校外演習)
	4	写真集研究	印刷物について 写真集について(ゲスト 書店員) (校外演習)
	5	暗室研究	感光物質について カラープリント実験
	6	デジタル	紙の上の世界 インクジェットプリントについての実験
	7	展示	グループ展の企画立案、準備
	8	展示	ゼミグループ展
	9	写真集研究	グラフィックデザイナーの講義(ゲスト グラフィックデザイナー)
	10	講義	作品途中経過(ダミーブック制作、ポートフォリオ制作)
	11	合宿	撮影、編集、プリント (校外演習)
	12	合宿	撮影、編集、プリント (校外演習)
	13	合宿	撮影、編集、プリント(特別ゲスト 予定) (校外演習)
	14	合宿	撮影、編集、プリント、ゼミグループ展 (校外演習)
	15	講義	後期に向けて 目標とまとめ
後期	1	講義	見るということについて
	2	制作	ダミーブック制作、ポートフォリオ制作
	3	制作	ダミーブック制作、ポートフォリオ制作
	4	講義	ファッションデザイナーの講義(ゲスト ファッションデザイナー)
	5	美術鑑賞	美術鑑賞
	6	印刷物研究	印刷物について 写真集について(ゲスト書店員)
	7	制作	制作物についてディスカッション
	8	美術鑑賞	美術館鑑賞 (ゲスト 美術館キュレーター) (校外演習)
	9	制作	制作物についてディスカッション
	10	美術鑑賞	美術鑑賞 (校外演習)
	11	制作	制作物についてディスカッション
	12	制作	卒業制作
	13	制作	卒業制作
	14	制作	卒業制作
	15	制作	卒業制作
評価方法	作品と熱意		
テキスト 参考書	「写真講義」ルイジ・ギッリ 「風姿花伝」(花伝書) 世阿弥		



2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
I 部3年制2年 総合写真研究ゼミ  
I 部3年制3年 総合写真研究ゼミ

科目名	コマーシャルフォトゼミ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	イ キョンソン		
授業概要	<p>画面構成とライティング、コマーシャルフォトの特性を学びます。  前期:イメージ広告写真模写を中心に広告表現法を習得。  後期:前期のスキルを応用し、オリジナル性の高い作品を制作します。  ● 照明機材及びライティング基礎知識と応用。  ● 商品写真の良し悪しを判断する力の養成。創造、発想イメージの定着化。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	テスト	絞り、シャッタースピード、機材の使い方理解度テスト
	2	Mirror Box	入射光、反射光を理解撮影
	3	課題提出	Mirror Box、Scrap Book、自己紹介
	4	予備日	Mirror Box、Scrap Book、自己紹介
	5	グループ撮影	切り抜き撮影
	6	グループ撮影	切り抜き撮影
	7	テスト撮影	模写商品決め、撮影方法、ライティング確認
	8	模写撮影	撮影
	9	テスト撮影	模写アレンジしたイメージカットテスト撮影
	10	模写アレンジ	撮影
	11	課題提出	模写撮影、模写アレンジカット
	12	予備日	被写体決め、イメージ決め、ラフ提出
	13	撮影	商品、静物撮影
	14	撮影	商品、静物撮影
	15	撮影	商品、静物撮影
後期	1	商品決め	ラフ+スクラップ
	2	テスト撮影	撮影方法、ライティング確認、個人面談
	3	予備日	テスト撮影、個人面談
	4	撮影	商品撮影
	5	撮影	商品撮影
	6	撮影	ハウススタジオ撮影
	7	撮影	ハウススタジオ撮影
	8	課題提出	イメージカットバリエーション作品
	9	テーマ決め	商品決め、イメージ決め、ラフ提出、アイディア共有
	10	テスト撮影	撮影方法、ライティング確認
	11	撮影	テーマ別自由撮影
	12	撮影	テーマ別自由撮影
	13	卒展作品	作品講評
	14	予備日	撮影、卒展面談
	15	講評	作品講評
評価方法	出席15回(51点)10回以下点数なし /課題提出(1/5点+ $\alpha$ ) /授業態度・撮影準備(+,- $\alpha$ )		
テキスト 参考書	PDFファイル、プリント配布		

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
I 部3年制2年 総合写真研究ゼミ  
I 部3年制3年 総合写真研究ゼミ

科目名	フォトレタッチゼミ			
開講期	前後期		単位数	3
講師名	羽立 孝			
授業概要	<p>「写真」を「レタッチ」する上で必要なことは、写真から逸脱せず、より良い成果を得ることにあり、そのためには写真(カメラ、ライティング、アングル、絞りについての基礎知識)を十分に理解していることが前提となります。その写真がこういった意図をもって撮影されたかを汲み取り、最大限に活かし、必要に応じて修正するための技術を習得、および発展させることが重要となってきます。</p> <p>写真をレタッチすることは仰々しい合成だけと捉えず幅広く考えながら、各々の写真におけるレタッチの必要十分性を考え”レタッチ”を通して写真を考えていきたいと思います。</p> <p>また課題・作品を制作するにあたって個々の意図、ねらいを明確にし、他者との意見交換をしながら改善点を検討しながら作品制作にあたってください。</p> <p>作品のテーマは自由です。</p> <p>情勢により変更あり</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	授業概要説明	授業説明、年間テーマ作成	
	2	基礎演習	画像処理に必要なワークフローおよび結果を得るために素材撮影をするために必要な基礎演習	
	3			
	4			
	5	スタジオ撮影	撮影	
	6	レタッチ	合成	
	7			
	8	年間テーマ	面談等	
	9	スタジオ撮影	合成素材撮影	
	10	レタッチ	合成	
	11			
	12	スタジオ撮影	合成素材撮影	
	13	レタッチ	合成	
	14			
	15	年間テーマ講評	面談等	
後期	1	プランニング	年間テーマ確認、進捗	
	2	課題制作	各人の作品制作	
	3			
	4	講評	進捗確認	
	5	課題制作	各人の作品制作	
	6			
	7	講評	進捗確認	
	8	課題制作	各人の作品制作	
	9			
	10	講評	作品評価、および展示に向けて	
	11	展示に向けて	レイアウトや展示方法について	
	12			
	13			
	14			
	15			
評価方法	出席回数、プリント、講評			
テキスト参考書	12月中に作品制作の95%を仕上げる。授業内容等は進行により変更あり。			

2023

区分

必修

対象

1 部2年制2年  
1 部3年制2年 総合写真研究ゼミ  
1 部3年制3年 総合写真研究ゼミ

科目名	ファッションポートレートゼミ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	倭田 宏樹		
授業概要	<p>ファッションフォトグラファーに求められるものは技術や知識も大切ですが、独創性と協調性です。</p> <p>既成概念に捉われず、流行を組み上げ、独自のセンスを築く事はこれからのベースであり、道しるべでもあります。</p> <p>学ぶから作るに目標ベースを移行し、授業では主にテーマに沿って独自の感性を形にしていきます。他の生徒達と同じモデルで同じテーマを元に撮影していきます。撮影後は皆んなで写真を展示し、皆んなで評価をつけます。己の形に導き、創り上げていく事が目標です。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	説明	授業内容説明、自己PR(各自作品持参)
	2	照明授業	ライティング授業
	3	照明授業	ライティング授業、次回撮影プラン提出
	4	撮影	課題テーマ撮影『B/W』
	5	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
	6	撮影	課題テーマ撮影『VIVID COLOR』
	7	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
	8	撮影	課題テーマ撮影『STREET』
	9	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
	10	撮影	課題テーマ撮影『DRAMATIC』
	11	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
	12	撮影	課題テーマ撮影『ROCK』
	13	合評、検討	前回の撮影合評
	14	合評	前期審査の経過提出
	15	総括	前期の総括
後期	1	説明、検討	後期の説明、次回撮影プラン制作
	2	撮影	課題テーマ撮影『CLOSE UP』
	3	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
	4	撮影	課題テーマ撮影『COOL』
	5	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
	6	撮影	課題テーマ撮影『MINIMAL』
	7	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
	8	撮影	課題テーマ撮影『NOSTALGIC』
	9	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
	10	撮影	課題テーマ撮影『STORY』
	11	合評	前回の撮影合評、構外課題合評
	12	検討	次回撮影プラン制作、卒業審査の経過提出
	13	撮影	課題テーマ撮影『男女モデル』
	14	経過報告	前回の撮影合評、卒業審査の経過提出
	15	総括	一年の総括
評価方法	出席、授業態度、表現力、テーマ提出物		
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
I 部3年制2年 総合写真研究ゼミ  
I 部3年制3年 総合写真研究ゼミ

科目名	ブライダルポートレートゼミ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	安澤 剛直		
授業概要	<p>将来ブライダルや写真館だけでなく、幅広いジャンルでフォトグラファーとして活躍できるよう、基礎の復習から撮影実習を中心に進めていきます。</p> <p>ポートレートの基本のライティング、応用ライティング、ポージング、フレーミングなど被写体の魅力を引き出す技術や知識を学びます。撮影の企画から提案し、企画に合わせたライティングを生み出し、撮影をし切れるようになることが一年間の到達目標です。また、撮影技術だけでなく、社会に出て活躍するためのプロとしての心構えなども身につけます。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	実習	ガイダンス／ライティング基礎(光のトーン／捉え方)
	2	実習	4つのメインライト／ライティングの組み立て方
	3	撮影実習	ポートレート撮影(学生同士)
	4	企画作成	撮影指示書／撮影企画を考える
	5	テスト撮影	婚礼ドレス ポージング(テスト撮影)
	6	モデル撮影実習	婚礼ドレス ポージング(モデル撮影)
	7	外部講師	キャプチャーワン講習
	8	外部講師	コードスリーレンタル衣装 見学
	9	ロケハン	テスト撮影／ロケハン
	10	企画作成	撮影指示書／撮影企画を考える
	11	ロケ準備	ロケーション撮影準備
	12	モデル撮影実習	ロケーション撮影①
	13	モデル撮影実習	ロケーション撮影②
	14	モデル撮影実習	ロケーション撮影③
	15	まとめ	前期振り返り／作品提出
後期	1	企画作成	ガイダンス(ディレクション撮影)／企画書作成
	2	プレゼン	撮影ディレクション(プレゼン)
	3	撮影実習	撮影ディレクション(テスト撮影)
	4	モデル撮影実習	撮影ディレクション(モデル撮影)
	5	プレゼン	撮影ディレクション(プレゼン)
	6	撮影実習	撮影ディレクション(テスト撮影)
	7	モデル撮影実習	撮影ディレクション(モデル撮影 和装)
	8	モデル撮影実習	撮影ディレクション(モデル撮影 和装)
	9	発表	卒展写真プレゼン
	10	プレゼン／テスト	撮影ディレクション(プレゼン／テスト撮影)
	11	プレゼン／テスト	撮影ディレクション(プレゼン／テスト撮影)
	12	モデル撮影実習	撮影ディレクション(モデル撮影)
	13	卒展準備	卒展準備
	14	卒展準備	卒展準備
	15	最終回	まとめ
評価方法	出席及び作品		
テキスト 参考書	都度指示します。		

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
I 部3年制2年 総合写真研究ゼミ  
I 部3年制3年 総合写真研究ゼミ

科目名	ライブステージフォトゼミ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	中野 敬久		
授業概要	日本のカルチャーシーンは音楽を軸に多種多様なステージで表現の幅が増えています。それはロックやポップ、ヒップホップやアニソンといったジャンルだけに留まらず、演劇、2.5次元やアイドルなど様々な舞台上で展開されます。配信などを通して写真を必要とされるメディアも日本だけに留まらず垣根を超えてグローバルになりました。このゼミでは幅広いステージメディアの考察と実践で必要なスキルを検証していきながら個々の表現を尊重した作品作りをしていきます。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業説明	オリエンテーション
	2	講習、座学	媒体把握 雑誌、ウェブ媒体、CD、配信ジャケ等
	3	講習、座学	課題決め、ポートフォリオ作成相談
	4	撮影	スタジオ アーティスト写真
	5	講評	講評、ディスカッション
	6	撮影	スタジオ 定常光ライティング
	7	講評	講評、ディスカッション
	8	撮影	ロケーション
	9	講評	講評、ディスカッション
	10	講習、座学	音楽写真分析、研究
	11	撮影	ライブ撮影
	12	講習	講評、ディスカッション
	13	撮影	ハウススタジオ
	14	講評	講評、ディスカッション
	15	講習	ポートフォリオ進捗相談
後期	1	講習、座学	ライブなどの写真講評
	2	特別講義	ゲスト写真家による講義
	3	撮影	クリップオンストロボを使った撮影
	4	講評	講評、ディスカッション
	5	撮影	スタジオ、人数多めの集合撮影
	6	撮影	イメージ寄りの物撮り
	7	講評	講評、ディスカッション
	8	講習、座学	映像から学ぶ写真、ディスカッション
	9	撮影	スタジオ 特殊ライティング
	10	撮影	スタジオ リクエストライティング
	11	講評	講評、ディスカッション
	12	講習、座学	多ジャンルの写真考察、研究
	13	製作	ポートフォリオ製作
	14	発表	ポートフォリオ発表
	15	講評	ポートフォリオ講評
評価方法	出席、授業態度、表現力、読解力、ポートフォリオ		
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

1 部2年制2年  
1 部3年制2年 総合写真研究ゼミ  
1 部3年制3年 総合写真研究ゼミ

科目名	ドキュメンタリーフォトゼミ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	鈴木 邦弘		
授業概要	ドキュメンタリーの写真作品とは、社会（人間の営む共同体）を対象にした写真群です。そして、その社会を写真家がどう理解したか（理解できないか）を表現したものが作品です。その範囲は非常に広く、深い。作品作りは常に他者（人間だけでなく自然なども含む）を相手にします。そこには自分探しではなく、自分作りがあるだけです。つまり、作品作りとは他者を通して自分自身を作ること（だからこそ自分自身が問われること）なのです。授業には真剣に取り組んで下さい。このようなことを前提に、自分で年間テーマを決め、1年間かけて作品を制作します。授業ではそれぞれの作品を合評（学生全員と講師で作品検討をすること）し、問題点を改善し再取材撮影を行い、また合評を行います。 これらを繰り返し、最終的にはシリーズにした作品30枚以上を提出してもらいます。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業説明	授業内容、授業予定、テーマ相談など
	2	合評	合評はテーマ内容にもよるので、順番などを1回目の授業で具体的に決める
	3	合評	デジタル、フィルム、フォーマットなどは自由
	4	合評	各自提出の際は必ず作品を持参すること 枚数は自由
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15	作品審査	シリーズにした15枚の作品を提出する（年間テーマ30枚以上の作品の前期分）採点を行う
後期	1	合評	各自提出の際は必ず作品を持参すること 枚数は自由
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15	作品審査	シリーズにした作品30枚以上を提出すること（完成した作品）採点を行う
評価方法	前後期ともに15回目の授業の提出作品の採点の結果を評価とします。		
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

1 部2年制2年  
1 部3年制2年 総合写真研究ゼミ  
1 部3年制3年 総合写真研究ゼミ

科目名	フォトクリエイティブゼミ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	倉持 正実		
授業概要	<p>ゼミの目標は『学生時代の代表作』といえる写真を残すことです。それらの作品は、卒業後の創作活動の原点にも成り得るのです。各自が、最も関心のある事柄を年間テーマとして設定して下さい。テーマ撮影を進めていく上でどんな考え方・撮影方法が適切なのかを学生相互の講評（合評）のなかで模索していく授業です。</p> <p>成果としての作品は期末にポートフォリオとして残します。毎回プレゼンテーション（作品提示）をすると考えて下さい。このゼミが、クリエイト（創作）していくことを与えてくれるものではありません。受講生一人一人の行動が作品を創り出していくのです！</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	説明	オリエンテーション（授業説明） 課題提示1『食』
	2	講評	合評（1年次作品を中心に） メインテーマの設定
	3		合評 『食』 課題提示2『ファッション』
	4	撮影実習1	機材の復習・再確認（ストロボ等）
	5	講評	合評 『ファッション』
	6	撮影実習1	都市風景（Phase Oneでの撮影）
	7	講評	合評（各自のテーマに即して） サブテーマの設定
	8		合評（海外研修作品を中心として）
	9	作品鑑賞	適宜
	10	講評	各自のテーマをプレゼンテーション（中間考査を考慮して）
	11		合評（各自のテーマに即して）
	12		
	13	実習	ポートフォリオ（BOOK）の制作
	14	講評	夏期休暇課題に即して
	15	まとめ	ポートフォリオ（BOOK）完成
後期	1	講評	合評（各自のテーマに即して）
	2		
	3	撮影実習 3, 4	模倣から1、2（それぞれのテーマに対して別の方法論を疑似体験する）
	4		
	5	講評	合評（各自のテーマに即して）
	6		
	7	作品鑑賞	話題の写真展・写真集から
	8	講評	合評（各自のテーマに即して）
	9		
	10	卒展実習 1～5	卒展構成（タイトル・コンセプトを文章化する）
	11		
	12		卒展レイアウト
	13		
	14		作品集編集
	15	まとめ	ポートフォリオ（BOOK）最終型の完成
評価方法	出席および熱意 作品の到達度（技術的な写真のうまさだけでは評価しない）		
テキスト 参考書	適宜（図書室の写真集等）		

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
I 部3年制2年 総合写真研究ゼミ  
I 部3年制3年 総合写真研究ゼミ

科目名	ネイチャーフォトゼミ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	飯塚 明夫		
授業概要	<p>ネイチャーフォトゼミでは「自然と人間」をキーワードに写真創作を行います。撮影対象は自然が生み出してきた風景や生き物たち（動物・昆虫・植物など）ですが、自然と深く関わりながら生きる人々や、都市の中に息づく動植物、人間の営みによって作り変えられてきた風景（自然+人工物）なども含みます。</p> <p>私の役割はゼミ生一人ひとりが持っている感性や個性を見つけ出し、それを大きく育てながら、写真作品に結実させてゆくことです。そのためにテーマの設定、撮影方法や写真の選び方・見せ方、プリント仕上げの技術などをアドバイスします。先入観で自然を見るのではなく、自然の中に多様性を発見する意識を持つことが大切です。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	・前期授業内容説明・自己紹介・撮影対象とテーマを考える。
	2	撮影対象の決定	・1年生の時撮影した写真持参、・撮影対象を決める。
	3	作品合評①	・新作の講評ー撮影写真2Lプリント20～30枚程
	4	作品合評②	・新作の講評ー2Lプリント20枚～
	5	作品合評③	・新作の講評ー2Lプリント20枚～
	6	作品合評④	・テーマに合ったプリント仕上げを考える（1）、A4プリント10枚、
	7	好きな写真集	・好きな写真集1冊を選びその理由などを15分くらいで話す。
	8	作品合評⑤	・新作の講評ー2Lプリント20枚～
	9	作品合評⑥	・新作の講評ー2Lプリント20枚～
	10	中間発表	・A4プリント10枚、作品タイトル、撮影趣旨（約200字）
	11	作品合評⑦	・新作の講評ー2Lプリント20枚
	12	作品合評⑧	・新作の講評ー2Lプリント20枚
	13	作品合評⑨	・新作の講評ー2Lプリント20枚
	14	プリントのレベルアップと写真用紙	・テーマに合ったプリント仕上げを考える（2）、A4プリント、同一カットを2種類の写真用紙で（計10枚）
	15	ゼミ内審査	・A-4サイズ、10枚、作品タイトル、撮影趣旨（約300字）
後期	1	後期オリエンテーション 作品合評①	・後期授業内容、卒業写真展について、後期作品の取り組みについて
	2	作品合評②	
	3	作品合評③	
	4	作品合評④	
	5	作品合評⑤	
	6	作品合評⑥	
	7	テーマとプリント	・テーマに合ったプリント仕上げ（写真用紙の種類、明るさ、色彩、コントラストなど）
	8	後期中間発表	・後期作品10枚（A-4）、タイトル、撮影趣旨（約300字）
	9	作品合評⑦	
	10	作品合評⑧	
	11	卒業写真展①	卒業写真展の展示構成を考える
	12	卒展の構成②	
	13	卒展の構成③	
	14	卒展の構成④ ゼミ内審査①	・ゼミ内審査：20枚（通年作品）（A-4）、タイトル、ステートメント（約300字） / ・卒展構成決定
	15	卒展の構成⑤ ゼミ内審査②・まとめ	・ゼミ内審査：20枚（通年作品）（A-4）、タイトル、ステートメント（約300字） / ・卒展構成決定
評価方法	・写真作品の質と内容を重視するが、授業態度、出席数も考慮する。		
テキスト 参考書	・風景写真集、ランドスケープ写真集など		



2023

区分

必修

対象

1 部2年制2年  
1 部3年制2年 総合写真研究ゼミ  
1 部3年制3年 総合写真研究ゼミ

科目名	スポーツフォトゼミ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	兼子 慎一郎		
授業概要	<p>スポーツの撮影では速い動きの被写体を捉え、ピントを合わせる技術の習得が大前提で、その上でそれぞれの感性を表現することが大切です。そのためには実践しかありません。ゼミの実習では様々な競技の撮影を体験すること、現場の雰囲気を感じて刺激を得ること等を目的とします。また実習とは別に、学生には各自テーマ(1年間撮影する競技)を決めてもらい、その撮影を通して技術の向上を図ります。講義では作品講評、撮影についての技術的なアドバイスをします。作例や写真集などを見ながら、撮影の際のイメージの引き出しを増やしていければと考えています。補足知識になりますが、「作品」ではなく「仕事」としての撮り方も指導します。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	講義	オリエンテーション、スポーツ写真概論
	2	実践	実践トレーニング
	3	講義	トレーニングの作品講評
	4	実践①	撮影 *競技未定
	5	〃	〃
	6	〃	アドバイス、質疑応答
	7	講義	実践①の作品講評など
	8	実践②	撮影 *競技未定
	9	〃	〃
	10	〃	アドバイス、質疑応答
	11	講義	実践②の作品講評など
	12	実践③	撮影 *競技未定
	13	〃	〃
	14	〃	
	15	講義	実践③の作品講評など
後期	1	講義	休み中に撮影した作品講評
	2	実践④	撮影 *競技未定
	3	〃	〃
	4	〃	アドバイス、質疑応答
	5	講義	実践④の作品講評など
	6	実践⑤	撮影 *競技未定
	7	〃	〃
	8	〃	アドバイス、質疑応答
	9	講義	実践⑤の作品講評など
	10	実践⑥	撮影 *競技未定
	11	〃	〃
	12	〃	アドバイス、質疑応答
	13	講義	実践⑥の作品講評など
	14	〃	卒業制作
	15	〃	まとめ
評価方法	出席日数、作品提出、及び学生の気持ち		
テキスト 参考書	特になし		

2023

区分

必修

対象

I 部3年制3年

科目名	画像処理Ⅲ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	豊田 直之		
授業概要	本科目では、卒業して実際の現場でも即戦力として使えるテクニックを学びます。現場で必要なのは Photoshop（PS）だけではありません。社会に出てからありとあらゆる場面で必要なのはプレゼンテーション。そのためには、Illustrator（AI）や InDesign（ID）、PowerPointやKeynoteなども最小限覚えておく必要のあることを学びます。また、動画やドローン撮影などについても学びます。テーマごとに課題を出し、それを制作することによって複合的に使われるテクニックを修得します。後期では、プレゼンテーションを目的としたいくつかの制作課題を出します。それを制作しながらテクニックを熟成させます。動画についても制作実習します。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	解説	授業内容説明。PSによる簡単な塗り絵作業。
	2	実習	PSによる高度な塗り絵作業。（PSの基本を理解します）
	3		思い通りのプリント出力をするためのカラーマネージメント
	4		思い通りのプリント出力をするためのカラーマネージメント
	5		用紙の使い分けて、自分の作品を表現する
	6		プリンタープロファイルを駆使した作品プリント
	7	解説	画像の納品方法とその注意点。解像度、ファイルサイズ
	8	実習	レイヤーマスク、ごみ消し、合成など
	9		レイヤーマスク、ごみ消し、合成など
	10		AIによるマイ写真展のポスター作り
	11	課題	AIによるマイ写真展のポスター作り
	12	実習	AIまたはIDによるマイ写真集作り
	13	課題	AIまたはIDによるマイ写真集作り
	14	解説	プレゼンテーションの方法について
	15	課題	自分の作品をプレゼンしてみよう！
後期	1	解説	今後の仕事の動向と動画制作の必要性について
	2	実習	自分の作品をスライドショーにする
	3		自分の作品をスライドショーにする
	4		スライドショーによるプレゼンテーション
	5	解説・実習	動画制作について ドローンやゴープロなどの機材解説、動画作成の絵コンテ、編集について解説。
	6	実習	動画作成の絵コンテを作成
	7		ショートムービー作成
	8		ショートムービー作成
	9		ショートムービー作成
	10		ショートムービー作成
	11		ショートムービー発表会
	12		卒展にむけた自己PR動画作成
	13		卒展にむけた自己PR動画発表会
	14	解説・課題	PSによる処理操作の確認
	15		PSによる処理操作の確認
評価方法	出席回数、授業態度、やる気度重視		
テキスト 参考書	授業内配布プリント、他		

2023

区分

必修

対象

I 部3年制3年  
総合写真研究ゼミ

科目名	映像表現論		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	菅沼 比呂志		
授業概要	<p>時代とともに写真表現が変わってきています。カメラやフィルムといった撮影のための技術や、プリントやプロジェクション、展示などアウトプットの技術も変化しています。そのような時代の変化の中で写真界の先人たちがどんなことを考え、どんな表現をしてきたかを考察します。授業では、現代から時代を遡って作家を取り上げ、作品を上映した後、授業の参加者と対話をしながら進めます。写真を見て、考えて、話して、聞くという様々な写真的経験を積み重ねる授業にしたいと思います。さらに、プレゼンテーションということを考えてもらうため、毎回の授業で、参加者各人の作品発表と、各人が魅力的に思う写真家の発表も求めます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真作品を見て、写真家がどんなことを考えて、何を伝えようとしているのかを考え、自分の言葉で語れる力を身に付ける。</li> <li>・それぞれの時代に登場してきた写真家の作品の特徴と、その制作背景を理解し説明することができる。</li> </ul>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	日本の写真界を取り巻く現況を考える
	2	講義	
	3	講義	
	4	講義	00年代に登場してきた作家を紹介
	5	講義	
	6	講義	
	7	講義	
	8	講義	
	9	講義	
	10	講義	
	11	講義	ギャラリー巡り
	12	講義	90年代に登場してきた作家を紹介
	13	講義	
	14	講義	
	15	講義	
後期	1	講義	90年代に登場してきた作家を紹介
	2	講義	
	3	講義	
	4	講義	
	5	講義	
	6	講義	80年代に登場してきた作家を紹介
	7	講義	
	8	講義	
	9	講義	ギャラリー巡り
	10	講義	60～70年代に登場してきた作家を紹介
	11	講義	
	12	講義	
	13	講義	海外の写真家紹介②（アジア・欧米編）
	14	講義	
	15	講義	まとめ
評価方法	授業中の発言内容と遅刻・出席回数、提出課題で判断。期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられません。また、教務課の許可を得て、オンラインで参加する場合、カメラオンで参加することが、出席の条件になります。		
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年生  
I 部3年制3年生

科目名	フォローアップ講座		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	教務課・キャリアセンター・山ノ手写真 安部先生		
授業概要	<p>卒業年度に進級おめでとうございます。この授業では、(1)卒業作品展に向けた準備(2)就職やデビューに向けた準備、(3)キャリアに対する考え方や活動の進め方を中心に学んでいきます。卒業作品展に向けた準備ではいろいろな展示方法や、作家の紹介などを通じて、自分の作品に対するイメージを膨らませていきます。実際の制作に活かした、よい卒業作品展を目指しましょう。</p> <p>また、(2)や(3)では実際に仕事の現場はどのような場所なのかを知ったり、キャリアの考え方を広げたり…。自分の生き方を考え直すきっかけにもするような発見や出会いをしてほしいと思っています。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	キャリアのプランニングとは(仕事の種類を知ろう)フォローアップシートの提出確認
	2	キャリア研究	キャリア①
	3	キャリア研究	キャリア②
	4	キャリア研究	キャリア③
	5	卒業研究	卒業作品展とは、作品を展示する、ということとは
	6	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	7	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	8	企業研究	企業説明会①
	9	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	10	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	11	企業研究	企業説明会②
	12	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	13	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	14	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	15	キャリア研究	前期のまとめ
後期	1	個別相談	進路調査・個別相談会
	2	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	3	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	4	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	5	企業研究	企業説明会③
	6	卒業研究	卒展制作
	7	卒業研究	卒展制作
	8	自己PR力UP	ポートフォリオレビュー
	9	卒業研究	卒展制作
	10	卒業研究	卒展に向けた準備①
	11	卒業研究	卒展に向けた準備②
	12	卒業研究	卒展に向けた準備③
	13	卒業研究	卒展に向けた準備④
	14	まとめ	授業調整日
	15	まとめ	一年のまとめ
評価方法	出席と授業態度、意欲、提出物で総合的に評価		
テキスト 参考書	スクーの動画資料など。授業内で適宜指示します。		

2023				区分	必修	対象	1 部3年制 2年PAゼミ 1 部3年制3年 総合写真研究ゼミ		
科目名	メディア表現論								
開講期	前後期				単位数	3			
講師名	関 貴尚								
授業概要	近現代美術の歴史とは、メディアの多様化の歴史であるといえるだろう。キュビズムや抽象の登場以降、美術は外界の対象を模倣することをやめ、一見してそれとわかるような明確な主題を失うとともに表現手段であるメディアもまた多様化していった。それはまた、市民社会の成立や資本主義の発達、新たなテクノロジーの登場、二度の世界大戦など社会状況の変化とも密接にかかわっている。したがって、美術作品を読み解くためには、どのような歴史・社会的条件のもとで作品がつけられたのかを学ぶことが不可欠となる。 この講義では、近現代美術を理解するうえで重要なテキストを毎回1本ずつとりあげ、美術作品を提示・分析しながら論じることで、狭義の美術のみならず視覚文化一般に対する読解能力を養う。テキストは講義の前週に配布する。授業内容の理解のためにも各自読んでおくこと。								
授業計画	回数	主題・目的	授業予定						
前期	1	オリエンテーション	本講義の基本方針						
	2	近現代美術史	D・H・カーンワイラー「キュビズムへの道」						
	3	近現代美術史	F・T・マリネッティ「未来派文学技術宣言」						
	4	近現代美術史	ヴァルター・ベンヤミン「複製技術時代における芸術作品」						
	5	近現代美術史	エル・リシツキー「芸術と汎幾何学」						
	6	近現代美術史	アンドレ・ブルトン「シュルレアリスム芸術の発生と展望」						
	7	近現代美術史	サルバドール・ダリ「偏執狂的批判的方法」						
	8	近現代美術史	クレメント・グリーンバーグ「モダニズムの絵画」						
	9	近現代美術史	クレメント・グリーンバーグ「抽象表現主義以後」						
	10	近現代美術史	マイケル・フリード「芸術と客体性」						
	11	近現代美術史	ドナルド・ジャッド「スペシフィック・オブジェクト」						
	12	近現代美術史	ロザリンド・クラウス「展開された場における彫刻」						
	13	近現代美術史	ダグラス・クリンプ「サイト・スペシフィシティの再定義」						
	14	近現代美術史	ロバート・スミッソン「精神の堆積作用」						
	15	近現代美術史	E・H・ゴンブリッチ「棒馬考」						
後期	1	近現代美術史	ルーシー・リパード「芸術の非物質化」						
	2	近現代美術史	ミシェル・フーコー「これはパイプではない」						
	3	近現代美術史	ロザリンド・クラウス「指標論」						
	4	近現代美術史	ロザリンド・クラウス「ビデオ：ナルシシズムの美学」						
	5	近現代美術史	クレイグ・オーウェンス「アレゴリー的衝動」						
	6	近現代美術史	ハル・フォスター「民族誌家としてのアーティスト」						
	7	近現代美術史	クレア・ビショップ「敵対性と関係性の美学」						
	8	ケーススタディ1	各自が設定したテーマについて発表し、みんなで議論する。						
	9	ケーススタディ2							
	10	ケーススタディ3							
	11	ケーススタディ4							
	12	ケーススタディ5							
	13	ケーススタディ6							
	14	ケーススタディ7							
	15	ケーススタディ8							
評価方法	出席、授業態度、レポートなどで総合的に評価します。								
テキスト 参考書	ハル・フォスター他編著『ART SINCE 1900:図鑑 1900年以後の芸術』（尾崎信一郎他訳、東京書籍、2019年）。個別テーマにかんしては授業内で適宜指示します。								

2023

区分

必修

対象

I 部3年制3年  
総合写真研究ゼミ

科目名	テクニカルライティング			
開講期	前後期		単位数	3
講師名	赤坂 トモヒロ			
授業概要	この授業では、より実践的で応用的なスタジオワークや商品撮影のライティングを学びます。いわゆる「ブツ撮り」のテクニックを身につけることは、目指す写真分野に関係なく大変な強みとなります。前期は与えられた課題を精密にこなしていくことを中心に進め、後期は講師あるいは自らがテーマを設定して作品を撮っていくことを中心にしつつ、作品に対して講師から与えられる課題をクリアしていくことで完成度を高めると同時に、ディレクターやクライアントのオーダーに応える撮影という実践を意識した内容で進めます。各回ごとにレタッチや合成を行なった画像を翌週の授業内で提出し、個別に講評を行います。また、動画撮影やドローン、VRなど、フォトグラファーに新たに求められるようになりつつある技術・知識についても実機を用いて実践・紹介していきます。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	授業内容の説明	オリエン。講師の用意した商品の撮影を通じて広告写真の基本的な考え方を学ぶ。	
	2	基本のおさらい①	缶の切り抜き撮影を通じて切り抜き撮影の基本を復習	
	3			
	4			
	5	基本のおさらい②	ボトルの切り抜き撮影を通じて透過物の切り抜き撮影を復習	
	6			
	7			
	8	課題撮影①	講師の提示する課題作品を模写する	
	9	課題撮影②	講師の提示する課題作品を模写する	
	10	課題撮影③	講師の提示する課題作品を模写する	
	11			
	12			
	13	課題撮影④	講師の提示する課題作品を模写する	
	14	動画撮影①	インタビュー動画の撮影を通して、動画撮影の基本を学ぶ	
	15	動画撮影②	ジンバルやドローンなど各種動画撮影機材に触れ、それらの特性を学ぶ	
後期	1	作品撮り①	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する	
	2			
	3			
	4	作品撮り②	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する	
	5			
	6			
	7	作品撮り③	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する	
	8			
	9			
	10	作品撮り④	各自・各グループがテーマ設定から自由に作品を制作する	
	11			
	12			
	13	作品撮り⑤	各自・各グループがテーマ設定から自由に作品を制作する	
	14			
	15			
15	作品撮り⑥	各自・各グループがテーマ設定から自由に作品を制作する		
16				
17				
18	作品撮り⑦	各自・各グループがテーマ設定から自由に作品を制作する		
19				
20				
評価方法	出席状況および課題の提出状況等□			
テキスト 参考書				

科目名	映像制作演習			
開講期	前後期		単位数	3
講師名	小島 真也			
授業概要	一眼レフやミラーレスカメラ、そしてスマートフォンにもムービー撮影&編集の機能が実装されて久しい。 ムービーや映像ではなく「動画」と言われ、撮ることも観ることも身近になった昨今、写真家にもスチルだけでなくムービーのリクエストが増えている。 本講座ではこれまで学んできた写真の技術や経験を踏まえて、映像制作の基本を理論と実践の両面から学ぶ。 4～5名のチームを組んで、ゆくゆくはクライアントから求められるであろう企業VP（ビデオパッケージ）制作のワークフローを1年間かけて“シミュレート”することを目的とする。 キーワードは「映像制作は文章力である」			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	概論	映像制作のワークフロー＋映像基礎知識＋撮影の基本設定	
	2	制作A	制作A（尺：30～45秒）の準備 / 共通課題 ※ページ末尾参照	
	3		撮影（スタジオor自宅にて）	
	4		編集/Premiere Proの基本	
	5		講評と問題点&反省点の共有	
	6	制作B 企画/構成 (1)	企画書の作り方	
	7		制作B（尺：60～180秒）の企画書作成①	
	8		企画書作成②	
	9		企画書を選考→ 調査と構成案① ※以降はチームにて制作	
	10		調査と構成案②	
	11		調査と構成案③	
	12	制作B 撮影	撮影理論①（つながる画を撮るために）	
	13		撮影理論②（つながる画を撮るために）	
	14		撮影理論③（つながる画を撮るために）	
	15	制作B 企画/構成(2)	台本とナレーション原稿①	
後期	1		台本とナレーション原稿②	
	2	制作B 録音(1)	録音理論（インタビュー&ドラマを想定）	
	3	制作B ライティング	ライティング理論＋スタジオ/室内&屋外照明実習	
	4	制作B 収録		
	5		制作Bの収録①②③	
	6			
	7	制作B 編集 (1)	映像編集理論	
	8		仮編集①（Premiere Pro実習）	
	9		仮編集②（Premiere Pro実習）＋仮ナレーション	
	10	制作B 録音 (2)	ナレーション録音実習（1）	
	11		ナレーション録音実習（2）	
	12	制作B カラー グレーディング	カラー理論＋Premiere Pro（Lumetri実習①）	
	13		Premiere Pro（Lumetri実習②）	
	14	制作B 編集(2)	本編集とマルチオーディオ（Premiere Pro実習）	
	15	制作B 講評	講評	
評価方法	制作過程での取り組みと提出課題、仕上がり評価			
テキスト 参考書	授業内での配布プリント、『世界一わかりやすい動画制作の教科書』技術評論社刊/小島真也 著（4月発刊）			

2023

区分

必修

対象

I 部3年制3年  
PAゼミ

科目名	写真読解		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	鳥原 学		
授業概要	<p>写真表現におけるテーマ、技法、使用メディアが完全に多様化した現代において、写真を見て理解するためには多様な観点が必要とされます。「この写真はどのような問題に焦点を当て、それにどのように対処しているのか」という視点から写真を分析する能力が求められます。写真を学ぶ人は、画像に適用されたレイヤーの数を見つけ出したり、アーティスト自身が気付いていないレイヤーを発見する能力を持っている必要があります。写真の意図や作成された文脈を理解するために批判的な目を持つことが重要です。したがって、写真の評価は技術的な側面だけでなく、意味の深さや視聴者に伝える能力に基づくものであると言えます。この授業では、毎回、ある作例を囲んで受講生とともにそれを読解していきます。作例となるのは、著名な写真家の作品と学生の作品を中心に、広告写真、スポーツ写真、家族アルバムなど身近な事例までさまざまである。そのため受講生には各回に写真を持参することを求めます。また、適宜、写真を論じた文章を配布し、写真の読解について理論的に学んでいきます。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	読解①	写真を読むことの可能性（写真描写の特性）。作例読解
	2	読解②	バート「写真のキーコンセプト」から。作例読解
	3	読解③	同上
	4	読解④	同上
	5	読解⑤	シャーカフスキー「写真家の眼」から。作例読解
	6	読解⑥	同上
	7	読解⑦	同上
	8	読解⑧	同上
	9	読解⑨	バルト「明るい部屋」から。作例読解
	10	読解⑩	同上
	11	読解⑪	同上
	12	読解⑫	同上
	13	読解⑬	バージャー「見るということ」から。作例読解
	14	読解⑭	同上
	15	読解⑮	同上
後期	1	読解⑯	写真を読むことの可能性（自己言及性）。作例読解
	2	読解⑰	ベンヤミン「複製技術時代の芸術」から。作例読解
	3	読解⑱	同上
	4	読解⑲	同上
	5	読解⑳	同上
	6	読解㉑	同上
	7	読解㉒	同上
	8	読解㉓	クラウス「写真とシミュラクルの覚書」から作例読解
	9	読解㉔	同上
	10	読解㉕	同上
	11	読解㉖	同上
	12	読解㉗	同上
	13	読解㉘	同上
	14	読解㉙	同上
	15	読解㉚	
評価方法	授業参加への態度。予習状況など。		
テキスト 参考書	甲斐義明編訳『写真の理論』、ディヴィッド・バート『写真のキーコンセプト』、ヴァルター ベンヤミン『複製技術時代の芸術』、ジョン・バージャー『見るということ』、ロラン・バルト『明るい部屋』		



2023

区分

必修

対象

I 部3年制3年  
PAゼミ

科目名	ファインアート演習Ⅱ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	遠藤 麻衣		
授業概要	<p>これまでに培った創作手法をもとに課題制作に応答することで、技術を応用的に用いつつ、コンセプトを練りあげる能力を培います。</p> <p>制作過程の相談や、出来上がった作品をプレゼンすることで、自身の作品を客観的に分析し展開する力を身につけます。</p> <p>展覧会の開催を目標としたグループディスカッションを通して、作品同士の関係性や発表空間に対する構想力を高めていきます。</p> <p>これらの実践的な演習を通して、表現に対する独自の関心や問題意識、そして制作スタイルを見つけることを目指します。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	導入	講師による自己／作品紹介・授業内容説明
	2	作品紹介	学生による自己／作品紹介
	3	課題①	課題に関するレクチャー・制作プラン
	4	課題①	作品制作・制作相談
	5	課題①	作品制作・制作相談
	6	課題①	作品制作・発表準備
	7	課題①	発表
	8	課題①	講評
	9	課題②	課題に関するレクチャー・制作プラン
	10	課題②	作品制作・制作相談
	11	課題②	作品制作・制作相談
	12	課題②	作品制作・発表準備
	13	課題②	発表
	14	課題②	講評
	15	総括	前期の振り返り、今後の展望について
後期	1	導入	展覧会に向けたディスカッション
	2	企画	作品制作プラン・展覧会コンセプト
	3	制作	作品制作・制作相談
	4	制作	会場設営プラン
	5	制作	作品制作・制作相談
	6	中間発表	中間発表
	7		ゲストトーク
	8		ゲストによる講評
	9	制作	作品制作・制作相談
	10	制作	作品制作・制作相談
	11		作品制作・設営準備
	12	設営	展覧会設営
	13	設営	展覧会設営
	14	最終発表	展示・最終発表
	15	総括	展示・講評・総括
評価方法	出席、課題作品評価、課題制作過程評価		
テキスト 参考書	参考文献や参考作品は、その都度授業内で紹介します。		

2023

区分

必修

対象

I 部3年制3年  
PAゼミ

科目名	フोटプレゼンテーション演習Ⅱ		
開講期	前後期		単位数 3
講師名	篠原 俊之		
授業概要	学生自身が進めている写真を中心に据えた創作活動・表現行為について、どのように社会と接点を持つのか、どのようにして自分の活動する場所を獲得していくのかを考えていく時間にしたいと思います。作品の言語化のみならず、レビューを想定したプレゼンテーションのトレーニング、近年増えつつあるビデオプレゼンテーションを日本語と英語で制作することも行います。授業期間中に1度以上、国内外の公募展に応募することもこの授業内でフォローしていきます。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業の説明、準備するもの、心構えなど
	2	講義	プレゼンテーションの目的について
	3		どのような方法が考えられるのか、リサーチしてみます。
	4	講義と実習	GRAPHGATE への応募
	5		コンペって何??? 作品計画書をつくる
	6	講評	GRAPHGATE 応募中間チェック
	7		
	8	実習	言語化のトレーニング 日本語でプレゼン動画を作る（グループワーク）
	9		
	10	実習	日本語でプレゼン動画を作ろう（グループワーク）
	11		
	12	講評	プレゼン動画 発表会
	13		
	14	講義	展示設営体験1
	15	講義	展示設営体験2
後期	1	ガイダンス	後期の授業の進め方について口
	2	講義	夏休み中にお願いした課題の講評を行います
	3		
	4	講義と実習	プレゼン資料を作ってみる
	5		
	6	実習	英語でプレゼン動画を作る
	7		
	8	実習	SNSを使っのプレゼン環境をととのえる
	9		
	10	講義	展示方法を拡張する（額装や、パネル加工を先鋭化してみる）
	11		
	12	講義と講評	プレゼン動画とSNS環境の講評を行います
	13		
	14	ビューイング	ものとしての作品の価値について、講師所蔵のコレクションをビューイングします。ファインアートフォトの現在について、みなさんが夢を持てる話をします。
	15		
評価方法	出席 課題提出 授業への参加態度		
テキスト 参考書	都度説明します		

2023

区分

必修

対象

I 部3年制3年  
PAゼミ

科目名	メディア表現演習Ⅲ			
開講期	前後期		単位数	3
講師名	大槻 彩乃			
授業概要	モーショングラフィック・モーションタイポグラフィなど、アニメーション映像表現を通してAdobe AfterEffectsの基礎操作を習得します。映像における視覚効果の手法を学びます。（進度によって内容を変更する場合があります）			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	持参物
前期	1	オリエンテーション・AE基本1	授業内容の説明・視覚効果についての解説・コンポジット基本	PC、筆記用具
	2	AE基本2	キーフレームアニメーションの説明・制作	
	3	AE基本3	レイヤーマット・カラーキーの説明・制作	
	4	AE基本4	モーションコントロールの説明・ロゴアニメーション制作	
	5	AE基本5	基本エフェクトの説明・制作1	
	6	AE基本6	基本エフェクトの説明・制作2	
	7	AE基本7	マスクアニメーションの説明・制作	
	8	AE基本8	時間制御	
	9	AE基本9	パペットアニメーションの制作	
	10	AE基本10	トラッキングの説明	
	11	AE基本11	3D空間の制御	
	12	AE基本12	テキストを使ったモーションタイポグラフィ	
	13	AE基本13	視覚誘導（PAN・トラックアップ/バック・画面揺らし・手ぶれ画面）	
	14	制作課題	ムービングロゴの制作	
	15	制作課題	ムービングロゴの制作2 発表・講評・解説	
後期	1	AE実践1	エンドロールの制作（キーフレームとエクスプレッション、モ	
	2	AE実践2	視覚効果（雨降らし合成）	
	3	AE実践3	視覚効果（雨降らし合成2）	
	4	AE実践4	視覚効果（光と影の表現）	
	5	AE実践5	視覚効果（炎の表現）	
	6	AE実践6	視覚効果（誇張表現・アクションの視覚効果）	
	7	AE実践7	視覚効果（誇張表現・アクションの視覚効果）	
	8	AE実践8	3D空間上での短編アニメーション1	
	9	AE実践9	3D空間上での短編アニメーション2	
	10	制作課題	3D空間上での短編アニメーション3/最終課題説明についての説明	
	11	制作課題	自己PR動画を作成（30秒）音付き	
	12	制作課題	制作時間	
	13	制作課題	制作時間	
	14	発表・講評	プレゼンテーション・講評	
	15	総括	予備・総括	
評価方法	出席率、課題提出率、課題内容、授業内容の理解度			
テキスト 参考書	ソフト：Adobe After Effects、Illustrator、Photoshop テキスト：After Effects for アニメーション			

2023

区分

必修

対象

I 部・II 部  
2年

科目名	画像処理 II		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	羽立 孝		
授業概要	<p>”イメージ”はコミュニケーションの一つです。”イメージ”を具現化し他者を介し昇華していく上で、デジタル写真をレタッチしていくことはとても重要なことになっています。</p> <p>個々の目的のイメージにより、その必要十分性は変化していきますがそれらの技術を幅広く習得し、またイメージ作成にあたり必要な技術を取捨選択し、最善の結果を得られるイメージづくりができることを目標とします。</p> <p>それぞれの今後の写真への取り組みへの明確な目標、また課題を持ち、授業に望んでください。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	概要	ペンタブレット・Bridge
	2	RAW現像	ヒストグラム、情報
	3	テザー撮影	SONY、CANON、NIKON
	4	Photoshop	レイヤーの仕組み(修復ブラシ・コピースタンプ)
	5	選択範囲	選択範囲およびマスクの概要
	6	パス①	パスの概要
	7	パス②	パスの選択、使い方
	8	パス③	パスを組み合わせる使う
	9	選択範囲	色
	10	選択範囲	輝度
	11	チャンネル	小テスト
	12	トーンカーブ①	ブラシ
	13	トーンカーブ②	ブラシ&情報
	14	テスト	前期内容
	15	回答	
後期	1	前期の復習	確認および補足
	2	スマートオブジェクト	概要(RAW)
	3	スマートオブジェクト	変形
	4	スマートオブジェクト	フィルター
	5	スマートオブジェクト	ゆがみ
	6	スマートオブジェクト	小テスト
	7	スマートオブジェクト	背景延ばし
	8	描画モード	スクリーン
	9	描画モード	乗算
	10	描画モード	乗算
	11	描画モード	乗算
	12	描画モード	オーバーレイ
	13	描画モード	オーバーレイ & カラー
	14	テスト	後期内容
	15	回答	
評価方法	平常点60点(15回出席、減点方式)、期末テスト40		
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

I部3年制2年  
総合写真研究ゼミ

科目名	フォトコミュニケーション演習			
開講期	前後期		単位数	3
講師名	篠原 俊之			
授業概要	写真を活用した社会とのかかわりについて、商業写真と写真表現以外の域で何ができるのかを、リサーチと実践の両面から経験します。 主に前期はSNSの活用を想定したコミュニケーションの取り方を考えていきます。  後期は、主に写真を使った小冊子の制作を進めながら、自分の表現がまだ出会えない人々との結びつきが生まれることを期待しながら 1年 の授業を進めます。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	授業の説明、準備するもの、心構えなど	
	2	講義	写真を使った仕事について カメラマン、創作活動以外に何があるのか	
	3			
	4	研究	SNSを活用したセルフプロモーションについて	
	5			
	6	リサーチと講評	プロモ素材の確認 写真を活用した現場のフィールドワーク	
	7			
	8	講義	写真の選び方、並べ方のポイントなど	
	9			
	10	講義	出来上がった写真の使われ方について 事例を紹介	
	11			
	12	講義と講評	SNS活用の経過確認 と、細部の作りこみについての研究	
	13			
	14	講義	言葉、テキストの挟み方の研究	
	15	講義	前期まとめ	
後期	1	ガイダンス	後期の授業の進め方について	
	2	講義	夏休み中にお願いした課題の講評を行います。	
	3			
	4	研究	紙の特徴を知る リサーチの方法とフィールドワーク	
	5			
	6	実習	紙を使った小冊子にどのように作品を落とし込むかを考えていきます	
	7			
	8	講評	ダミーブックの途中経過を全員で見せ合うことで、選出、配列を考えるヒントを共有します。	
	9			
	10	講義	オンデマンド出版の現在、活用法についての事例を紹介	
	11			
	12	講義と講評	ダミーブックの完成を目指します。講評と事例紹介を通じてよりモノとしての魅力を高める方法を考えます	
	13			
	14	ビューイング	フィールドワーク、プリントや、アートブックのビューイングを通じて現在の写真表現と社会との結びつきについて考えながら、講座を閉じます。	
	15			
評価方法	出席 課題提出 授業への参加態度			
テキスト 参考書	都度説明します			

2023

区分

必修

対象

1 部3年制2年  
総合写真研究ゼミ  
FWゼミ・PAゼミ

科目名	スタジオライティング		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	池谷 友秀		
授業概要	<p>この授業では、基本的なスタジオワークおよび商品撮影のライティングを学びます。 志向する写真の分野関わらず、スタジオワークや商品撮影の知識・技術を身につけることは大変な強みになり得ます。 デジタルカメラを使用し、スタジオ機材の使用手法や商品撮影、ライティングの基本的な え方や組み立て方を学びます。 それと同時に、写真業界への入り口となるアシスタントとして必要な知識もあわせて伝えたいと思います。 前期は基礎となる知識・スキルを学び、後期はより 難易度が 高く実践的な内容に対応する 力を つけます。 コマーシャルフォト志望ではない学生が中心となるため、より実践的・現実的で即現場で役立つ授業内容にし、 将来それぞれの分野で「知ってて良かった」と思えるものにしたいと 考えています。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業内容の説明	自己紹介、カメラの基礎、ライトの基礎
	2	ライティング基礎	丸と球 2次元の立体感について
	3	再現撮影	外の自然光で撮影した写真をスタジオで再現する
	4		外の自然光で撮影した写真をスタジオで再現する
	5	合成写真	背景のみ撮影 スタジオで物
	6		背景素材に合わせた合成撮影
	7	ライティング応用	衣類の撮影
	8		瓶、ボトル
	9		水、多重露光、長時間露光
	10		テーブルフォト
	11		テーブルフォト
	12		スマホ撮影 1
	13		スマホ撮影 2
	14	モデル撮影	モデル撮影 ミーティング
	15		モデル撮影
後期	1	フード撮影	フード撮影
	2		フード撮影 2
	3	透過光	瓶、ボトル 撮影
	4	素材感	アクセサリー
	5		アクセサリー イメージ
	6		カメラを撮影
	7		革ジャケット
	8	応用	撮影したいイメージ写真を持参して撮影
	9		撮影したいイメージ写真を持参して撮影
	10	モデル撮影	モデル撮影 ライティング
	11		モデル撮影 ライティング(透過)
	12	自主企画	企画書 作成
	13		企画書に則った撮影
	14		企画書に則った撮影
	15		作品提出
評価方法	出席状況、レポート、課題の提出状況等		
テキスト 参考書	講師が適宜用意する。		

科目名	写真美術史		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	山市 直佑		
授業概要	<p>1839年に写真術が公表されて以降、2023年現在にいたるまで写真は私たちの日常に欠かすことのできない存在としてあり続けています。写真を含む様々なメディアが1900年を境に普及し、美術に強い影響を及ぼしました。本講義では、美術全体の流れと写真の歴史を関連付けつつ、歴史全体を概観します。その上で、自身の写真がどのような位置づけにあるのか、どんな写真をこれから作っていくのかを考えられる力を身に着けることが目的です。</p> <p>授業の中では実際に写真集に触れたり、美術展を訪れたりし、そこで得た着想を言葉にします。自分の作品に落とし込むための方法論を学びます。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業紹介	イントロダクション～自分の好きな写真家を探そう
	2	プレゼン	第1回で選んだ写真家をクラスメイトに紹介する(プレゼンテーション発表)
	3	講義	第2回で登場した写真家を解説
	4	講義	それぞれの写真集を見てみよう
	5	展示見学	美術展見学～レポート提出
	6	ディスカッション	2～5回の授業を通じ、討議
	7	美術とは	美術の歴史①
	8	美術とは	美術の歴史②
	9	展示見学	美術展見学～レポート提出
	10	ディスカッション	7～8回の授業を通じ、討議
	11	写真史	写真の登場、メディア革命について
	12	系譜について	ターニングポイントとなる写真家①
	13		ターニングポイントとなる写真家②
	14		ターニングポイントとなる写真家③
	15	まとめ	まとめ
後期	1	授業紹介	イントロダクション
	2	系譜について	ターニングポイントとなる写真家④
	3		ターニングポイントとなる写真家⑤
	4		ターニングポイントとなる写真家⑥
	5	展示見学	美術展見学～レポート提出
	6	ディスカッション	2～5回の授業を通じ、討議
	7	現代美術における写真	写真と美術
	8		Michael Friedの視点から①
	9		Michael Friedの視点から②
	10	展示見学	美術展見学～レポート提出
	11	ディスカッション	7～10回の授業を通じ、討議
	12	現代美術における写真	Michael Friedの視点から③
	13		Michael Friedの視点から④
	14	ディスカッション	全体の授業を通じ、討議
	15	まとめ	まとめ
評価方法	出席、提出課題などをみて総合的に評価します。		
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
総合写真研究ゼミ

科目名	デザイン演習		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	松野 正也		
授業概要	<p>●社会やクライアントの本質的な課題発見から、クリエイティブの力で課題解決を行う能力を養います。</p> <p>●後期はゲスト講師を迎え、クリエイティブな事例紹介から、課題解決方法や表現の可能性を広げるヒントを得ていただきます。</p> <p>●課題の評価は、適切な成果が想定できることや、既視感のない斬新なアイデアをより高く評価します。</p> <p>【目標】課題の発見→調査と分析→アイデアの吟味→プロトタイピング→改善→解決のためのアウトプット、といった現代のビジネスシーンで必要とされるデザイン思考とプロセスの設計・実践力を身につける</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエン～写真で表現①	オリエンテーション／自分を表す写真とキャッチコピーを制作
	2	写真で表現②	自分以外の相手を表す3枚の写真とキャッチコピーで表現します
	3	学びのデザイン	互いのアイデアを尊重し、誰もが主体的に取り組める授業とは。自分とクラスの仲間それぞれの将来性を踏まえた、理想的な学び方をグループワークで導き出す
	4	広告の基礎①	消費者を行動に移す広告の「自分ごと化」プロセスについて
	5	広告ハンティング①	外出し、旬な広告を見つけてくる。広告表現の分析を行います。分析シートを提出 《課題提出 10点満点》
	6	広告ハンティング②	課題点の抽出にこだわり、より上流からの視点で広告を分析。分析シートを提出 《課題提出 10点満点》
	7	広告の基礎②	広告制作において抑えるべきイシュー「What to say」と「How to say」について。またそれを見出すトレーニング
	8	クリエイティブ・シンキング①	「写真で一言」の発想と「一言から写真」の発想／シート提出 《課題提出 10点満点》
	9	クリエイティブ・シンキング②	発想の瞬発力を鍛える。ウィットに富んだダジャレを生み出す思考力を鍛えます
	10	ロジカル・シンキング	論理的思考を鍛える演習を行います
	11	コンセプト・デザイン	物事を概念で捉える演習。本質を掘り起こし、課題やビジョンを定義化します
	12	インクルーシブ・デザイン	インクルーシブデザイン概要と、課題解決への活かし方について
	13	課題制作 A-①	取り組むべき社会課題の抽出
	14	課題制作 A-②	解決方法のアイデア出し、アウトプットのプランニング
	15	課題制作 A-③	プレゼンテーション&レビュー 《20点満点評価》
後期	1	オリエン～写真で表現	オリエンテーション／自分を表す3枚の写真とキャッチコピー制作。グループ内で共有。□
	2	広告的思考	消費者を行動に移す広告の「自分ごと化」プロセスについて
	3	ロジカル&コンセプト・シンキング	論理的思考を持つための演習および物事を概念で捉える演習。本質を掘り起こし、課題やビジョンを定義化します
	4	クリエイティブ・シンキング①	より広く発想を広げる訓練を行います
	5	クリエイティブ・シンキング②	新しい桃太郎を考える 《課題提出 10点満点》
	6	プロトタイピングとエレベーターピッチ	漠然なものを形にする。フィードバックを繰り返し改善していくプロセスと、短時間で効率的に相手に伝える手段
	7	アウトプットの可能性①	メッセージ材としての“紙メディア”を学ぶ。機能と表現それぞれ両立するデザインの可能性 (ゲスト外部講師2名予定) ※調整中
	8	アウトプットの可能性②	フォトグラファーとデザイナー混合チームでのデザイン制作。テーマ・コンセプト立案。企画提案 《課題提出 15点満点》
	9	社会課題解決ワークショップ①	チームビルディング、プランニング (ゲスト講師：調整中)
	10	社会課題解決ワークショップ②	プランニングレビュー・クリエイティブ制作
	11	社会課題解決ワークショップ③	プレゼンテーション・レビュー (ゲスト講師：調整中) 《課題提出 15点満点》
	12	セルフブランディング①	自分をどのように表現・演出し、世の中の共感を得ていくのか (ゲスト講師：富士東洋理髪店 阿部 高大氏) ※調整中
	13	セルフブランディング②	名刺のデザイン。《課題提出 10点満点》
	14	アウトプット	デザインした名刺のアウトプット。プリントを通して表現の可能性を探る。 (ゲスト講師：FLATLABO小須田氏) ※調整中
	15	総括	講義全体の振り返り、質疑応答、キャリア相談など
評価方法	授業出席率含む平常点：30% 課題評価：70%		
テキスト 参考書	なし		



2023

区分

必修

対象

I部3年制2年  
総合写真研究ゼミ

科目名	写真創作演習		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	馬場 智行		
授業概要	<p>手法の用い方が自分自身の撮影行為とどのように関係するか、また観賞者にとってどのような意味として表されるのかを体験し、表現の引き出しを増やす事、及び選択の仕方の基準を得る事をこの授業の目的とします。</p> <p>前期：合宿の地である清里での作品制作のためのテーマと手法を模索していきます。清里で製作したいテーマの設定を、各々が調べた清里の情報を材料にディスカッションして検討していきます。これに並行して、手法の研究として新宿・銀座・赤羽などの東京における特徴的な場所を対象に撮影したものを題材に手法の研究を行なっていきます。これに基づき、清里で製作する作品に対して、用いる手法を検討していきます。</p> <p>後期：ゼミ展で取り組む各々の作品に対して、様々な手法を用いて実験的に撮影していきます。それを通して、手法の検証と作品自体の理解を深めていきます。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	授業内容の説明 一年時に制作した課題10枚程度各自持参
	2	1-1	ディスカッション1 撮影地について ディスカッション2 手法研究
	3	1-2	ディスカッション1 撮影地について ディスカッション2 手法研究
	4	1-3	ディスカッション1 撮影地について ディスカッション2 手法研究
	5	1-4	ディスカッション1 撮影地について ディスカッション2 手法研究
	6	1-5	ディスカッション1 撮影地について ディスカッション2 手法研究
	7	1-6	ディスカッション1 撮影地について ディスカッション2 手法研究
	8	2-1	テーマ検討 手法の検討
	9	2-2	テーマ検討 手法の検討
	10	2-3	テーマ検討 手法の検討
	11	2-4	テーマ検討 手法の検討
	12	2-5	テーマ検討 手法の検討
	13	2-6	テーマ検討 手法の検討
	14	合宿の成果発表	合宿の成果発表
	15	後期授業説明	後期授業の説明
後期	1	1-1	ゼミグループ1 ディスカッション1 手法の変化による作品への影響について ディスカッション2 手法の効果について
	2	1-2	ゼミグループ2 ディスカッション1 手法の変化による作品への影響について
	3	1-3	ゼミグループ3 ディスカッション1 手法の変化による作品への影響について
	4	1-4	ゼミグループ1 ディスカッション1 手法の変化による作品への影響について
	5	1-5	ゼミグループ2 ディスカッション1 手法の変化による作品への影響について
	6	1-6	ゼミグループ3 ディスカッション1 手法の変化による作品への影響について
	7	提出・発表	自身の作品を言語化 レポート提出と口頭での発表
	8	2-1	グループ1 ディスカッション1 手法の変化による作品への影響について ディスカッション2 手法の効果について
	9	2-2	グループ2 ディスカッション1 手法の変化による作品への影響について ディスカッション2 手法の効果について
	10	2-3	グループ3 ディスカッション1 手法の変化による作品への影響について ディスカッション2 手法の効果について
	11	2-4	グループ1 ディスカッション1 手法の変化による作品への影響について ディスカッション2 手法の効果について
	12	2-5	グループ2 ディスカッション1 手法の変化による作品への影響について ディスカッション2 手法の効果について
	13	2-6	グループ3 ディスカッション1 手法の変化による作品への影響について ディスカッション2 手法の効果について
	14	提出・発表1	自身の作品を言語化 レポート提出と口頭での発表 前半
	15	提出・発表2	自身の作品を言語化 レポート提出と口頭での発表 後半
評価方法	課題提出、提出頻度、課題内容、出席回数		
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定		

2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
FWゼミ・PAゼミ

科目名	ファインプリントⅡ/ファインアート演習Ⅰ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	松井 寛泰		
授業概要	この授業では古典技法のプリント制作を軸として様々な写真の表現技法を身につけてもらうことを目的としています。作者が薬品を調合して印画紙から制作する古典技法のプリントは海外でも作家性の強いオリジナルプリントとして評価されています。自分の作品内容に合わせて自由に扱えるプリント技法を身につけ、幅広い表現方法に生かしてもらいたいと思います。授業の進捗状況により内容を調整する場合があります。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	各種古典技法紹介 美術品としてのプリント
	2	現像	35mmフィルム現像復習
	3	プリント	RCペーパーを使用して濃度、コントラストの再確認
	4	プリント	〃
	5	講義/実技	サイアノタイプ説明 薬品製作 プリントチェック
	6	古典技法	サイアノタイププリント フォトグラム
	7	プリント	サイアノタイプ予備日 又はプリント特殊技法
	8	講義	4x5使い方 シートフィルム現像方法説明
	9	撮影	4x5撮影
	10	現像	4x5現像
	11	プリント	銀塩プリント(4x5)
	12	講義/実技	プリントチェック スポットティング
	13	古典技法	サイアノタイプ2
	14	古典技法	サイアノタイプ予備日 又はバライタ紙と調色について講義
	15	講評	前期作品講評
後期	1	講義	前期復習 紫外線露光器について 各自の後期テーマを検討
	2	古典技法	ソルトプリント説明 薬品製作
	3	古典技法	ソルトプリント フォトグラム又は4x5コンタクトプリント
	4	講義/実技	ヴァンダイクブラウンプリント説明 薬品製作
	5	古典技法	ヴァンダイクブラウンプリント フォトグラム又は4x5ネガ
	6	講義	デジタルネガ説明
	7	実技	デジタルネガ制作 ヴァンダイクブラウン又はサイアノタイプ
	8	実技	〃
	9	古典技法	プリント制作
	10	古典技法	プリント制作
	11	講義	作品検討
	12	作品制作	作品制作期間
	13	作品制作	〃
	14	作品制作	〃
	15	講評	まとめ 課題提出
評価方法			
テキスト 参考書			

2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
FWゼミ

科目名	フィールドワークプランニング		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	五十嵐 太二・江澤 勇介・山市 直佑		
授業概要	<p>この授業は、3年次を実施する海外フィールドワーク（以下FW）の撮影企画と行動計画の立案、海外FW時を想定した作品を作成することを目的とします。前期はテーマ立案、企画書作成を経て自分の企画を担当講師陣との面談時にプレゼンテーションするための写真作品を作ります。後期は、撮影日程・移動・宿泊等、海外FWで実際に行動するための行動計画の作成、そして前期に引き続き海外FW想定作品を作成します。また、海外FWのブリーフィングや現地にて行う写真による社会貢献活動の準備、予防接種等も行ないます。</p> <p>尚、海外FW時の行動適正を判断するために、理由のない遅刻、欠席、課題提出の遅れは正確に把握し、シビアに判断しますので注意して下さい。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	「フィールドワーク」について／立案のガイド／ヒアリング(想定しているテーマの確認)
	2	企画立案	
	3	企画書制作	企画書制作 企画概要・撮影条件を考える
	4	社会貢献企画	海外FW「写真による社会貢献活動」解説と計画
	5	企画書制作	企画書制作 撮影条件の決定 FW想定作品検討①
	6	企画書制作	企画書制作 撮影計画① FW想定作品検討②
	7	社会貢献企画	アジア学院企画プレゼンテーション
	8	社会貢献企画	アジア学院での実施企画の確認
	9	社会貢献企画	アジア学院企画のまとめ、振り返り
	10		プレ海外フィールドワーク企画への落とし込み① FW想定作品検討③
	11		プレ海外フィールドワーク企画への落とし込み② FW想定作品検討④
	12		海外FW「写真による社会貢献活動」企画のプレゼンテーション
	13		企画書制作 撮影計画② FW想定作品検討⑤
	14		企画書制作 撮影計画③(プロットの確認、再撮影の確認) FW想定作品検討⑥
	15		海外渡航のブリーフィング
後期	1		第1回面談、マレーシアFWを受けての変更、および修正
	2	作品検討	FW想定作品検討⑦
	3	作品検討	FW想定作品検討⑧
	4	企画書制作	企画書完成版提出
	5	社会貢献企画	海外FW「写真による社会貢献活動」企画の必要な作業の実行 ex. 取材依頼 等
	6	ブリーフィング	FW訪問国ブリーフィング① FW想定作品検討⑨
	7	ブリーフィング	FW訪問国ブリーフィング② FW想定作品検討⑩
	8	行動計画	行動計画についての解説（FWにおける行動計画とは）
	9	ブリーフィング	ブリーフィング③(定時連絡、危機管理等)
	10	社会貢献企画	ブリーフィング④(準備物等) 社会貢献活動」企画の必要な作業の実行
	11	行動計画	進行状況確認①
	12	予防接種	予防接種①(破傷風、狂犬病、A型肝炎、B型肝炎、日本脳炎、腸チフス)／海外渡航安全情報
	13	行動計画／社会貢献企画	進行状況確認②
	14	予防接種	予防接種②(狂犬病、A型肝炎、B型肝炎) ／海外渡航安全情報
	15	行動計画	行動計画のまとめ
評価方法	出席、企画書と行動計画表の完成度、FW想定作品の進行状況		
テキスト 参考書	ガイドブック、アジア各国の資料、※授業ではノートPC、Microsoft officeを使用。		

2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
FWゼミ

科目名	ディベート演習 I		
開講期	後期	単位数	1.5
講師名	藤山 新		
授業概要	<p>この授業では、特に自らの作品について説明する場面などを念頭に、自らの体験や考えを他者に伝えるうえで必要な知識や技術を身につけることを目指します。また、社会的な課題について理解を深め、異なる立場の意見を理解しながら議論をするための基礎的な事柄についても、講義と実習で学びます。</p> <p>そのため、基本的には全員が毎回何らかの口頭発表を行うことを予定しています。積極的な授業への参加姿勢が求められますので、そのつもりで受講してください。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	イントロダクション	自分を知り、伝えることに関する講義とワーク
	2	情報整理	情報整理に関する講義とワーク、作品情報棚卸しワーク
	3	アイデアを出し、まとめる	企画会議ワークショップ
	4	フィールドワークの思想と実際	社会学分野におけるフィールドワークに関する講義
	5	語彙力を鍛える	語彙に関する講義とワーク
	6	思いを伝える	ビブリオバトルワーク
	7	思いを伝える	ビブリオバトルワーク
	8	伝える技術	論理的な情報発信に関する講義とワーク
	9	ディベートのフォーマット1	ディベートの基礎についての講義とワーク
	10	ディベートのフォーマット2	ディベートの基礎についての講義とワーク
	11	show and tell	考現学に関する講義とshow and tell ワーク
	12	写真と言葉	ステートメント作成ワーク
	13	自分を語る	インタビューに関する講義とミニワーク
	14	インタビュー実践	インタビューとそのとりまとめに関するワーク
	15	まとめ	最終回に改めて考える、あなたの作品テーマ
評価方法	各回の授業への参画度（単なる出席率ではありません）と、実習への取組意欲、成果を総合的に判断して評価します。		
テキスト参考書	特になし。参考資料は授業内で適宜提示します。		

2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
FWゼミ

科目名	写真創作演習		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	志村 賢一		
授業概要	<p>この授業では、主にフィールドワーク3年次の海外フィールドワークを念頭におき、作品を作る工程、撮影手法について学んでいきます。前期は国内におけるテーマを一つ設定し、作品を作るとともに、取材ベースでの特集記事を作る上での必要な撮影方法を学びます。昨今、作品や記事の発表は印刷ベースのメディアが圧倒的に減り、Webベースのメディアが増えていきます。その中で、どうドキュメンタリー作品を社会に発表するかを考え、動画でのインタビューの撮り方や撮影の仕方も学んでいきたいと思ひます。後期はみんなでテーマを設定して、写真作品とともに動画作品も一つ制作していくことを目標とします。最終的な目標は卒業後、映像の世界で生活していくことを目標に技術を習得していきます。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	自己紹介	各自の撮ってきた写真を見ながらディスカッション
	2	テーマ設定、 カウンセリング	各自の考えてきた、『国内テーマ』をもとにディスカッション その撮影方法アプローチについてカウンセリング
	3		
	4		
	5	行動予定表作成	実際に撮影するにあたっての、細かい行動予定を立てる。
	6		
	7	中間講評	写真を編集し、ストーリーボードを作る
	8		
	9		
	10		
	11	発表	『国内テーマ』を完成させ発表、ポートフォリオを作る
	12		
	13		
	14		
	15	まとめ	制作した写真集を見ながら写真集の可能性についてディスカッション
後期	1	主題について ディスカッション カウンセリング	後期で制作したいテーマについてディスカッション 後期は動画作品を制作するため、動画の基本的な手法を学ぶ
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7	撮影編集	写真や動画を編集し、ストーリーボードのレイアウトを実際に素材を使って考える
	8		
	9		
	10		
	11	作品制作	最終的な写真、動画作品を制作して完成させる。
	12		
	13		
	14		
	15	まとめ	制作した作品を見ながらディスカッションする
評価方法	課題への取り組み・出席		
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定します。		

科目名	近現代アート史		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	鳥原 学		
授業概要	近現代アート史は、主に写真発明以降の美術の諸相を扱う科目です。写真がアートに与えた影響、アートが写真に与えた影響を考えます。その目的は、PA科学生が自分の作品制作について考える多様な視点を育てることです。 アート史について理解するには、その作品や作家が生まれた文脈を知ることが必要です。また何より、じっさいの作品をその目で見なければ。その知識は活かせません。そこでこの授業では指定したテキストを使用しますが、中心となるのは展覧会の鑑賞とそのレポートです。講師は展覧会を指定しますので、そのレポートを発表してもらいます。指定する展示について、調べ、自分の考え方を述べることを通じて、近現代のアート史を身近なものとして感じてもらいます。 期末には、これまで鑑賞した展示のなかからテーマを選び、考察を深めたレポート課題を発表してもらいます。		
授業計画		主題・目的	授業予定
前期	1	アート史の基礎	ガイダンスと展示鑑賞 東京国立近代美術館集合
	2	課題発表	前回の展示についてのレポートの発表とディスカッション
	3	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）
	4	課題発表	レポート発表とディスカッション
	5	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）
	6	鑑賞	予定：アーティゾン美術館
	7	課題発表	レポート発表とディスカッション
	8	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）
	9	鑑賞	予定：東京国立近代美術館
	10	課題発表	レポート発表とディスカッション
	11	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）
	12	鑑賞	予定：国立新美術館
	13	課題発表	レポート発表とディスカッション
	14	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）
	15	期末発表	期末課題の発表
後期	1	鑑賞	予定：東京都写真美術館
	2	課題発表	レポート発表とディスカッション
	3	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）
	4	鑑賞	予定：東京都現代美術館
	5	課題発表	レポート発表とディスカッション
	6	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）
	7	鑑賞	未定
	8	課題発表	レポート発表とディスカッション
	9	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）
	10	鑑賞	未定
	11	課題発表	レポート発表とディスカッション
	12	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）
	13	鑑賞	未定
	14	課題発表	レポート発表とディスカッション
	15	期末発表	期末課題の発表
評価方法	出席回数とレポートの内容から総合的に判断		
テキスト 参考書	デイヴィッド・ホックニー マーティン・ゲイフォード 『絵画の歴史 洞窟壁画からiPadまで <増補普及版>』（青幻舎）		

2023				区分	必修	対象	1 部3年制 2年PAゼミ 1 部3年制3年 総合写真研究ゼミ		
科目名	メディア表現論								
開講期	前後期				単位数	3			
講師名	関 貴尚								
授業概要	近現代美術の歴史とは、メディアの多様化の歴史であるといえるだろう。キュビズムや抽象の登場以降、美術は外界の対象を模倣することをやめ、一見してそれとわかるような明確な主題を失うとともに表現手段であるメディアもまた多様化していった。それはまた、市民社会の成立や資本主義の発達、新たなテクノロジーの登場、二度の世界大戦など社会状況の変化とも密接にかかわっている。したがって、美術作品を読み解くためには、どのような歴史・社会的条件のもとで作品がつけられたのかを学ぶことが不可欠となる。 この講義では、近現代美術を理解するうえで重要なテキストを毎回1本ずつとりあげ、美術作品を提示・分析しながら論じることで、狭義の美術のみならず視覚文化一般に対する読解能力を養う。テキストは講義の前週に配布する。授業内容の理解のためにも各自読んでおくこと。								
授業計画	回数	主題・目的	授業予定						
前期	1	オリエンテーション	本講義の基本方針						
	2	近現代美術史	D・H・カーンワイラー「キュビズムへの道」						
	3	近現代美術史	F・T・マリネッティ「未来派文学技術宣言」						
	4	近現代美術史	ヴァルター・ベンヤミン「複製技術時代における芸術作品」						
	5	近現代美術史	エル・リシツキー「芸術と汎幾何学」						
	6	近現代美術史	アンドレ・ブルトン「シュルレアリスム芸術の発生と展望」						
	7	近現代美術史	サルバドール・ダリ「偏執狂的批判的方法」						
	8	近現代美術史	クレメント・グリーンバーグ「モダニズムの絵画」						
	9	近現代美術史	クレメント・グリーンバーグ「抽象表現主義以後」						
	10	近現代美術史	マイケル・フリード「芸術と客体性」						
	11	近現代美術史	ドナルド・ジャッド「スペシフィック・オブジェクト」						
	12	近現代美術史	ロザリンド・クラウス「展開された場における彫刻」						
	13	近現代美術史	ダグラス・クリンプ「サイト・スペシフィシティの再定義」						
	14	近現代美術史	ロバート・スミッソン「精神の堆積作用」						
	15	近現代美術史	E・H・ゴンブリッチ「棒馬考」						
後期	1	近現代美術史	ルーシー・リパード「芸術の非物質化」						
	2	近現代美術史	ミシェル・フーコー「これはパイプではない」						
	3	近現代美術史	ロザリンド・クラウス「指標論」						
	4	近現代美術史	ロザリンド・クラウス「ビデオ：ナルシシズムの美学」						
	5	近現代美術史	クレイグ・オーウェンス「アレゴリー的衝動」						
	6	近現代美術史	ハル・フォスター「民族誌家としてのアーティスト」						
	7	近現代美術史	クレア・ビショップ「敵対性と関係性の美学」						
	8	ケーススタディ1	各自が設定したテーマについて発表し、みんなで議論する。						
	9	ケーススタディ2							
	10	ケーススタディ3							
	11	ケーススタディ4							
	12	ケーススタディ5							
	13	ケーススタディ6							
	14	ケーススタディ7							
	15	ケーススタディ8							
評価方法	出席、授業態度、レポートなどで総合的に評価します。								
テキスト 参考書	ハル・フォスター他編著『ART SINCE 1900:図鑑 1900年以後の芸術』（尾崎信一郎他訳、東京書籍、2019年）。個別テーマにかんしては授業内で適宜指示します。								

2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
PAゼミ

科目名	写真表現演習Ⅲ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	村越 としや		
授業概要	<p>写真がなかった時代、物事は文字や絵にして残しておかなければ、それを覚えている人間がいなくなると同時に消えるものであった。</p> <p>そんななか、元々自然の法則や自然の現象から写真が発見され、そして科学や技術の発展により、現在では多くの人がカメラを持ち歩き、写真や動画で物事を記録し、すぐにsnsやwebなどに保存、保管することが出来るようになった。</p> <p>結果、今現在も目には見えないデータとして想像もつかないほど大量の写真がweb上に存在し増え続けている。</p> <p>こうした歴史的背景を踏まえたうえで、この授業では、写真が大量生産、大量消費されているからこそ、改めて「写真術」とは何かを考え、明らかにする。</p> <p>前半は歴史的経緯の一部を体験し、後半は各自の写真作品発表と参加者同士での講評・意見交換を中心に行うことを通して、授業を展開する。</p> <p>おおまかな授業計画は以下の通りだが、受講者の関心や進度に応じて柔軟に変更対応する。</p>		
授業計画		主題・目的	授業予定
前期	1		授業の流れについて
	2		写真の発明から現代の写真の在り方
	3		機械式のカメラを分解し、構造を理解する
	4		機械式のカメラを分解し、構造を理解する
	5		機械式のカメラを分解し、構造を理解する
	6		機械式のカメラを分解し、構造を理解する
	7		ピンホールカメラ 製作
	8		ピンホールカメラ 撮影と現像
	9		ピンホールカメラ 発表と意見交換
	10		シルクスクリーン 印刷について
	11		シルクスクリーン 写真の選択
	12		シルクスクリーン データ制作
	13		シルクスクリーン 印刷
	14		シルクスクリーン 発表と意見交換
	15		講評
後期	1		ガイダンス
	2		制作、発表、意見交換
	3		制作、発表、意見交換
	4		制作、発表、意見交換
	5		制作、発表、意見交換
	6		制作、発表、意見交換
	7		制作、発表、意見交換
	8		制作、発表、意見交換
	9		制作、発表、意見交換
	10		制作、発表、意見交換
	11		制作、発表、意見交換
	12		制作、発表、意見交換
	13		制作、発表、意見交換
	14		制作、発表、意見交換
	15		講評
評価方法	出席、授業内容の理解		
テキスト 参考書			



2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
FWゼミ・PAゼミ

科目名	ファインアート演習 I / ファインプリント II		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	松井 寛泰		
授業概要	この授業では古典技法のプリント制作を軸として様々な写真の表現技法を身につけてもらうことを目的としています。作者が薬品を調合して印画紙から制作する古典技法のプリントは海外でも作家性の強いオリジナルプリントとして評価されています。自分の作品内容に合わせて自由に扱えるプリント技法を身につけ、幅広い表現方法に生かしてもらいたいと思います。授業の進捗状況により内容を調整する場合があります。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	各種古典技法紹介 美術品としてのプリント
	2	現像	35mmフィルム現像復習
	3	プリント	RCペーパーを使用して濃度、コントラストの再確認
	4	プリント	〃
	5	講義/実技	サイアノタイプ説明 薬品製作 プリントチェック
	6	古典技法	サイアノタイププリント フォトグラム
	7	プリント	サイアノタイプ予備日 又はプリント特殊技法
	8	講義	4x5使い方 シートフィルム現像方法説明
	9	撮影	4x5撮影
	10	現像	4x5現像
	11	プリント	銀塩プリント(4x5)
	12	講義/実技	プリントチェック スポットティング
	13	古典技法	サイアノタイプ2
	14	古典技法	サイアノタイプ予備日 又はバライタ紙と調色について講義
	15	講評	前期作品講評
後期	1	講義	前期復習 紫外線露光器について 各自の後期テーマを検討
	2	古典技法	ソルトプリント説明 薬品製作
	3	古典技法	ソルトプリント フォトグラム又は4x5コンタクトプリント
	4	講義/実技	ヴァンダイクブラウンプリント説明 薬品製作
	5	古典技法	ヴァンダイクブラウンプリント フォトグラム又は4x5ネガ
	6	講義	デジタルネガ説明
	7	実技	デジタルネガ制作 ヴァンダイクブラウン又はサイアノタイプ
	8	実技	〃
	9	古典技法	プリント制作
	10	古典技法	プリント制作
	11	講義	作品検討
	12	作品制作	作品制作期間
	13	作品制作	〃
	14	作品制作	〃
	15	講評	まとめ 課題提出
評価方法			
テキスト 参考書			

科目名	メディア表現演習 I		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	須田 拓也		
授業概要	<p>この授業では、現代においてとても身近なメディアであるWebのしくみや作り方を学びます。Webでの表現や発信はSNSやさまざまなサービスを利用することでも可能ですが、HTMLやCSSといった技術を学ぶことで自分だけのWebサイトを作ることができます。ポートフォリオサイトを制作して役立てることもできるでしょう。</p> <p>前期後期を通してWebサイトの作り方や公開の方法を学び、後期はWebに関する資格試験で問われる知識や技術と同等の内容の練習問題にも取り組みます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自身の表現に活かせるようにWebに関する基本的な知識と技術を身につける。</li><li>・Webサイトを制作・公開・運用する一連の手順を経験する。</li></ul>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業内容の説明、制作環境の準備
	2	Webのしくみ	Webのしくみ
	3	HTML、CSS 入門	HTML、CSSの基礎
	4		
	5	Webサイトの公開	Webサイトの公開について
	6	中間課題	課題の制作
	7		課題の制作・講評
	8	Webサイトの 設計・運用	Webサイトの設計・運用について
	9		
	10	まとめ	まとめと補足
	11	期末課題	期末課題の制作
	12		期末課題の発表・講評
	13		
	14		
	15		
後期	1	前期の復習	前期の復習
	2	HTMLとCSS	HTMLの基礎と応用
	3		CSSの基礎と応用
	4	課題	練習問題
	5	テーブルとフォーム	テーブル
	6		フォーム
	7	課題	練習問題
	8	レイアウト	マルチカラムのレイアウト
	9		グリッド状のレイアウト
	10	課題	練習問題
	11	まとめと発展	発展的なWeb表現の紹介
	12		まとめと補足
	13	期末課題	期末課題の制作
	14		
	15		期末課題の発表
評価方法	出席率、提出課題内容から総合的に評価します。		
テキスト 参考書	必要に応じて配布します。		

2023

区分

必修

対象

I 部3年制2年  
PAゼミ

科目名	メディア表現演習Ⅱ		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	栗林 武		
授業概要	<p>動画の制作について必要な知識を学ぶ。            動画制作に必要なソフト（Adobe PremiereとAfterEffects）の基礎的な使い方を学ぶ。</p>		
授業計画	主題・目的	授業予定	
前期	1	オリエン	授業説明
	2	映像基礎	動画の知識・成り立ちなど
	3	撮影基礎	動画撮影の方法（業務用カメラなどの説明）
	4		撮影方法について、パラパラ動画の撮影
	5	課題1	パラパラ動画の編集・Premiereの説明
	6		タイトル・音を入れる
	7		音の編集
	8		動画の加工（スローモーションや色補正など）
	9	課題2	アクションつなぎとは
	10		アクションつなぎ編集つづき（オーディオチャンネルの選択）
	11		アクションつなぎ提出（オーディオエフェクト・ダイナミクス操作など）
	12	編集	ライブ編集について
	13		ライブ編集つづき
	14		クロマキーについて
	15	予備日	
後期	1	AE基礎1	トラッカーの使い方
	2		スマホ映像に合成。合成の方法（色調補正など）
	3	AE基礎2	アニメーション基礎
	4		〃
	5		〃
	6	課題3	実写に合成
	7		課題制作
	8		課題提出
	9	AE基礎3	エフェクトについて
	10		絵コンテについて
	11	課題4	絵コンテ作成
	12		予告編をつくってみる（PremiereとAEの連携）
	13		〃
	14		提出
	15	予備日	※カリキュラム概要の予定は変更になる場合があります
評価方法	授業出席回数と提出課題の評価点		
テキスト 参考書			

2023	区分		必修	対象	I 部・II 部 2年
科目名	画像処理Ⅱ				
開講期	前後期			単位数	3
講師名	羽立 孝				
授業概要	”イメージ”はコミュニケーションの一つです。”イメージ”を具現化し他者を介し昇華していく上で、デジタル写真をレタッチしていくことはとても重要なことになっています。 個々の目的のイメージにより、その必要十分性は変化していきますがそれらの技術を幅広く習得し、またイメージ作成にあたり必要な技術を取捨選択し、最善の結果を得られるイメージづくりができることを目標とします。 それぞれの今後の写真への取り組みへの明確な目標、また課題を持ち、授業に望んでください。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	概要	ペンタブレット・Bridge		
	2	RAW現像	ヒストグラム、情報		
	3	テザー撮影	SONY、CANON、NIKON		
	4	Photoshop	レイヤーの仕組み(修復ブラシ・コピースタンプ)		
	5	選択範囲	選択範囲およびマスクの概要		
	6	パス①	パスの概要		
	7	パス②	パスの選択、使い方		
	8	パス③	パスを組み合わせる使う		
	9	選択範囲	色		
	10	選択範囲	輝度		
	11	チャンネル	小テスト		
	12	トーンカーブ①	ブラシ		
	13	トーンカーブ②	ブラシ&情報		
	14	テスト	前期内容		
	15	回答			
後期	1	前期の復習	確認および補足		
	2	スマートオブジェクト	概要(RAW)		
	3	スマートオブジェクト	変形		
	4	スマートオブジェクト	フィルター		
	5	スマートオブジェクト	ゆがみ		
	6	スマートオブジェクト	小テスト		
	7	スマートオブジェクト	背景延ばし		
	8	描画モード	スクリーン		
	9	描画モード	乗算		
	10	描画モード	乗算		
	11	描画モード	乗算		
	12	描画モード	オーバーレイ		
	13	描画モード	オーバーレイ & カラー		
	14	テスト	後期内容		
	15	回答			
評価方法	平常点60点(15回出席、減点方式)、期末テスト40				
テキスト 参考書					

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年生  
I 部3年制3年生

科目名	フォローアップ講座		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	教務課・キャリアセンター・山ノ手写真 安部先生		
授業概要	<p>卒業年度に進級おめでとうございます。この授業では、(1)卒業作品展に向けた準備(2)就職やデビューに向けた準備、(3)キャリアに対する考え方や活動の進め方を中心に学んでいきます。卒業作品展に向けた準備ではいろいろな展示方法や、作家の紹介などを通じて、自分の作品に対するイメージを膨らませていきます。実際の制作に活かした、よい卒業作品展を目指しましょう。</p> <p>また、(2)や(3)では実際に仕事の現場はどのような場所なのかを知ったり、キャリアの考え方を広げたり…。自分の生き方を考え直すきっかけにもするような発見や出会いをしてほしいと思っています。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	キャリアのプランニングとは(仕事の種類を知ろう)フォローアップシートの提出確認
	2	キャリア研究	キャリア①
	3	キャリア研究	キャリア②
	4	キャリア研究	キャリア③
	5	卒業研究	卒業作品展とは、作品を展示する、ということとは
	6	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	7	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	8	企業研究	企業説明会①
	9	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	10	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	11	企業研究	企業説明会②
	12	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	13	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	14	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	15	キャリア研究	前期のまとめ
後期	1	個別相談	進路調査・個別相談会
	2	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	3	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	4	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	5	企業研究	企業説明会③
	6	卒業研究	卒展制作
	7	卒業研究	卒展制作
	8	自己PR力UP	ポートフォリオレビュー
	9	卒業研究	卒展制作
	10	卒業研究	卒展に向けた準備①
	11	卒業研究	卒展に向けた準備②
	12	卒業研究	卒展に向けた準備③
	13	卒業研究	卒展に向けた準備④
	14	まとめ	授業調整日
	15	まとめ	一年のまとめ
評価方法	出席と授業態度、意欲、提出物で総合的に評価		
テキスト 参考書	スクーの動画資料など。授業内で適宜指示します。		

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
ドキュメンタリー・フォトクリエイティブ・ネイ  
チャー・スポート

科目名	写真創作演習			
開講期	前後期		単位数	3
講師名	馬場 智行			
授業概要	手法の使い方が自分自身の撮影行為とどのように関係するか、また観賞者にとってどのような意味として表されるのかを体験し、表現の引き出しを増やす事、及び選択の仕方の基準を得る事をこの授業の目的とします。 前期には、五つのテーマの中で、手法の研究を行なっていきます。各テーマに対し、3～4の手法を設定し、各々がその中から選択した手法に基づき作品制作します。持ち寄った作品に対してディスカッションし、手法の効果を考察し共有します。 後期には、前半後半に分けて、一つのテーマに対して異なる手法で二つの作品を製作し、選択した手法についてより深く研究していきます、			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	オリエンテーション	授業内容の説明 第一回テーマと手法の発表 一年時に制作した課題 10枚程度各自持参	
	2	1-1	第1回テーマ：存在 手法：距離によるコントロール 主観 客観 中間（グループa）	
	3	1-2	第1回テーマ：存在 手法：距離によるコントロール 主観 客観 中間（グループb）	
	4	1-3	第1回テーマ：存在 手法：距離によるコントロール 主観 客観 中間（グループc）	
	5	2-1	第2回テーマ：空間 手法：スナップ ノーフインダー コラージュ（グループa）	
	6	2-2	第2回テーマ：空間 手法：スナップ ノーフインダー コラージュ（グループb）	
	7	2-3	第2回テーマ：空間 手法：スナップ ノーフインダー コラージュ（グループc）	
	8	3-1	第3回テーマ：感情 手法：アウトオブフォーカス 多重露光 クローズアップ（グループa）	
	9	3-2	第3回テーマ：感情 手法：アウトオブフォーカス 多重露光 クローズアップ（グループb）	
	10	3-3	第3回テーマ：感情 手法：アウトオブフォーカス 多重露光 クローズアップ（グループc）	
	11	4-1	第4回テーマ：他者 手法：タイポロジー ファウンドフォト ステージドフォト 定点観測（グループa）	
	12	4-2	第4回テーマ：他者 手法：タイポロジー ファウンドフォト ステージドフォト 定点観測（グループb）	
	13	4-3	第4回テーマ：他者 手法：タイポロジー ファウンドフォト ステージドフォト 定点観測（グループc）	
	14	5-1	夏休み課題の提出・発表 課題テーマ 都市 手法 自由	
	15	5-2	夏休み課題の提出・発表 課題テーマ 都市 手法 自由 後期の説明	
後期	1	1-1	各自のテーマとテーマに対して選択した手法の発表（一作目）	
	2	1-2	作品・手法の検証	
	3	1-3	作品・手法の検証	
	4	1-4	作品・手法の検証	
	5	1-5	作品・手法の検証	
	6	1-6	作品・手法の検証	
	7	提出	まとめた物を提出・発表	
	8	2-1	一作目のテーマに対して異なる手法での制作開始	
	9	2-2	作品・手法の検証	
	10	2-3	作品・手法の検証	
	11	2-4	作品・手法の検証	
	12	2-5	作品・手法の検証	
	13	2-6	作品・手法の検証	
	14	2-7	作品・手法の検証	
	15	提出	まとめた物を提出・発表	
評価方法	課題提出、提出頻度、課題内容、出席回数			
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定			

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
ドキュメンタリー・フォトクリエイティブ・ネイ  
チャー・スポート

科目名	取材撮影演習		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	鈴木 邦弘		
授業概要	この授業は、撮影対象をととして自分なりのテーマ、作品をまとめるための背骨になる部分を学びます。決められた対象から自分なりの企画を考え(アイデア、コンセプト)、実際に撮影に行き(撮影)、その経験を踏まえて企画の見直しを行い(アイデア、コンセプトの修正)、再び撮影に行き(撮影の修正)、最終的な構成を考えそれらの写真群を作品化する(シークエンス、構成)。このような作品作りのために必要なプロセスを短期間で、何回か繰り返して経験し、自分なりのテーマの発見の仕方、それに沿った写真撮影という行為、シークエンス、構成を考え、作品のまとめ方などを身につけることが目的です。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業説明	公園シリーズ、動物園シリーズ、ストリート(商店街なども含む)シリーズ、街シリーズの4本のシリーズを制作してもらいます。撮影場所の決定など(全員同じ場所で撮影をすることが前提)。
	2	企画書制作	撮影対象、テーマなどの検討
	3	撮影実習	ロケハン兼ねて
	4	企画書見直し	前回撮影した写真、経験を踏まえて、撮影対象、テーマの明確化
	5	撮影実習	
	6	撮影実習	
	7	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント
	8	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント
	9	企画書制作	撮影対象、テーマなどの検討
	10	撮影実習	ロケハン兼ねて
	11	企画書見直し	前回撮影した写真、経験を踏まえて、撮影対象、テーマの明確化
	12	撮影実習	
	13	撮影実習	
	14	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント
	15	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A5以上のプリント
後期	1	企画書制作	撮影対象、テーマなどの検討
	2	撮影実習	ロケハン兼ねて
	3	企画書見直し	前回撮影した写真、経験を踏まえて、撮影対象、テーマの明確化
	4	撮影実習	
	5	撮影実習	
	6	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント
	7	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント
	8	企画書制作	撮影対象、テーマなどの検討
	9	撮影実習	ロケハン兼ねて
	10	企画書見直し	
	11	撮影実習	
	12	撮影実習	
	13	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント
	14	課題提出	シークエンス、構成を考えたまとまりのある10枚以上、A4以上のプリント
	15	まとめ	
評価方法	提出課題の平均点を成績とする。		
テキスト 参考書	取材撮影地は変更の可能性があります。		

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
ファッション・ブライダル  
ライブ

科目名	ポर्टレートライティング		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	河野 鉄平		
授業概要	ポर्टレートライティングで大事なことは、照射される光の状況をしっかり把握し認識しながら光を組み上げていくことに他なりません。その上で、被写体である生身の人間としっかり対峙し撮影に臨み、表現していきます。ライティングで用いるアタッチメントは筆先です。それぞれにどのような描き方ができるのか、理解しないことにはうまく光を使って描くことはできません。授業ではアタッチメントを利用しながら、ライティングを行う上での心構えや基礎的なテクニック、そして実践的なテクニックを習得していきます。プロモデルの撮影は前後期で2回ずつ、講評と振り返りを含めて行います。授業ではカメラ、レンズ、露出計、メディアを持参ください。授業内容はクラスのスキルに合わせて変更することがあります。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業説明	自己紹介 ポर्टレートライティングの概要/標準ズームリフレクターの効果
	2	基礎1	角度、高さ、距離を踏まえたポर्टレートライティングの基礎、ソフトボックス概要
	3	基礎2	アンブレラの種類と正しい使い方
	4	基礎3	オパライトを使ったライティング
	5	基礎4	バック飛ばしのバリエーション（半身）
	6	基礎5	バック飛ばしのバリエーション（全身）
	7	テスト撮影	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影のための準備
	8	モデル撮影①	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影
	9	作品講評	モデル撮影講評/カラーバック紙の効果
	10	基礎6	トップライトを組み合わせたライティング
	11	基礎7	リムライト・逆光を利用したライティング
	12	基礎8	紗幕を組み合わせたライティング
	13	基礎9	硬い光で撮るライティング
	14	テスト撮影	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影のための準備
	15	モデル撮影②	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影
後期	1	作品講評	モデル撮影講評/前期の復習
	2	応用1	シャドウを演出する仕組み
	3	応用2	シャドウを作るライティング
	4	応用3	ピンスポットを使ったライティング
	5	応用4	カラーフィルターを使ったライティング①
	6	応用5	カラーフィルターを使ったライティング②
	7	応用6	カラーフィルターを使ったライティング③
	8	テスト撮影	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影のための準備
	9	モデル撮影③	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影
	10	応用7	日中シンクロの基本（1灯ライティング）
	11	応用8	ハイスピードシンクロ撮影
	12	応用9	カラーフィルターを組み合わせた日中シンクロ
	13	テスト撮影	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影のための準備
	14	モデル撮影④	屋外での日中シンクロ
	15	作品講評	モデル撮影講評/一年のまとめ
評価方法			
テキスト 参考書			



2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
コマーシャルフォトゼミ

科目名	スチルライフライティング		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	安澤 剛直		
授業概要	世の中に必要とされているスチルライフとは、どんなコンセプトでどんなターゲット層にどのように響かせるか??を写真で表現することが求められています。ライティングによる表現だけでなく、構図、様々なアイデアが求められます。授業としては、ライティングの基礎、一灯ライティングによる表現、多灯ライティングによる表現、光の捉え方を中心に学びます。また、年間を通しての作品作りとコンセプトに合わせた撮影を提案する課題を中心にした実技を多く行います。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	撮影実習	ライティング基礎（光のトーン/捉え方）／四つのメインライト
	2	撮影実習	ライティングの組み立て方
	3	撮影実習	商品 基本ライティング
	4	外部講師	ポージング
	5	外部講師	キャプチャーワン講習
	6	撮影実習	ライティング表現（白背景／白い商品）
	7	撮影実習	ライティング表現（黒背景／黒い商品）
	8	撮影実習	ライティング表現（食べ物）
	9	撮影実習	ライティング表現（食べ物）
	10		コンセプト企画／作成
	11		コンセプト企画／提案
	12	撮影実習	ライティング表現（コンセプト企画）
	13		コンセプト企画／作成
	14	撮影実習	ライティング表現（コンセプト企画）
	15		
後期	1	図書室	ライティング表現（各自）14回撮影分 決める
	2	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
	3	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
	4	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
	5	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
	6	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
	7	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
	8	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
	9	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
	10	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
	11	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
	12	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
	13	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
	14	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
	15	撮影実習	ライティング表現（各自）／各自講評
評価方法	授業への姿勢・態度/課題への取り組み/理解度・習得など		
テキスト 参考書	ウエディングフォト&ライティング実践講座（玄光社）／和装ウエディング&成人式 撮影ガイドブック（玄光社）		

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
ドキュメンタリー・フォトクリエイティブ・ネイ  
チャー・スポート

科目名	スタジオライティング		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	出水 恵利子		
授業概要	<p>光の方向性、感性を表現するための、技術力を磨くことを目的とします。画像処理等で仕上げず、撮影力を身につけます。光の考え方、基本ライトポジション、機材の活用方法など。人数によってはグループ分けをし、班ごとのスタジオ演習となります。課題の理解度が低い場合は、授業計画を変更し、同じことを何度も演習します。</p> <p>課題は、授業の時間内スタジオで仕上げる。リモートで参加は、リモート時間ごとに課題を掲げます。リモート授業内で仕上げ、リモート授業時間内終了までに提出してください。年間テーマとして、『音楽のイメージで作品を作る』最後の授業2回で、ご自身の作品を音楽にのせて、30秒以内で作品発表。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		機材の使用方法を確認
	2		ライトポジション、セッティングの基礎の確認
	3		白バック／白い被写体
	4		黒バック／黒い被写体
	5		自由／背景を黒または白で
	6		課題作品発表／課題提出
	7		人物ライティング／ライトポジションの基礎の確認
	8		白バック／人物撮影／コントラストの高いライティング
	9		白バック人物撮影／拡散光（紗幕／バンク等）
	10		黒または、カラーバック／人物撮影
	11		黒または、カラーバック／人物撮影
	12		課題作品発表／課題提出
	13		モデル撮影
	14		課題作品発表／モデル撮影課題提出
	15		透過光
後期	1		透過光撮影
	2		透過光イメージ撮影
	3		写り込みイメージ撮影
	4		課題作品発表／課題提出
	5		パン撮影
	6		パンイメージ撮影
	7		ケーキ撮影
	8		ケーキイメージ撮影
	9		課題作品発表／課題提出／自由撮影
	10		人物／背景イメージライティング
	11		人物／背景イメージライティング
	12		モデル撮影
	13		課題作品発表／モデル撮影課題提出
	14		音楽と作品発表
	15		音楽と作品発表
評価方法	授業採点方法は、課題提出と出欠席です。欠席1回につきマイナス3点とします。		
テキスト 参考書	コマーシャルフォト／still Life Imaging(南雲哲彦)		

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
コマーシャル・フォトレタッチ  
ファッション・ブライダル・ライブ

科目名	ヴィジュアルディレクション		
開講期	前期	単位数	1.5
講師名	片山 順平		
授業概要	<p>現在メディアの変化、多様化と共にフォトグラファーには映像を求められる機会が増えています。</p> <p>私自身、写真からのスタートでしたが、映像撮影の機会が増え、現在は写真と映像を両立させてながら仕事をしています。</p> <p>そしてこの流れは今後とも加速していくと思われます。</p> <p>フォトグラファーを包む環境を知っておくことは、自分の進む方向を決める大切なきっかけになると思います。</p> <p>この授業では『知る』をテーマに写真と映像の共通点と相違点を学びながら、一つの映像が出来るまで、撮影から編集、機材や撮影現場の様子、広告映像業界などの仕事や流れなどを学びます。</p> <p>一つの映像作品を作る知識と技術を身につけること、それを最終的な目標としています。□</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	お互いを知る	授業内容の説明、講師の作品などを見ながらお互いの自己紹介(プロフィール持参)
	2	写真と映像の違いを知る	写真と映像の共通点と相違点、映像の種類などを学ぶ
	3	映像を知る	映像の手法や基礎として必要なことを学ぶ
	4	カメラを知る	一眼レフでのムービーの操作、注意点、その他ムービーカメラを学ぶ
	5	様々な機材を知る	映像を作るのに必要なカメラやその他機材(照明録音など)を学ぶ
	6	アングルを知る	アングルの効果や注意点を学ぶ
	7	動きを知る	ムービーの三脚を使って色々なカメラの動きを学ぶ。特機などの紹介
	8	企画演出を知る	映像を作る際の企画演出、コンテ制作などを学ぶ
	9	仕事を知る	映像業界の仕事現場や流れなどを学ぶ
	10	撮影を知る	撮影実習、作品のプレゼン
	11	インタビューを知る	インタビュー撮影を学ぶ
	12	編集を知る	Premiereを使い編集を学ぶ
	13	カラコレを知る	PremiereやDaVinci Resolveを使いカラーマネジメントを学ぶ
	14	作品編集	今まで撮影してきた素材を使って編集し作品を作る
	15	講評	作品講評
後期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
評価方法	出席、授業態度、習熟度で総合評価		
テキスト 参考書	講師が適宜用意		

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
コマニシャル・フォトレタツ  
ファッション・ブライダル・ライブ

科目名	ヴィジュアルディレクション		
開講期	前期	単位数	1.5
講師名	ジェイ・メータ		
授業概要	<p>広告系の仕事の商流や人、コト、アイデアなどの流れを理解するための講義。フォトグラファターの仕事内容や立ち位置を「仕事の種類」ごとに解説。さらに、仕事に関わるさまざまな役割を理解することで、お互いの仕事がどのように影響するかを学ぶ。</p> <p>撮影前の事前準備やポストプロなどの流れを理解することで、フォトグラファター「ひとり」としてではなく、チームとして動ける意識を醸成。</p> <p>学んだ内容を使って広告系コンペへの出展を最終課題とする。</p> <p>講師のジェイ・メータは、広告系の制作商流を幅広く担当しており、それぞれの立場の目線からフォトグラファターに求められる考え方やスタンスを解説。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	ガイダンス	講義全体の紹介。半期のスケジュール、課題の共有。
	2	ディスカッション	アートディレクター、カメラマンなどを交えた模擬企画会議を実施
	3	シューティング	企画会議に合わせたシューティングを実施。
	4	ポストプロ	デザイナーがポストプロでどのような仕事をしているかを学び体験
	5	グループワーク	2～4の授業で学んだ内容を踏まえて、自分達でワークフローを再現
	6	グループワーク	
	7	グループワーク	
	8	ディスカッション	アートディレクター、カメラマンなどを交えた模擬企画会議を実施
	9	シューティング	企画会議に合わせたシューティングを実施。
	10	ポストプロ	デザイナーがポストプロでどのような仕事をしているかを学び体験
	11	グループワーク	2～4の授業で学んだ内容を踏まえて、自分達でワークフローを再現
	12	グループワーク	
	13	グループワーク	
	14	課題準備	ガイダンスで共有した課題の進捗確認、発表に向けた準備
	15	課題発表	課題の発表と評価。コンペへの提出準備。
評価方法			
テキスト 参考書			

科目名	映像表現論		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	きりとり めでる		
授業概要	<p>本授業では、2010年代以降の写真をめぐる状況を、国内外の作品と写真に関連する研究の推移、作品で扱われている思想的課題を学びます。また、数回の展覧会の鑑賞をはさみ、写真を中心に据えた作品分析の基礎を養います。メディアがイメージにどのような影響を与えるのか、刻々と変化する視覚文化の中で、自分で制作する作品がどのようなものでありうるのかを相対化する力を身に着けます。</p> <p>毎回課題があります。展覧会鑑賞以外の授業にはかならずPCを持参してください。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	時代と視覚	ハリーポッターと写真、課題の制作方法について
	2	作品理解	2010年代の構成的写真 ポストインターネットアートから（1）
	3	〃	2010年代の記録的写真 リサーチベースドアートから（1）
	4	作品実見	展覧会へ（1）
	5	作品分析	展覧会分析の方法、写真をめぐる現在の条件（1）
	6	作品理解	2010年代のファウンドフォトと表現（1）
	7	〃	2010年代のファウンドフォトと表現（2）
	8	作品実見	展覧会へ（2）
	9	作品分析	展覧会分析の方法、写真をめぐる現在の条件（2）
	10	視覚状況	インスタグラムでの表現とデジタル写真論（1）
	11	視覚状況	インスタグラムでの表現とデジタル写真論（2）
	12	作品実見	展覧会へ（3）
	13	作品分析	展覧会分析の方法、写真をめぐる現在の条件（3）
	14	作品実見	展覧会へ（4）
	15	作品分析	展覧会分析の方法、写真をめぐる現在の条件（4）
後期	1	作品理解	2010年代の構成的写真 ポストインターネットアートから（2）
	2	〃	2010年代の記録的写真 リサーチベースドアートから（2）
	3	作品実見	展覧会へ（5）
	4	作品分析	展覧会分析の方法、写真をめぐる現在の条件（5）
	5	作品実見	展覧会へ（6）
	6	作品分析	展覧会分析の方法、写真をめぐる現在の条件（6）
	7	写真分析	写真研究のまなざし（1） ヴァナキュラー写真
	8	写真分析	写真研究のまなざし（2） ブラックホールの撮影
	9	写真分析	写真研究のまなざし（3） ジェンダーと写真
	10	作品実見	展覧会へ（7）
	11	作品分析	展覧会分析の方法、写真をめぐる現在の条件（7）
	12	作品理解	ゲストレクチャー
	13	作品分析	展覧会分析の方法、写真をめぐる現在の条件（8）
	14	理論構築	2020年代の表現と写真（1）
	15	理論構築	2020年代の表現と写真（2）
評価方法	平常点（出席日数や授業参加度など）と提出物の総合評価。		
テキスト 参考書	PDFを配布します。		

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
コマニシャル・フォトレタッチ  
ファッション・ブライダル・ライブ

科目名	映像表現論		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	村上 由鶴		
授業概要	<p>本講義は、写真や動画を含む映像表現を制作者の観点から読み解く科目である。映像表現の制作にあたっては、選択の連続であり、その選択の積み重ねによって社会的な位置付けやクオリティが左右されることになる。そこで、本講座では、美術館やアートギャラリーで出会う美術作品だけでなく、写真や動画だけでなく、映画、広告、音楽など、幅広い映像表現を対象とし、制作者の意図を読み解くことで、自分の制作に活用する。</p> <p>なお、本講義では、グループワークおよびオープンチャット機能を使って、授業中に質問やコメントを募集する場合がある。</p> <p>本講義を履修することによって以下の能力を修得することを目指す。</p> <p>1) 映像表現を分析的に読み解き、自らの制作に活かす。</p> <p>2) 映像表現の基礎となるさまざまな表現に触れる。</p> <p>3) 他者に伝わる表現を実践するための具体的な計画・手法を確立する。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	写真・映像というプロセスについて
	2	講義	広告（CM、ポスター、イメージ）
	3	講義	MV、ファッション・キャンペーン・ムービー
	4	授業内課題	好きな作品の分析
	5	講義	撮影されるもの（1）人物・モデル
	6	講義	撮影されるもの（2）動物・静物
	7	講義	写真家／作家から見る（撮影されるもの）
	8	授業内課題	被写体を選ぶ
	9	校外実習	展覧会を見に行く
	10	授業内課題	展覧会の振り返り
	11	講義	撮影と演出（ロケーション・セットアップ）
	12	講義	撮影と演出（ポーズ・スタイリング・メイクアップ）
	13	講義	写真家／作家から見る（撮影と演出）
	14	授業内課題	被写体と演出を選ぶ
	15	校外実習	展覧会に行く
後期	1	ガイダンス	写真・映像というプロセスについて（前期の復習と後期のガイダンス）
	2	講義	カメラと演出（1）レンズの効果・色
	3	講義	カメラと演出（2）しぼり
	4	講義	写真家／作家から見る（カメラと演出）
	5	校外実習	展覧会に行く
	6	ディスカッション	展覧会の振り返り
	7	講義	撮影（1）決定的瞬間（瞬発力）
	8	講義	撮影（2）長期取材（持久力）
	9	講義	写真家／作家から見る（撮影）
	10	授業内課題	計画（コンセプト）を立てる
	11	校外実習	展覧会に行く
	12	ディスカッション	展覧会の振り返り
	13	講義	編集（レタッチ、エディトリアル）
	14	講義	全体の振り返り
	15	プレゼン	プレゼンテーション
評価方法	授業中の出席回数、授業へのリアクション、提出課題で判断。期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられません。また、教務課の許可を得て、オンラインで参加する場合、カメラオンで参加することが出席の条件になります。		
テキスト 参考書	特になし		

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
コマニシャル・フォト・グラフィック  
ファッション・ブライダル・ライブ

科目名	写真表現演習		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	清水 はるみ		
授業概要	<p>個人的な作品制作だけでなく、商業写真の撮影をするにあたって必要な考え方と実行力を身につけていきます。撮影の現場ではカメラマンにディレクションが求められることも少なくありません。課題を通じて自分の写真の方向性を把握し、様々な表現方法に触れて引き出しを増やし、イメージについて言語化する努力を重ねましょう。古今東西の写真作家や実際に今活躍しているカメラマンまで幅広い作例を参照し、アイデアの出し方や発想をいかに現実に落とし込むかを、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の個性を把握し、自分の写真が人にどういった印象を与えるのかを知る</li> <li>・様々な写真集や作例を参照しつつ、写真ならではの表現に取り組む</li> <li>・簡単なクライアントワークの流れをなぞり、ディレクションの流れを掴む</li> <li>・自分らしさと、現場で求められるイメージのバランスを取ることを意識する</li> </ul>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	講義	イントロダクション 写真集を見て要素を検討
	2	発表	各自これまで撮ってきた写真の紹介、ヒアリング
	3	講義・演習	写真のジャンル分け、各分野におけるコンセプトの立て方について →★前期課題
	4	演習	静物(光と画面構成力の重要性) →課題①
	5	演習	課題①発表 / 映り込みや特殊な小道具(鏡、水、虹色フィルム等の活用) →課題②
	6	演習	マクロレンズ、超望遠、超広角(実習)
	7	発表	課題②発表 / 身体表現について
	8	演習	身体表現(実習) →課題③
	9	発表	課題③発表 / 前期課題の経過について
	10	演習	長時間露光1 (実習、軌跡を利用した表現)
	11	演習	長時間露光2 (実習 シンクロ、複数回発光) →課題④
	12	発表	課題④発表 / 夏休み課題について ステージフォト
	13	講義	制作準備、個別相談
	14	発表	夏休み課題発表・講評
	15	まとめ	前期課題発表・講評
後期	1	演習	効果的なシークエンスの組み方、見せ方について →課題①
	2	演習	組写真1 タイポロジー →課題②
	3	発表	課題①発表 / 組写真2 ファウンドフォトと編集 →課題③
	4	発表	課題③発表 / 組写真3 ストーリー →★後期課題
	5	講義	クライアントワークにおけるディレクションについて
	6	演習	擬似クライアントワーク1-1 =課題④ 打ち合わせ+撮り方の検討
	7	演習	擬似クライアントワーク1-2 経過発表、アドバイス
	8	演習	擬似クライアントワーク1-3 発表、フィードバック
	9	演習	コラージュ(デジタル/アナログ) →課題⑤
	10	発表	課題⑤発表 / 擬似クライアントワーク2-1 =課題⑥
	11	演習	擬似クライアントワーク2-2 経過発表、アドバイス
	12	演習	擬似クライアントワーク2-3 発表
	13	発表	課題②発表、講評
	14	講義	発表準備 個別相談
	15	まとめ	後期課題発表、講評
評価方法	出席・課題提出・実習やグループワークでのコミュニケーション		
テキスト 参考書	講師が適宜用意		

2023

区分

必修

対象

I 部2年制2年  
ドキュメンタリー・フォトクリエイティブ・ネイ  
チャー・スポート

科目名	写真美術史		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	調 文明		
授業概要	現代美術において、写真は欠かすことのできない重要な表現メディアのひとつになっています。本講義では写真術公表（1839年）以前のカメラ・オブスキュラの時代をひとつの出発点として、ピクトリアリズム、モダニズム、戦後美術、現代美術というおおまかな時代区分にしたいが、美術と写真のつながりがいかに密接となっていくかをみていく予定です。また、現代美術の展覧会（美術館やギャラリー）に積極的に言及することで、授業で学んだことを「発揮」できる機会にも目を配りたいと考えています。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業紹介	イントロダクション
	2	前史	イメージの起源
	3	前史	光学機器によるイメージメイキング
	4	ワークショップ	カメラ・オブスクラを制作する
	5	ピクトリアリズム	世紀転換期のピクトリアリズムにおける写真と絵画Ⅰ
	6	ピクトリアリズム	世紀転換期のピクトリアリズムにおける写真と絵画Ⅱ
	7	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅰ：未来派とフォト・ディナミズム
	8	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅱ：ニューヨーク・ダダ（マルセル・デュシャン）とレディメイド
	9	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅲ：ベルリン・ダダとフォト・モンタージュ
	10	ワークショップ	フォト・モンタージュを制作する（実作）
	11	ワークショップ	フォト・モンタージュを制作する（発表）
	12	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅳ：シュルレアリスムとオートマティスム
	13	モダニズム	20世紀のアメリカ近代美術Ⅰ
	14	モダニズム	20世紀のアメリカ近代美術Ⅱ
	15		まとめと振り返り
後期	1	歴史概説	イズムからアートへ：20世紀美術と複製技術
	2	戦後美術	戦後美術をたどる：ポップアート
	3	映像資料	ドキュメンタリー映画をとおしてアンディ・ウォーホルを知る
	4	戦後美術	戦後美術をたどる：ミニマルアート
	5	戦後美術	戦後美術をたどる：コンセプチュアルアート
	6	ワークショップ	アーティストブックを制作する（撮影）
	7	映像資料	『ハープ&ドロシー』をとおして現代美術を知る
	8	ワークショップ	アーティストブックを制作する（発表）
	9	現代美術	現代美術と写真：ファウンド・フォトを用いた表現
	10	現代美術	現代美術と写真：セルフ・ポートレートについてⅠ
	11	現代美術	現代美術と写真：セルフ・ポートレートについてⅡ
	12	ワークショップ	ファウンド・フォトを用いたアーティストブックを制作する（発表）
	13	ワークショップ	ファウンド・フォトを用いたアーティストブックを制作する（発表）
	14	サブカルチャー	サブカルチャーと写真Ⅰ
	15	サブカルチャー	サブカルチャーと写真Ⅱ
評価方法	平常点（出席日数や授業参加度など）と期末レポート（もしくは授業内課題）の総合評価。ただし、授業内課題はすべて提出していることが成績評価の前提条件となります。		
テキスト 参考書	参考文献は授業で適宜紹介します。		



# 科目ガイド 目次

## ■選択科目

p. 1	写真史	調 文明/山市 直佑
p. 2	社会学	渡辺 浩平
p. 3	編集出版論	岡崎 裕美
p. 4	英会話	五十嵐 太二
p. 5	フォトアート演習	村越 としや
p. 6	写真創作演習Ⅱ	フジモリメグミ
p. 7	Web 表現演習	須田 拓也
p. 8	ダークルーム	柳本 史歩
p. 9	マガジンメイキング	岡崎 裕美
p. 10	ドキュメンタリー写真論	鈴木 邦弘
p. 11	フォトクリエイティブ演習Ⅰ	奥 初起
p. 12	ルポルタージュ演習	五十嵐 太二
p. 13	美術造形論	講師調整中
p. 14	デジタル表現演習	坂口 トモユキ
p. 15	メディア論	水上 亮
p. 16	ムービー制作演習	小島 真也
p. 17	文章表現演習Ⅰ	山岸 宏之
p. 18	風景写真演習	秦 達夫
p. 19	写真科学	船生 望
p. 20	ビジュアルデザイン	羽立 孝
p. 21	写真美術史	鳥原 学
p. 22	ダークルーム	松井 寛泰

2023		区分		必修		対象		Ⅰ部全学年 選択科目	
科目名		写真史							
開講期		前後期				単位数		6	
講師名		調 文明(前期)／山市 直佑(後期)							
授業概要		1839年に写真術が公表されて以降、2022年現在にいたるまで写真は私たちの日常に欠かすことのできない存在としてあり続けています。本講義では、写真黎明期から現代までを範囲とし、フォト・ドキュメントや風景写真、ファッション、肖像写真などいくつかのトピックに注目して、技術的、社会的、政治的、文化的な観点も交えながら、写真の歴史を概観していくこととします。 後期では前期に学んだ写真の歴史を踏まえ、作品や作家の系譜、そして現代の美術における写真とはどんなものなのかを学びます。実際に写真集や美術展を訪れ、そこで得た着想を言葉にしたり、自分の作品に落とし込むための方法論を学んだりします。							
授業計画		回数	主題・目的	授業予定					
前期	1	授業紹介	イントロダクション						
	2	写真技術	写真の二大発明：ダゲレオタイプとカロタイプ						
	3	記録写真	記録としての写真：国家的な視点から当事者の視点へ						
	4	風景写真	風景の政治学：ミシオン・エリオグラフィック/西部開拓/ニュー・トプグラフィックス						
	5	ワークショップ	写真を「読む」：グーグル・ストリートビューを使いたおす						
	6	肖像写真	人間を撮るⅠ：ナダール/ジュリア・マーガレット・キャメロン/ルイス・ハイン/ジェイコブ・リース						
	7	写真芸術	表現としての写真：画家の目と機械の眼						
	8	ファッション写真	女性モード誌におけるファッション写真小史						
	9	写真技術	光と色彩の魔術的リアリズム：マジック・ランタンとオートクローム						
	10	日本写真史	日本写真史Ⅰ：芸術写真/新興写真/リアリズム写真						
	11	日本写真史	日本写真史Ⅱ：戦後の群写真と私写真						
	12	肖像写真	人間を撮るⅡ：肖像と生＝性						
	13	写真芸術	コンテンポラリーアートと複製						
後期	1	授業紹介	イントロダクション						
	2	系譜について	ターニングポイントとなる写真家①						
	3		ターニングポイントとなる写真家②						
	4		ターニングポイントとなる写真家③						
	5	展示見学	美術展見学～レポート提出						
	6	ディスカッション	2～5回の授業を通じ、討議						
	7	現代美術における写真	写真と美術						
	8		Michael Friedの視点から①						
	9		Michael Friedの視点から②						
	10	展示見学	美術展見学～レポート提出						
	11	ディスカッション	2～5回の授業を通じ、討議						
	12	光について	光を軸に、系譜をたどる①						
	13		光を軸に、系譜をたどる②						
	14		光を軸に、系譜をたどる③						
	15	まとめ	まとめ						
評価方法		出席、提出課題などをみて総合的に評価します。							
テキスト 参考書		授業中に資料配布							

2023		区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	社会学				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	渡辺浩平				
授業概要	私たちは日常のなかで「社会的なもの」を生成している。 本授業では、私たちがいかに「社会的なもの」を生成しているのかを考察する。前期は社会学の理論や各論を講義する。後期は受講生による文献読解と社会調査法としてのフィールドワークを通じて社会的な生成を学ぶ。なお、授業計画は、授業の進捗や状況に応じて変更する可能性がある。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	イントロダクション	授業の目的・内容の説明		
	2	社会学とは	社会・文化とは		
	3	社会学とは	社会学的思考と概念		
	4	学説史	理論と概念① 方法論的全体論		
	5	学説史	理論と概念② 方法論的個人主義		
	6	学説史	理論と概念③ 社会的相互行為論		
	7	社会学と映像	映像鑑賞		
	8	各論	集団とは：家族、親族、組織		
	9	各論	環境と生活		
	10	各論	政治と経済		
	11	各論	宗教と世界観		
	12	まとめ	前期まとめ		
	13	テスト	前期テスト		
後期	1	社会調査法	フィールドワーク計画法		
	2	社会調査法	研究課題の設定：文献の読解		
	3	社会調査法	研究課題の設定：課題の読解		
	4	社会調査法	研究課題の設定：文献の読解		
	5	社会調査法	研究課題の設定：課題の読解		
	6	社会調査法	フィールドワーク計画		
	7	社会調査法	フィールドワーク計画		
	8	社会調査法	フィールドワークの実施（仮）		
	9	社会調査法	フィールドワークの実施（仮）		
	10	社会調査法	調査結果の整理		
	11	社会調査法	調査結果の整理		
	12	社会調査法	調査結果の整理		
	13	社会調査法	調査報告		
	14	まとめ	後期まとめ		
	15	テスト	後期テスト		
評価方法	出席、提出課題などをみて総合的に評価します。				
テキスト 参考書					

2023		区分		必修		対象		I 部全学年 選択科目	
科目名		編集出版論							
開講期		前後期			単位数		6		
講師名		岡崎 裕美							
授業概要		写真が世に出るひとつの媒体としての印刷物や出版物について、またその中のひとつとしての写真集について学びます。 撮り手ではない立場から写真を関わる経験は、伝える力につながります。前期は、メディアにおける写真の役割、写真集の作りについて考えます。後期から、写真をまとめる上での写真と言葉について、写真編集について学び、それまでの内容を自分の作品をまとめる作業に活かしていくという流れで進めます。 講義やディスカッションのほかに、実習の授業ではZINE・印刷物制作や写真編集を行います。							
授業計画		回数	主題・目的	授業予定					
前期	1	講義	授業内容説明 マスメディアについて						
	2	講義	出版メディアの特徴、写真の役割						
	3	講義	写真を使って伝える 1口						
	4	講義/実習	写真を使って伝える 2口						
	5	講義	編集者の役割 1						
	6	講義	出版物についての基礎知識(出版の流れ、本の作りなど)						
	7	講義	ページネーションについて						
	8	実習	ページネーション実習(題材:絵本)						
	9	講義	写真集におけるページネーションと工夫						
	10	講義/実習	写真集のレイアウトと表紙						
	11	実習	写真集と仕様						
	12	講義	印刷の基礎知識 1						
	13	実習	編集者の役割 2ゲスト 写真雑誌編集者						
後期	1	講義	自分の写真とことば 1口						
	2	実習/講義	自分の写真とことば 2口						
	3	実習	写真集とことば						
	4	実習	自分以外の人写真を編集する 1						
	5	実習	自分以外の人写真を編集する 2						
	6	実習	プレスリリースとDMについて						
	7	実習	プレスリリースとDMを作る						
	8	実習	自分以外の人写真でZINEを作る						
	9	実習	プレゼンテーション(ZINE、DM、プレスリリース)						
	10	講義	写真とことばについて ゲスト写真家						
	11	実習	自分の写真を編集する 1						
	12	実習	自分の写真を編集する 2						
	13	実習	プレスリリースとDM、ステートメントを作る						
	14	講義	プレゼンテーションと講評(ZINE、DM、プレスリリース、ステートメント)						
	15	実習	印刷の基礎知識 2(印刷博物館見学)						
評価方法		出席、提出課題などをみて総合的に評価します。							
テキスト 参考書									

2023

区分

必修

対象

I 部全学年  
選択科目

科目名	英会話		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	五十嵐 太二		
授業概要	<p>英語が話せるようになりたい。英語を使い海外で撮影したい。⇒ 絶対大丈夫！ でも、それにはまず、英語を学ぶことが楽しいと思えることが何よりも大切です。そして地道な努力と覚悟。そのきっかけを見つけてもらうのがこのクラスの目的です。写真を切り口に、とにかく声に出して英語をしゃべってもらいます。恥ずかしいなんて言っているヒマはもうありません！</p> <p>レベル～中学英語程度</p> <p>なお、授業計画は、授業の進捗や状況に応じて変更する可能性があります。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業説明、英語で自己紹介①
	2	英語総合	英語で自己紹介②
	3	英語総合	写真撮影で使う英語表現①
	4	英語総合	写真撮影で使う英語表現②
	5	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第1回目
	6	英語総合	実習の発表会①
	7	英語総合	実習の発表会②
	8	英語総合	ゲストスピーカー
	9	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第2回目
	10	英語総合	実習の発表会①
	11	英語総合	実習の発表会②
	12	英語総合	海外とオンラインでつなぎ、英語で話してみよう
	13	英語総合	前期の反省会（前期を振り返り、後期につなげる）
後期	1	英語総合	後期授業説明、休み期間にやったことを英語で説明する
	2	英語総合	日本や自国のことを英語で紹介できるようにする①
	3	英語総合	日本や自国のことを英語で紹介できるようにする②
	4	英語総合	海外とオンラインでつなぎ、英語で話してみよう
	5	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第3回目
	6	英語総合	実習の発表会①
	7	英語総合	実習の発表会②
	8	英語総合	ゲストスピーカー
	9	英語総合	写真に英語のタイトルとキャプションをつけて発表する①
	10	英語総合	写真に英語のタイトルとキャプションをつけて発表する②
	11	英語総合	屋外実習（訪日外国人旅行者に英語でインタビュー＋写真撮影）第4回目
	12	英語総合	実習の発表会①
	13	英語総合	実習の発表会②
	14	英語総合	海外とオンラインでつなぎ、英語で話してみよう
	15	英語総合	有名な英語スピーチ
評価方法	出席回数、習熟度・理解度、授業態度、自助努力		
テキスト 参考書	授業配布プリント、各自所有の辞書・単語本・熟語本・文法書など		

2023		区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	フォトアート演習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	村越 としや				
授業概要	<p>インターネットで簡単に回答を得ることが出来るようになり、「考える」ということが疎かになっているように感じます。そもそも「考える」というのは非常に困難な作業なので、インターネットの普及で効率的に素早く回答を得られることは、多くの人にとって大変有益なことでしょう。</p> <p>しかしそこで得た回答は本当に知識や経験として、自分自身に定着したといえるのでしょうか？</p> <p>授業では、考えることの基礎を作り上げる、長く取り組めるテーマを見つける、それをどう継続していくかを軸に進行していきます。写真を撮ることはもちろん重要ですが、それ以前とそれ以後の思考や行動は更に重要だと思っています。インターネット上で大量の写真や情報が消費されていく現代で、消費されない写真とは何なのか、消費されない言葉とは何なのかを、一緒に考えていきましょう。</p> <p>※各自の発表と参加者同士での講評・意見交換を中心に行うため積極的な発言を求める。</p> <p>※授業外での制作時間と積極性および継続性を要するので、その覚悟を持って臨むこと。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	ガイダンス	授業の流れと講師の作品の紹介		
	2	発表と講評	制作途中の写真についてディスカッションとカウンセリングをし、写真の質と量を高める。		
	3	発表と講評			
	4	発表と講評			
	5	発表と講評			
	6	発表と講評			
	7	発表と講評			
	8	発表と講評			
	9	発表と講評			
	10	発表と講評			
	11	発表と講評			
	12	発表と講評			
	13	発表と講評			
後期	1	発表と講評	制作途中の写真についてディスカッションとカウンセリングをし、写真の質と量を高める。		
	2	発表と講評			
	3	発表と講評			
	4	発表と講評			
	5	発表と講評			
	6	発表と講評			
	7	発表と講評			
	8	発表と講評			
	9	発表と講評			
	10	発表と講評			
	11	発表と講評			
	12	発表と講評			
	13	発表と講評			
	14	発表と講評			
	15	発表と講評			
評価方法	出席率、積極性、継続性				
テキスト 参考書					

2023	区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	写真創作演習Ⅱ			
開講期	前後期	単位数	6	
講師名	フジモリ メグミ			
授業概要	私は17歳とのきに、ナン・ゴールドインのドキュメンタリービデオをみたことをきっかけに、写真学校へ進学することにしました。写真をはじめたきっかけは、みんなそれぞれにあると思います。 あなたは、なぜ、写真を勉強しようとおもったのでしょうか？ なぜ、写真家・カメラマンになろうとおもったのでしょうか？ この授業ではなぜ？に対する答えを繰り返し出す、という作業をしていきます。その中で、自分自身の写真に対する意見や、クラスメイトの写真に対する意見を言い合っていきます。「うまい」言葉で表現する必要はありませんので、積極的に授業に参加してください。 写真の完成度ではなく、写真に向き合う姿勢を身につけることを目指します。 そこから、作品を完成させるために必要なことを学んでください。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	自己紹介	持参物→これまで撮ってきた写真 自分にとって写真とは？なぜ写真なのか	
	2	実習・課題	「学校」	
	3	↓	中間講評・撮影	
	4	↓	中間講評・撮影	
	5	↓	zineにまとめる	
	6	実習・課題	「家族」	
	7	↓	中間講評・撮影	
	8	↓	中間講評・撮影	
	9	↓	zineにまとめる	
	10	まとめ	発表	
	11	実習・課題	「私」をテーマに撮影	
	12	↓	中間講評・撮影	
	13	↓	中間講評・撮影撮影 夏休みの課題説明	
後期	1	↓	「私」をテーマに撮影の続き 中間講評・撮影	
	2	↓	↓	
	3	まとめ	zineやポートフォリオにまとめる	
	4	実習・課題	「ポートレート」	
	5	↓	中間講評・撮影	
	6	↓	中間講評・撮影	
	7	↓	zineやポートフォリオにまとめる	
	8	実習・課題	「フェチ」	
	9	↓	中間講評・撮影	
	10	↓	中間講評・撮影	
	11	↓	中間講評・撮影	
	12	まとめ	zineやポートフォリオにまとめる	
	13	実習・課題	「自由テーマ」	
	14	↓	中間講評・撮影	
	15	総括	中間講評・撮影	
評価方法	提出頻度、作品内容、出席回数			
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定します。			

2023

区分

必修

対象

I 部全学年  
選択科目

科目名	Web表現演習			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	須田 拓也			
授業概要	<p>この授業では、現代においてとても身近なメディアであるWebのしくみや作り方を学びます。Webでの表現や発信はSNSやさまざまなサービスを利用することでも可能ですが、HTMLやCSSといった技術を学ぶことで自分だけのWebサイトを作ることができます。ポートフォリオサイトを制作して役立てることもできるでしょう。</p> <p>前期後期を通してWebサイトの作り方や公開の方法を学び、後期はWebに関する資格試験で問われる知識や技術と同等の内容の練習問題にも取り組みます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自身の表現に活かせるようにWebに関する基本的な知識と技術を身につける。</li><li>・Webサイトを制作・公開・運用する一連の手順を経験する。</li></ul>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	授業内容の説明、制作環境の準備	
	2	Webのしくみ	Webのしくみ	
	3	HTML、CSS入門	HTML、CSSの基礎	
	4			
	5	Webサイトの公開	Webサイトの公開について	
	6	中間課題	課題の制作	
	7		課題の制作・講評	
	8	Webサイトの設計・運用	Webサイトの設計・運用について	
	9			
	10	まとめ	まとめと補足	
	11	期末課題	期末課題の制作	
	12			
	13		期末課題の発表・講評	
後期	1	前期の復習	前期の復習	
	2	HTMLとCSS	HTMLの基礎と応用	
	3		CSSの基礎と応用	
	4	課題	練習問題	
	5	テーブルとフォーム	テーブル	
	6		フォーム	
	7	課題	練習問題	
	8	レイアウト	マルチカラムのレイアウト	
	9		グリッド状のレイアウト	
	10	課題	練習問題	
	11	まとめと発展	発展的なWeb表現の紹介	
	12		まとめと補足	
	13	期末課題	期末課題の制作	
	14			
	15		期末課題の発表	
評価方法	出席率、提出課題内容から総合的に評価します。			
テキスト 参考書	必要に応じて配布します。			



2023		区分		必修		対象		I 部全学年 選択科目	
科目名		ダークルーム							
開講期		前後期				単位数		6	
講師名		柳本 史歩							
授業概要		ダークルームは、銀塩モノクロ写真の技術習得と修練を通して、デジタル・銀塩問わず幅広い意味での写真の見せ方や伝え方を考察・体得することを目的とした授業です。前期ではモノクロフィルムの現像からプリントまでの流れを把握し、そこから写真表現の基礎を学んでいきます。後期ではそれを生かしながら作品づくりを目指します。個人で習得するペースはまちまちだと思いますが、それぞれのペースに合わせて授業進行をする予定です。作業を通し作品を仕上げてゆく楽しみと基礎知識が身につけてゆくようにしてゆきます。授業内は基本的に作業が中心です。また履修者の習熟度などにより一部進行に変化が生じる場合がございます。							
授業計画		回数	主題・目的	授業予定					
前期	1	ガイダンス	説明 前期第一課題「35mmモノクロフィルムを習得する」						
	2	説明と撮影	「35mmモノクロフィルムを習得する」②現像の説明と撮影						
	3	作業	〃 ③フィルム現像						
	4	作業	〃 ④プリントのプロセスと引伸機説明。コンタクトプリントをつくる						
	5	合評	フィルム現像・コンタクトのまとめ						
	6	作業	=C22, D24:L265mmモノクロフィルムを習得する ⑤ 六切り印画紙でのプリント						
	7	作業	〃 ⑤～⑥ 六切り印画紙でのプリント						
	8	合評	第一課題「35mmモノクロフィルムを習得する」合評と、第二課題「中判モノクロフィルムを習得する」の説明						
	9	説明と撮影	説明 前期第二課題「中判モノクロフィルムを習得する」①						
	10	作業	〃 ②現像						
	11	作業	〃 ③プリントのプロセスと引伸し						
	12	合評	〃 ④合評 と夏休みおよび後期課題の発表 ※以降夏休み						
	13	作業とまとめ	前期のまとめ						
後期	1	ガイダンス	後期の授業の流れについて／後期課題について						
	2	作業	後期作品の撮影						
	3	作業	後期作品の撮影						
	4	作業	フィルム現像						
	5	作業	プリント作業						
	6	合評	プリント作業						
	7	作業	後期課題 中間報告会						
	8	作業	後期作品の撮影						
	9	作業	後期作品の撮影						
	10	作業	フィルム現像						
	11	合評	プリント作業						
	12	作業	プリント作業						
	13	作業	プリント作業						
	14	作業	後期課題 発表日						
	15	合評	後期課題 発表日						
評価方法		出席日数および課題（成果物）、授業内の態度で評価							
テキスト 参考書									

2023	区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	マガジンメイキング			
開講期	前後期	単位数	6	
講師名	岡崎 裕美			
授業概要	写真家にとって身近な媒体のひとつである雑誌を含む紙媒体の制作体験を通して、写真と印刷物の関係や編集などについて学びます。 前期は雑誌や編集の基本的な知識を学び、それぞれのテーマに沿って、写真をセレクトし誌面を構成します。 後期はグループワークのスタイルで雑誌を制作します。前期で学んだことを踏まえ、グループで協力しあってオリジナルの雑誌を企画し、一冊の雑誌を完成させます。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	講義	授業説明、マスメディアとは	
	2	講義	マスメディアについて、雑誌の特徴（他のメディアとの比較）、雑誌制作の雑誌の流れと基本用語	
	3	講義	雑誌の特徴2、出版社が制作するもの	
	4	実習・講義	商業施設のリーフレット企画（個人課題）   雑誌制作の流れと基本用語②	
	5	実習	グループディスカッション、企画決定。台割作成	
	6	実習・講義	制作する（素材を集め、レイアウトする）   データの扱いについて、フォントについて	
	7	実習・講義	制作する（素材集め、レイアウト、最終データ作成）   レイアウトの基礎	
	8	実習・講義	制作する（素材集め、レイアウト、最終データ作成）   レイアウトの基礎	
	9	実習	制作 プレゼンテーションと講評	
	10	講義・実習	雑誌の基本設計   雑誌制作①-1 説明とグループ分け	
	11	実習	雑誌制作①-2 グループ内で編集会議、台割作成	
	12	実習・講義	雑誌制作①-3   誌面の構成について	
	13	実習	雑誌制作①-4	
後期	1	実習	雑誌制作①-5 データ提出	
	2	実習・講義	雑誌制作①-6 プレゼンテーションと講評   （制作物を踏まえて）レイアウト基礎	
	3	実習・講義	雑誌制作②-1 グループ分け、全体の編集会議（企画、台割）   テキストについて	
	4	実習・講義	雑誌制作②-2 グループ内編集会議、全体プレゼン、制作	
	5	実習	雑誌制作②-3 制作	
	6	実習	雑誌制作②-4 制作	
	7	実習	雑誌制作②-5 制作、編集会議	
	8	実習	雑誌制作②-6 制作	
	9	実習	雑誌制作②-7 全体の会議（プレゼン、編集会議）、制作	
	10	実習	雑誌制作②-8 制作	
	11	実習	雑誌制作②-9 全体の会議（プレゼン、編集会議）、制作	
	12	実習	雑誌制作②-10 制作	
	13	実習	雑誌制作②-11 全体の会議（プレゼン、編集会議）、制作	
	14	実習	雑誌制作②-12 全体の会議（プレゼン、編集会議）、印刷、製本	
	15	実習	雑誌制作②-13 最終プレゼンテーションと講評	
評価方法	出席率、積極性、継続性			
テキスト 参考書				

2023		区分		必修		対象		I 部全学年 選択科目	
科目名		ドキュメンタリー写真論							
開講期		前後期			単位数		6		
講師名		鈴木 邦弘							
授業概要		写真家になるためには、作品を制作しなければなりません。作品を制作するためには、作品と呼べる写真（写真群）が、どのようなものなのかを理解しなければなりません。そのために、この授業では、1950年代以降のドキュメンタリー写真を中心に世界の様々な写真集を見てもらいます。前半は、年代を10年ごとに区切り、写真史の中でその時代の特徴をもち、その後に影響を与えた作品を中心に、2010年代まで見ていきます。その中で、写真史的流れとその時代の作品の特徴などを解説していきます。後半の最初の4回は「戦争」を対象にした作品を見ます。5回以降は、国、地域にまとめた写真集を見てもらいます。似たような被写体が、写真家によってテーマや撮り方が異なることを学んでもらいます。後半では、前半のようにまとめた解説はしませんが、作品に対する質問がしたい場合は、授業中に、個別に質問をしてください。授業の進め方は、同じ年代、国の写真集を2回の授業で見てもらいます。その際に、2回目の授業の終わり1時間で、その回の自分の気になった作品を一冊以上選び、その作品の感想文(字数800字以上)を書いて提出してもらいます。成績は、授業ごとに提出された感想文の平均点とします。							
授業計画		回数	主題・目的	授業予定					
前期	1		＜1900年代～1950年代＞パブリックな視線からプライベートな視線へ						
	2		＜1900年代～1950年代＞パブリックな視線からプライベートな視線へ						
	3		＜1900年代～1950年代＞パブリックな視線からプライベートな視線へ ①感想文を書き、提出						
	4		＜1960年代＞コンテンポラリーフォトグラファーズ展、ニュードキュメンツ展の写真家たち						
	5		＜1960年代＞コンテンポラリーフォトグラファーズ展、ニュードキュメンツ展の写真家たち ②感想文を書き、提出						
	6		＜1970年代＞ニュートポグラフィクス、ニューカラー、タイポロジー						
	7		＜1970年代＞ニュートポグラフィクス、ニューカラー、タイポロジー ③感想文を書き、提出						
	8		＜1980/90年代＞コンストラクティッド・フォト(構成的写真)、ステージド・フォト(演じられた写真)、プライベート・フォト						
	9		＜1980/90年代＞コンストラクティッド・フォト(構成的写真)、ステージド・フォト(演じられた写真)、プライベート・フォト④ 感想文を書き、提出						
	10		＜2000年代＞ドキュメンタリー写真の現在						
	11		＜2000年代＞ドキュメンタリー写真の現在 ⑤感想文を書き、提出						
	12		＜2010年代＞						
	13		＜2010年代＞ ⑥感想文を書き、提出						
後期	1		＜戦争＞戦場の写真家たち						
	2		＜戦争＞戦場の写真家たち ①感想文を書き、提出						
	3		＜戦争＞過去の戦争を撮る写真家たち						
	4		＜戦争＞過去の戦争を撮る写真家たち ②感想文を書き、提出						
	5		＜日本・東京＞						
	6		＜日本・東京＞ ③感想文を書き、提出						
	7		＜アメリカ＞						
	8		＜アメリカ＞ ④感想文を書き、提出						
	9		＜カリブ・中・南米＞						
	10		＜カリブ・中・南米＞ ⑤感想文を書き、提出						
	11		＜アジア＞インドを中心に						
	12		＜アジア＞インドを中心に ⑥感想文を書き、提出						
	13		＜アジア＞中国を中心に						
	14		＜アジア＞中国を中心に ⑦感想文を書き、提出						
	15		＜東ヨーロッパ＞＜PORTRAIT＞						
評価方法		提出した感想文の平均点を成績とする(感想文本数：前期6本、後期7本)							
テキスト 参考書									

2023		区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	フォトクリエイティブ演習 I				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	奥 初起				
授業概要	<p>この授業は、みなさんのクリエイティビティを高めながら作品を制作していきます。年間で五つの課題に対してポートフォリオ（自作の作品集）を制作します。お題は決まっていますが、それぞれの被写体や表現方法はディスカッションを行いながら決めていきます。また、様々な表現方法をインプットしていくための実習も行います。カメラマン、フォトグラファー、作家など呼び方はたくさんありますが、共通して必要なことはそれぞれのクリエイティビティです。そして、それを形にしていくための技術と知識だと私は考えています。皆さんが専門的に学んだ（もしくはこれから学ぶ）ことを活かして作品制作を行っていきましょう。授業のスケジュールは、みなさんの作品制作の進行に合わせて変更する場合があります。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	作品検討	現在までに各自が撮影した写真を持ち寄ったディスカッション/GW課題解説		
	2	講義/実習	GW課題講評/課題①解説/インクジェットプリンターを使ったプリントワーク		
	3	講義/講評	様々な表現方法を知る/課題①作品講評		
	4	作品講評	課題①作品講評		
	5	講評/講義	課題①作品講評/様々な写真集を見る		
	6	作品講評	課題①作品講評		
	7	実習	大判カメラ、中判デジタルカメラを使った撮影		
	8	作品講評	課題①作品講評		
	9	作品講評	ポートフォリオ提出/講評/課題②説明		
	10	実習	Photoshopレタッチ/インクジェットプリンターを使ったプリントワーク		
	11	作品講評	課題②作品講評		
	12	作品講評	課題②作品講評/課題③説明		
	13	作品講評	課題③ポートフォリオ提出、講評、課題④解説		
後期	1	講義/講評	様々な写真集を見る/課題④作品講評		
	2	実習/講評	フィルターワークの実習/課題④作品講評		
	3	作品講評	課題④作品講評		
	4	作品講評	課題④作品講評		
	5	作品講評	課題④作品講評		
	6	作品講評	課題④作品講評		
	7	作品講評	課題④作品講評		
	8	作品講評	課題④作品講評		
	9	作品講評	課題④ポートフォリオ提出、講評、課題⑤解説		
	10	講評/講義	課題⑤作品講評/様々な写真集を見る		
	11	作品講評	課題⑤作品講評		
	12	作品講評	課題⑤作品講評		
	13	作品講評	課題⑤作品講評		
	14	作品講評	課題⑤作品講評		
	15	作品講評	課題⑤ポートフォリオ提出、講評		
評価方法	出席回数、課題の提出頻度、課題内容				
テキスト 参考書					

2023		区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	ルポルタージュ演習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	五十嵐太二				
授業概要	<p>ルポルタージュとは、自分が現場で実際に見聞きした事実に基づいて報告をおこなうことをいい、主に写真と文章が使われます。</p> <p>この授業では課題（ルポ）をメインに、①そもそも自分は何に関心があるのか、また、問題意識を持つには何が必要なのか、②取材準備とリサーチ方法、③企画書作成、④現場取材（撮影＋取材ノート）、⑤編集（写真の選択、文章作成）、⑥発表、も考えていきます。</p> <p>写真学生が苦手とする文章表現の基礎も学びます。ブログ発信や雑誌・新聞・Webメディアなどへの掲載にも挑戦します。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	授業内容説明、各自の関心事項を発表、課題（ルポ①～③）の説明		
	2	段取り確認	取材の段取り確認（上述の授業概要①～⑥）		
	3	課題～ルポ①	ルポ① テーマ「身近な人の得意料理」 ⇨ 取材準備作業		
	4	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	5	段取り確認	取材の段取り確認（上述の授業概要①～⑥）		
	6	課題～ルポ②	ルポ② テーマ「クラスメートが写真を始めたわけ」 ⇨ 取材準備作業		
	7	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	8	ゲスト	ゲストスピーカー		
	9	段取り確認	取材の段取り確認（上述の授業概要①～⑥）		
	10	課題～ルポ③	ルポ③ テーマ「身近にある社会問題」 ⇨ 取材準備作業		
	11	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	12	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	13	挑戦！ 世の中に発表	雑誌社・新聞社にコンタクト（ルポ③を雑誌・新聞・Webメディア等に掲載してもらう）（※ 掲載の可否はあくまでも作品の出来具合と先方の判断次第ですが、ぜひ挑戦しよう！）		
後期	1	挑戦！ 世の中に発表	雑誌社・新聞社にコンタクト（ルポ③を雑誌・新聞・Webメディア等に掲載してもらう）（※ 掲載の可否はあくまでも作品の出来具合と先方の判断次第ですが、ぜひ挑戦しよう！）		
	2	ゲスト	ゲストスピーカー		
	3	段取り確認	取材の段取り確認（上述の授業概要①～⑥）		
	4	課題～ルポ④	ルポ④ テーマ「身近にある社会問題」 ⇨ 取材準備作業		
	5	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	6	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	7	課題～食レポ	食レポに挑戦（味や香りなど、目に見えないものを文字と写真で表現する）		
	8	発表・講評	作品発表・講評		
	9	ゲスト	ゲストスピーカー		
	10	文章に親しむ	読書会（好きな本を持ち寄り読書会。ルポルタージュ本、文学作品など自由）		
	11	段取り確認	取材の段取り確認（上述の授業概要①～⑥）		
	12	課題～ルポ⑤	ルポ⑤ テーマ「身近にある社会問題」 ⇨ 取材準備作業		
	13	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	14	発表・講評	作品発表・全員で講評		
	15	まとめ	まとめ		
評価方法	出席、理解度・習熟度、課題作品、授業態度などを総合的に評価。				
テキスト 参考書	授業配布プリント				

2023	※参考資料。2022年度開講実施の内容です。講師調整後、改めて配布されます。	区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
------	--	----	----	----	----------------

科目名	美術造形論			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	土屋 由貴			
授業概要	美術・芸術の表現方法や考え方について学びます。 各テーマに沿った講義と実習を繰り返し、論理と感覚の体験を通して美術的なものの見方を知っていきます。 作品の表現技法やメディア、そして美術を通したものの捉え方を知ることで各自の写真表現の可能性と他者の作品への理解を広げることを目指します。 歴史の中から今日的な表現まで、写真以外の絵画や立体作品、現代美術などの様々な作品に触れることで視野を広げていってください。 授業の内容は状況に応じて変更の可能性もあります。 特に美術館見学は日程変更の場合もありますが、都度説明します。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	カリキュラム説明	授業内容説明、スケジュール説明、講師自己紹介	
	2	歴史	美術史について	
	3	歴史	美術史について	
	4	美術館見学	見学～レポート提出	
	5	メディア、道具、技法	画材について知る	
	6		＜実習＞画材について体験する	
	7	主題と構図について	肖像、風景、静物、抽象について知る	
	8		＜実習＞	
	9	空間について	遠近法、視点について知る	
	10	形について	彫刻、抽象について知る	
	11	形について	＜実習＞	
	12	光と影	光の効果、意味	
	13	光と影	＜実習＞	
後期	1	説明、発表	授業内容説明、美術館見学発表	
	2	素材、技法について	質感、現代的な表現について知る	
	3		＜実習＞ 1	
	4		＜実習＞ 2	
	5	色彩について	明度色相彩度、色相環、色の働きについて知る	
	6		＜実習＞	
	7	時間について	映像、写真、パフォーマンス、音楽、メディアアートについて知る	
	8		＜実習＞	
	9	美術館見学	見学～レポート提出	
	10	インスタレーション	インスタレーションについて知る	
	11	空間と写真	写真をインスタレーションする 制作	
	12		写真をインスタレーションする 制作	
	13		写真をインスタレーションする 発表	
	14		写真をインスタレーションする 講評	
	15	まとめ	まとめ	
評価方法	出席、課題作品評価、課題制作過程評価			
テキスト 参考書	参考になるテキストなどは、都度授業内で紹介していきます。			

2023		区分		必修		対象		I 部全学年 選択科目	
科目名		デジタル表現演習							
開講期		前後期			単位数		6		
講師名		坂口 トモユキ							
授業概要		作品制作において撮影から編集、作品発表のアウトプットにいたるまで、デジタル・ネット社会の利点を活かした課題に取り組みます。 毎日写真をアップする毎日写真tumblr課題、デジタル合成を前提としたランドスケープ課題、写真作品としての4K動画課題、そして前期後期ともにオンデマンド印刷とSNSネット通販を想定した写真冊子（zine）を制作します。加えて通年平常課題として、各授業での課題制作物や自由制作作品を日常的に作品用SNS（TumblrまたはInstagram）に継続的にアップ更新します。 ※各課題においてデジタルカメラとAdobe Photoshop、Lightroom Classic、InDesign、Premiere Proの所有が前提となります。							
授業計画		回数	主題・目的	授業予定					
前期	1	webで見せる写真	オリエンテーション 課題説明						
	2		tumblrで毎日写真1 撮影実習とアップロード公開						
	3		tumblrで毎日写真2 プレゼン講評						
	4		2枚組・5枚組で見せる写真作品						
	5		2枚組・5枚組で見せる写真作品						
	6	デジタルレタッチ	デジタルランドスケープ1 作品研究						
	7		デジタルランドスケープ2 個人制作・アドバイス						
	8		作品発表と講評						
	9	前期 写真冊子(Zine)	組写真としてのスライドショー制作1						
	10		組写真としてのスライドショー制作2						
	11		8Pの写真冊子(zine)制作：表紙を作る 企画・デザイン						
	12		8Pの写真冊子(zine)制作：編集・デザイン						
	13		8Pの写真冊子(zine)制作：印刷・製本と講評						
後期	1	スライドショー動画	スライドショー動画						
	2		講評						
	3	写真作品としての動画制作	動画テスト制作						
	4		動画テスト制作						
	5		写真作品としての4K動画作品						
	6		写真作品としての4K動画作品						
	7		写真作品としての4K動画作品						
	8		講評						
	9	後期 写真冊子(zine)印刷制作	企画構成1						
	10		企画構成2						
	11		編集と表紙デザイン1						
	12		編集と表紙デザイン2						
	13		データ作成・データ入稿・ネット印刷会社への入稿発注						
	14		完成冊子 商品撮影						
	15		講評						
評価方法		課題作品と授業実習への積極性を合わせて評価。毎授業終了時にその日の実習制作物を提出して出席確認と平常評価をつける。前期・後期共に全ての課題の提出を必須とし、未提出課題がある場合不合格とする。							
テキスト参考書		テキストは、随時配付							

2023	※参考資料。2022年度開講実施の内容です。4月に改めて配布されます。	区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
------	-------------------------------------	----	----	----	----------------

科目名	メディア論			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	伊藤 慈晃			
授業概要	皆さんは、カメラのレンズを向けられたとき、どこか身構えるような、緊張するような嬉しいような、そんな感じを持ったことはありませんか？それは、目を合わせるのと何が違うのでしょうか？あるいは芸能人が「偉い人」と思うのはなぜでしょう？なぜ写真を見て「なつかしさ」を覚えるのでしょうか？実はこうしたちょっとした心の動きには、メディアと人との関わりという長い歴史の積み重ねが刻印されています。この講義を通して、様々なメディアの歴史や社会との関わりを眺めながら、「メディア」というものが持つ奇妙さを紐解いていきたいと思います。 なお、この講義ではワークショップなどを通じて、皆さんの考えも発信して頂きます。また、コロナの状況にもよりますが、前後期それぞれ1度はフィールドワークも入れる予定です。そのため、講義内容の変更もありますので、あらかじめご了承ください。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	導入	WS 相互行為論とサバイバル	
	2	メディア論の基本	メディアとは何か？	
	3		メディアの理論	
	4		プロパガンダと戦争	
	5		WS カルチュラル・スタディーズとCM分析	
	6	メディアの歴史	印刷革命	
	7		印刷革命と魔女狩り	
	8		錦絵と新聞	
	9		初期映画	
	10	テレビの歴史	テレビと祝祭	
	11		嗤いと感動のテレビ	
	12		WS バブルと広告	
	13	まとめ	課題コンテスト	
後期	1	政治とメディア	ポスト・トゥルース時代	
	2		9. 11	
	3		3. 11	
	4		WS 陰謀論と隠された真実	
	5	宗教としてのメディア	メディアとしての宗教	
	6		死者とAI	
	7		VRと夢	
	8		WS うわさの理論	
	9	排除とメディア	いじめと学校の怪談	
	10		ネットロアと釣り師	
	11		ゼロ年代の想像力	
	12		WS 10年代の想像力	
	13	写真	故人サイト	
	14		写真と批評	
	15	WS	課題コンテスト	
評価方法	前後期ともにコメント・ペーパーとレポートを予定しています。評価はそれらと、授業への参画度（単なる出席率ではない）を踏まえて行います。			
テキスト 参考書	購入必須ではありませんが、参考書として、以下の文献を提示します。 吉見俊哉編『メディア文化論[改訂版]』, 2012有斐閣。			



2023	区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	ムービー制作演習			
開講期	前後期	単位数	6	
講師名	小島 真也			
授業概要	ムービーや映像ではなく「動画」と言われ、撮ることも観ることも身近になった昨今、写真家にもスチルだけではなくムービーの感覚が要求されている。 スチル（写真）とムービー（動画）では、コンテンツを制作する上で多くの違いがある。 本講座では、タイプの異なる3つのテーマを実際に制作することでムービーの理解を深めることを目的とする。 1. ミュージックビデオ（楽曲は自由） 2. 対談コンテンツ（TV番組、YouTube風） 3. コマーシャル ムービー（15～30秒） ※校内デジタルサイネージによる発表＆投票を企画中			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	概 論	ムービー制作のワークフロー＋ムービー基礎知識＋撮影の基本設定	
	2	ミュージック ビデオ	制作方法とMV構成（メモ、コンテ）	
	3		収録（スタジオ、自宅など）	
	4		編集/Premiere Proの基本	
	5		編集基本（MVのセオリー、カラコレ）	
	6		編集実習	
	7		講評	
	8	映像技術の基礎	撮影の基礎	
	9		ライティング基礎	
	10		録音の基礎	
	11	対談コンテンツ （グループ制作）	対談コンテンツの企画	
	12		対談コンテンツの構成（1）	
	13		対談コンテンツの構成（2）/構成台本作成	
後期	1	対談コンテンツ （グループ制作）	収録前準備/技術確認と役割分担	
	2		収録（スタジオ）	
	3		編集実習（1）	
	4		編集実習（2）	
	5		講評	
	6	コマーシャル ムービー 学内サイネー ジ発表	企画（1）	
	7		企画（2）	
	8		構成（1）/ナレーション原稿も	
	9		構成（2）	
	10		台本（画コンテ）作成	
	11		撮影技術の確認（つながる画を撮る、クロマキー合成）	
	12		収録（1）/スタジオ他	
	13		収録（2）/スタジオ他	
	14		編集実習（BGMなど）	
	15		講評	
評価方法	制作過程での取り組みと提出課題、仕上がり評価			
テキスト 参考書	SchooSwingにて、レジュメをプレビュー			

2023		区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	文章表現演習 I				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	山岸 宏之				
授業概要	写真(ビジュアル)と言葉(文章)の関係性について考え、言葉が写真のコミュニケーションを高めたり、写真という表現のフィールドが広がることを理解してもらい、さまざまなテーマについて演習を行います。書くことは考えること、自分と向き合うこと、さまざまなアングル(視点)からモノ・コト・ヒトを考察すること。どう書くか(どう上手く書くか)よりも、なにを伝えたいかを自分の言葉で書くことを目標とします。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	講義	授業の方針説明／写真と言葉の関係について		
	2	演習	「自分と写真」について書いてみる～写真を始めたきっかけ、本校への入学動機など		
	3	演習	「自分と写真」について書いてみる～書く／提出		
	4	演習	「卒業後の希望」について書いてみる～どんな写真を撮っていききたいのかなど		
	5	演習	「卒業後の希望」について書いてみる／書く・提出		
	6	演習	「写真と広告」 ポスターと写真とコピー ～ キャッチフレーズを書く		
	7	演習	「写真と広告」 新聞広告と写真とコピー ～ キャッチフレーズとボディコピーを書く		
	8	演習	写真と言葉 ～写真を撮り、言葉をつける		
	9	演習	写真と言葉 ～発表		
	10	演習	俳句・短歌について		
	11	演習	俳句・短歌をつくる		
	12	演習	俳句・短歌 ～発表		
	13	講評	前期のまとめ		
後期	1	講義	自分の身近な人や街を写真と言葉で魅力的に表現する／自分の写真集、写真展に関する言葉や文章を作る		
	2	演習	身近な人を取材し、写真と文章で魅力的に表現する		
	3	演習	身近な人を取材し、写真と文章で魅力的に表現する ～ プレゼンテーション・提出		
	4	演習	自分の住んでいる街を写真で切り取り、文章をつける		
	5	演習	自分の住んでいる街を写真で切り取り、文章をつける ～ プレゼンテーション・提出		
	6	演習	自分の写真集(ポートフォリオ)や写真展のタイトルを考える		
	7	演習	自分の写真集(ポートフォリオ)や写真展のタイトルを考える ～ 発表・提出		
	8	演習	自分の写真集(ポートフォリオ)に載せる文章を書く		
	9	演習	自分の写真集(ポートフォリオ)に載せる文章を書く ～ 発表・提出		
	10	演習	時事問題について		
	11	演習	時事問題について書く ～発表		
	12	演習	時事問題について書く ～発表		
	13	演習	新しい年の自分のテーマ		
	14	演習	自分のテーマ(スローガン)をつくる ～発表		
	15	講評	まとめと講評		
評価方法	課題の提出状況および表現内容を総合的に判断します。また、取り組みのプロセスや姿勢の評価という点から出席状況も重視します。				
テキスト 参考書	授業内配布プリント、関連資料を適宜参照				

2023	区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	風景写真演習			
開講期	前後期	単位数	6	
講師名	秦 達夫			
授業概要	このジャンルは、自由にライティングを調整したり被写体とコミュニケーションを取ったり、状況を掌握しながらの撮影はできません。故に相手任せの撮影と思われがちですが、季節や天候を読み太陽の動きを観察しライティングやアプローチを考察してプランニングし撮影を進めて行きます。また、風景撮影は視覚から得られる情景を複写するのではなく構図・遠近感をコントロールし独自の視点を作り出す事が求められます。現場をコントロールできないが故に個々が洞察しながら行動する事が大切です。そのためにはレンズワークが必要であり機材への知識や理解が深くなければなりません。これらを実行するのに必要なロケハンや準備しなくてはならない機材について学んで行きます。学習のフィールドは授業内校舎内だけの空間ではなく自然・都市風景と考え授業時間以外でも撮影を試みて行きます。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	オリエンテーリング	自己紹介 授業の進め方説明 講師作品紹介	
	2	写真の基礎	露出、カメラ設定、撮影機材等々の説明	
	3	夕陽の撮り方	夕陽撮影実習	
	4	添削	夕陽実習の添削	
	5	構図・光	構図の考え方 光の考え方	
	6	レンズワーク	レンズワークについて	
	7	マクロ&フィルター	クローズアップ撮影方法&フィルターの話 (KANI伊藤氏)	
	8	レンズワーク	撮影実習 広角と望遠の違いを撮影する	
	9	写真展	写真展会場でギャラリートーク (キヤノンギャラリー銀座)	
	10	添削	構図・レンズワークについて 添削 夏休み課題発表	
	11	添削	夏休み課題添削	
	12	データの整理	写真データの整理と概念	
	13	まとめ	テスト復習。構図・光・レンズワークを活かした作品添削	
後期	1	オリエンテーリング	後期の概要説明	
	2	露出	絞り・シャッター速度の理解を深める	
	3	校外実習	校外の実地で実際に撮影を行う。	
	4	校外実習	校外の実地で実際に撮影を行う。	
	5	紅葉	紅葉の撮り方	
	6	機材	プロショップ見学 (プロショップ銀一)	
	7	太陽と月	太陽・月を理解し作品に活かす	
	8	添削	絞り・シャッター速度を活かした作品添削	
	9	逆光と影	逆光の効果 影の活かし方	
	10	紅葉撮影実習	撮影実習	
	11	星景撮影	星の撮り方	
	12	イルミネーション	撮影実習	
	13	添削	冬休み課題の添削	
	14	写真の見方	写真のチェックすべきポイントとは	
	15	まとめ	自分の自信作	
評価方法	前期は筆記テストにて評価します。 後期は提出物にて評価します。			
テキスト 参考書				

2023		区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	写真科学				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	船生 望				
授業概要	<p>写真の表現とは、感性に基づく主観的な要素が主体となって行われます。一方、その制作過程においては、写真制作に関わる機器・材料、処理プロセスなど知識に基づく客観的な要素も大きく関わってきます。</p> <p>本授業は、後者の客観的な要素に主眼を置き、写真とより深く関わるための理論的知識の付与を目的としています。前期は、写真システムの主要な事項について講義を行います。後期は、写真関連の資格・検定試験において過去に出題された問題の演習を通じて、写真の専門的な知識への理解を深めていきます。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	説明／講義	ガイダンス/写真ができるしくみ		
	2	講義	写真の技術的な変遷		
	3	講義	撮影のメカニズム		
	4	講義	デジタルの画像		
	5	講義	色と光		
	6	講義	カメラ		
	7	講義	レンズ		
	8	講義	露出と露出計		
	9	講義	写真用人工光源		
	10	講義	コンピュータと周辺機器・①		
	11	講義	コンピュータと周辺機器・②		
	12	講義	前期授業の復習		
	13	まとめ	前期授業のまとめと筆記テスト		
後期	1	講義	写真の主要な事項		
	2	演習	写真技能検定 3 級学科試験		
	3	演習	フォトマスター検定 3 級		
	4	演習	フォトマスター検定 3 級		
	5	演習	写真技能検定 2 級学科試験		
	6	演習	写真技能検定 2 級学科試験		
	7	演習	フォトマスター検定 2 級		
	8	演習	フォトマスター検定 2 級		
	9	演習	写真技能検定 1 級学科試験		
	10	演習	写真技能検定 1 級学科試験		
	11	演習	写真技能検定 1 級学科試験		
	12	演習	フォトマスター検定準 1 級		
	13	演習	フォトマスター検定準 1 級		
	14	講義	フォトマスター検定準 1 級		
	15	まとめ	まとめ		
評価方法	筆記テストと平常点				
テキスト 参考書	授業内配布プリント				

2023		区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	ビジュアルデザイン				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	羽立 孝				
授業概要	デザイン作業に欠かせない存在である「Illustrator」を中心に、アプリケーションの習得とデザイン力の向上までを身につけます。また、「InDesign」習得も取り入れ、ポートフォリオ、作品集の制作まで行えることを目標とします。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	授業ガイダンス	アプリケーションの特徴と基本操作		
	2	Illustrator1	インターフェイス／描画ツール／オブジェクトの選択・移動・複製		
	3	Illustrator2	塗りと線／カラー・グラデーション・パターン		
	4	Illustrator3	塗りと線／鉛筆ツール／ブラシツール／オブジェクトの変形		
	5	実習	課題制作、フィードバック		
	6	Illustrator4	文字ツールとテキスト／文字パネル		
	7	Illustrator5	レイヤーの管理／グループ化と編集モード		
	8	Illustrator6	文字ツールとテキスト／文字パネル		
	9	実習	課題制作、フィードバック		
	10	Illustrator7	段落パネル文字タッチツール／パス上文字ツール段組・タブの設定		
	11	Illustrator8	ガイド・整列パスファインダー／アピアランスパネル		
	12	Illustrator9	効果メニュー／画像の配置／アウトライン化／トンボ		
	13	実習	課題制作、フィードバック		
後期	1	授業ガイダンス	アプリケーションの特徴と基本操作		
	2	制作	課題制作① 8～12PのZINEを制作、発注、製本する。		
	3	制作～発注			
	4	講評			
	5	制作	課題制作① 8～12PのZINEを制作、発注、製本する。		
	6	制作～発注			
	7	講評			
	8	制作	課題制作① 8～12PのZINEを制作、発注、製本する。		
	9	制作～発注			
	10	講評			
	11	制作	課題制作① 8～12PのZINEを制作、発注、製本する。		
	12	制作～発注			
	13	講評			
	14	総講評	ゲスト講師と総評		
	15	予備日			
評価方法	課題の提出状況、授業の出席状況、授業内容の理解度等を考慮します。				
テキスト 参考書	適宜、資料・プリント等を配布します。				

2023		区分		必修		対象		I 部全学年 選択科目	
科目名		近現代アート史／写真美術史							
開講期		前後期			単位数		6		
講師名		鳥原学							
授業概要		<p>近現代アート史は、主に写真発明以降の美術の諸相を扱う科目です。写真がアートに与えた影響、アートが写真に与えた影響を考えます。その目的は、PA科学生が自分の作品制作について考える多様な視点を育てることです。</p> <p>アート史について理解するには、その作品や作家が生まれた文脈を知ることが必要です。また何より、実際の作品をその目で見なければ。その知識は活かせません。そこでこの授業では指定したテキストを使用しますが、中心となるのは展示会の鑑賞とそのレポートです。講師は展示会を指定しますので、そのレポートを発表してもらいます。指定する展示について、調べ、自分の考え方を述べることを通じて、近現代のアート史を身近なものとして感じてもらいます。</p> <p>期末には、これまで鑑賞した展示のなかからテーマを選び、考察を深めたレポート課題を発表してもらいます。</p>							
授業計画		回数	主題・目的	授業予定					
前期	1	アート史の基礎	ガイダンスと展示鑑賞 東京国立近代美術館集合						
	2	課題発表	前回の展示についてのレポートの発表とディスカッション						
	3	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）						
	4	課題発表	レポート発表とディスカッション						
	5	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）						
	6	鑑賞	予定：アーティゾン美術館						
	7	課題発表	レポート発表とディスカッション						
	8	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）						
	9	鑑賞	予定：東京国立近代美術館						
	10	課題発表	レポート発表とディスカッション						
	11	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）						
	12	鑑賞	予定：国立新美術館						
	13	課題発表	レポート発表とディスカッション						
	14	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）						
	15	期末発表	期末課題の発表						
後期	1	鑑賞	予定：東京都写真美術館						
	2	課題発表	レポート発表とディスカッション						
	3	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）						
	4	鑑賞	予定：東京都現代美術館						
	5	課題発表	レポート発表とディスカッション						
	6	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）						
	7	鑑賞	未定						
	8	課題発表	レポート発表とディスカッション						
	9	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）						
	10	鑑賞	未定						
	11	課題発表	レポート発表とディスカッション						
	12	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）						
	13	鑑賞	未定						
	14	課題発表	レポート発表とディスカッション						
	15	期末発表	期末課題の発表						
評価方法		出席回数とレポートの内容から総合的に判断							
テキスト 参考書		デイヴィッド・ホックニー マーティン・ゲイフォード『絵画の歴史 洞窟壁画からiPadまで <増補普及版>』（青幻舎）							

2023		区分	必修	対象	I 部全学年 選択科目
科目名	ダークルーム				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	松井 寛泰				
授業概要	この授業は伝統的な銀塩モノクロプリントの授業です。モノクロフィルムを使い、撮影、現像、プリントまでの技術を習得し、デジタル・銀塩問わず幅広い意味での写真の見せ方や伝え方を考察・体得することを目的とした授業です。前期ではモノクロフィルムの現像からプリントまでの流れを把握し、写真表現の基礎を学んでいきます。前期、後期共に撮影課題に沿った作品作りを行ってまいります。授業内容は基本的に暗室での実技が中心になります。また履修者の習熟度などにより一部進行に変化が生じる場合があります。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	ガイダンス	機材説明 プリント手順 オリジナルプリントとは/撮影		
	2	講義	フィルム現像デモンストレーション/リールに巻く練習/機材		
	3	現像	フィルム現像		
	4	講義	プリントデモンストレーション/コンタクト/引き延ばし/機材		
	5	プリント	コンタクトプリント		
	6	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整1		
	7	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整2		
	8	現像	フィルム現像		
	9	プリント	焼き込み/覆い焼き		
	10	プリント	コントラストコントロール		
	11	現像	フィルム現像		
	12	プリント	プリント作業		
	13	講義	前期のまとめ/前期課題講評		
後期	1	ガイダンス	後期の授業の流れについて／後期課題について		
	2	現像	フィルム現像		
	3	プリント	プリント作業		
	4	特殊技法	ソラリゼーション		
	5	プリント	プリント作業		
	6	プリント	プリント作業		
	7	講義	スポッティング／サイアノタイプ説明		
	8	講義	サイアノタイプ		
	9	プリント	プリント作業		
	10	プリント	プリント作業		
	11	現像	フィルム現像		
	12	プリント	プリント作業		
	13	プリント	プリント作業		
	14	プリント	プリント作業		
	15	講評	後期課題講評		
評価方法	出席日数/提出物/授業態度を総合的に評価します。				
テキスト 参考書					

